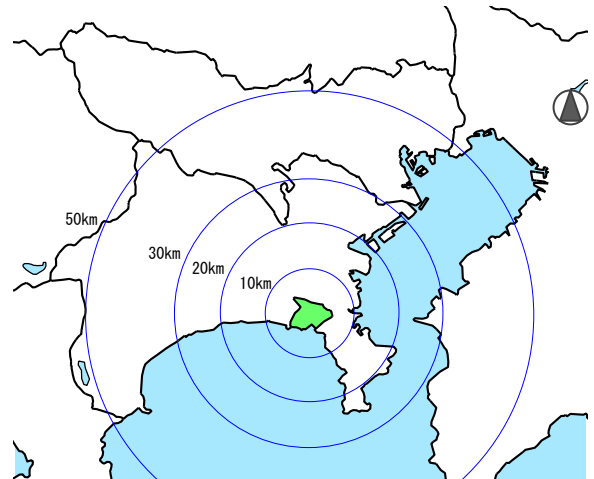


## 2 公共施設の現状と課題

### 2-1 地域特性

#### (1) 位置

本市は神奈川県南東部に、また、三浦半島の基部に位置し、風致に富む緑豊かな丘陵と相模湾を望む美しい海岸線を有しています。市域は、総面積が39.66km<sup>2</sup>、東西8.75km、南北5.20km、周囲35.20kmです。西は藤沢市、東は逗子市、北は横浜市に接しており、市の中心部までは、都心から約50km、横浜からは約20kmの位置にあります。



図表 鎌倉市の位置

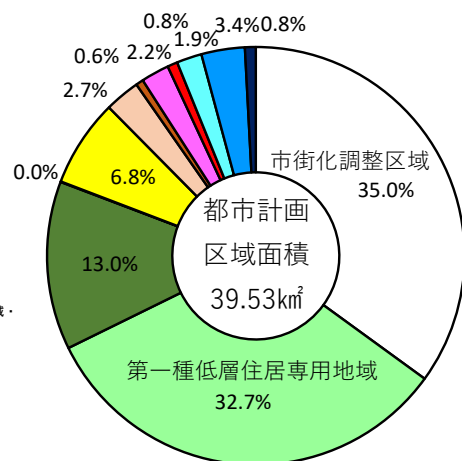
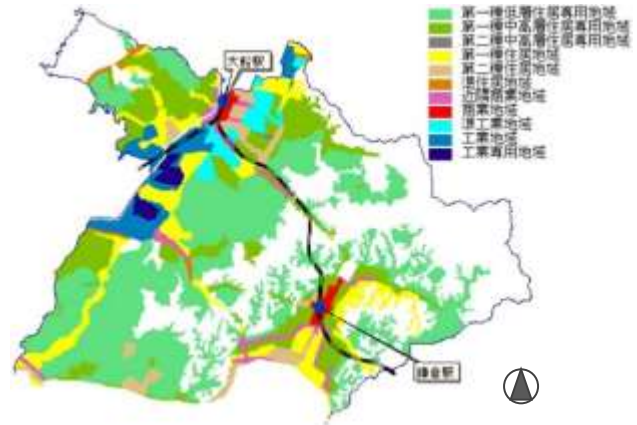
#### (2) 都市構造

##### ① 区域区分

全市域のうち約25.69km<sup>2</sup>が市街化区域、13.84km<sup>2</sup>が市街化調整区域となっています。

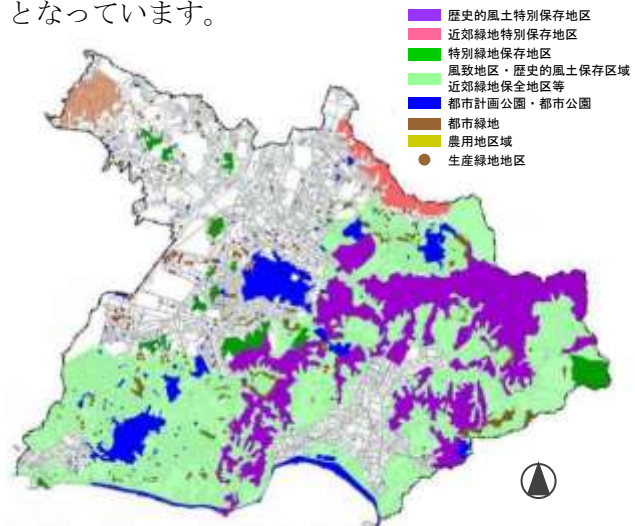
用途地域は、都市の秩序ある発展や住環境保護に資するため、建築物の用途の純化を図ることを目的に定められたもので、本市では計11種類が指定されており、第一種低層住居専用地域が市域の約33%（市街化区域の約50%）を占めています。

また、古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法による指定区域（歴史的風土保存区域）が約9.9km<sup>2</sup>と、市域の約25%を占めています。この区域の多くは緑地で市街地を分節化する都市構造となっており、古都としてのまち並みを醸し出す重要な要素となっています。



(平成28年(2016年)11月1時点)

図表 用途地域と面積割合

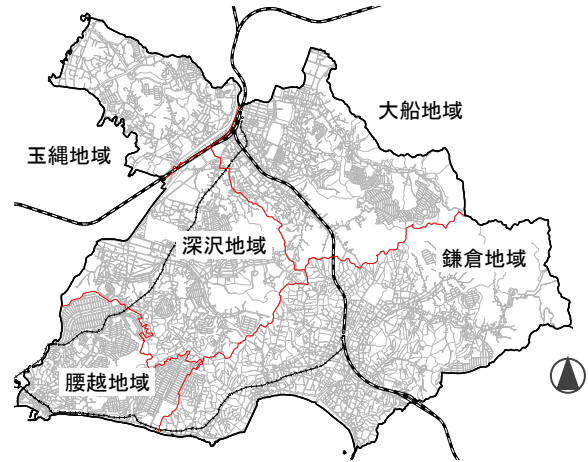


図表 歴史的風土保存区域

## ② 行政地域

本市は、昭和 14 年（1939 年）11 月 3 日に鎌倉・腰越両町が区域を併せて市制を施行し、昭和 23 年（1948 年）1 月 1 日に深沢村が、同年 6 月 1 日には昭和 8 年（1933 年）に玉縄村を編入した大船町を合併し、現在の市域になりました。

このような歴史的な成り立ちから、5 つの行政地域（鎌倉、腰越、深沢、大船、玉縄）に分かれています。



図表 行政地域

## ③ 将来の都市構造

鎌倉市都市マスタープランでは、鎌倉駅周辺、大船駅周辺、深沢地域国鉄跡地周辺の 3 地区を都市拠点とし、都市機能の集積と、市民生活の向上を図る拠点として位置付けています。また、腰越駅周辺地区（腰越漁港及び商店街一帯を含む）、玉縄城跡周辺地区を生活や観光など、地域活性化を推進する拠点として位置付けています。その他、鉄道駅やモノレール駅、主要バス停の周辺などの日常生活の拠点となる地域について、施設の配置や役割、集約する都市機能等を検討していくこととしています。

鎌倉市立地適正化計画では、目指すべき都市の骨格構造として、3箇所の「都市拠点」で都市機能誘導区域を設定したほか、地域生活拠点を設けています。



図表 拠点とゾーン

出典：鎌倉市都市マスタープラン（平成 27 年（2015 年）9 月）

また、鎌倉市公的不動産利活用推進方針では、鎌倉、大船、深沢の3つの拠点が特性を生かした役割分担をこなし、互いに影響しあうことで、鎌倉市の魅力に磨きをかけることが重要であるという考え方に沿って、各拠点の視点とコンセプトを整理しています。

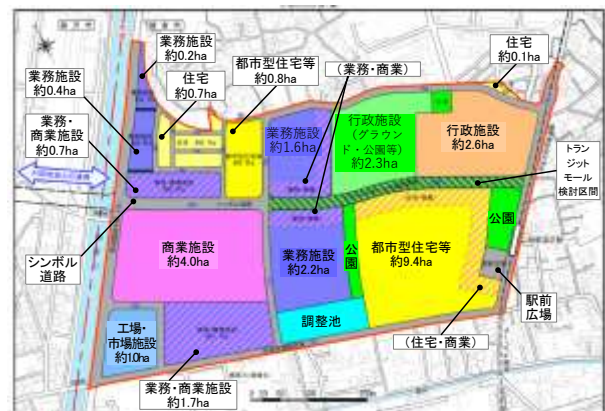


図表 拠点とゾーン、ネットワークの位置※

出典：鎌倉市公的不動産利活用推進方針（平成30年（2018年）3月）

※鎌倉市公的不動産利活用推進方針（平成30年（2018年）3月）における、「拠点とゾーン、ネットワークのまちづくりの新たな視点とコンセプト」の考え方に、鎌倉市公的不動産利活用推進方針以降に策定した計画の内容や考え方などを反映。

深沢地域整備事業（深沢地域国鉄跡地周辺）は、平成30年（2018年）12月に鎌倉市深沢地区と藤沢市村岡地区のまちづくりに向け、両地区の土地区画整理事業を、新駅設置を含む一体施行で取り組むことを鎌倉市、藤沢市、神奈川県との3者で基本合意し、令和3年度（2021年度）に都市計画決定、令和5年度（2023年度）に事業計画の認可を受け、事業を進めています。



図表 深沢地域整備事業の土地利用計画（案）

出典：深沢地域整備事業土地利用計画（案）（令和2年（2020年）3月）

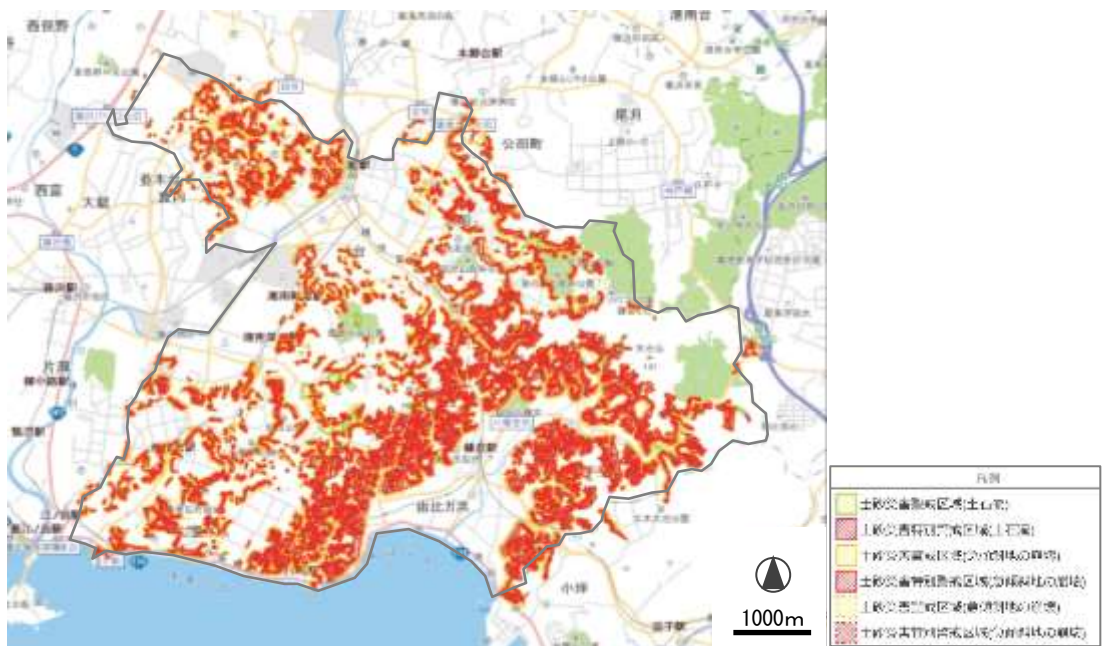
### (3) 地形特性からみた災害発生の可能性

本市は、山や海等豊かな自然景観に恵まれた都市である一方で、地形特性から地震、津波、浸水害、土砂災害等の自然災害で大きな被害を受ける可能性があります。急傾斜の斜面では、落石、土砂災害の危険があり、木造住宅が密集する市街地では、建物の倒壊や火災に見舞われるリスクがあります。また、海岸部では津波の到達に注意を要するほか、海抜の低い扇状地のため、津波が川を遡上して氾濫被害が拡大するリスクもあります。



図表 津波防災情報マップ

出典：鎌倉市防災情報マップ



図表 土砂災害防災情報マップ

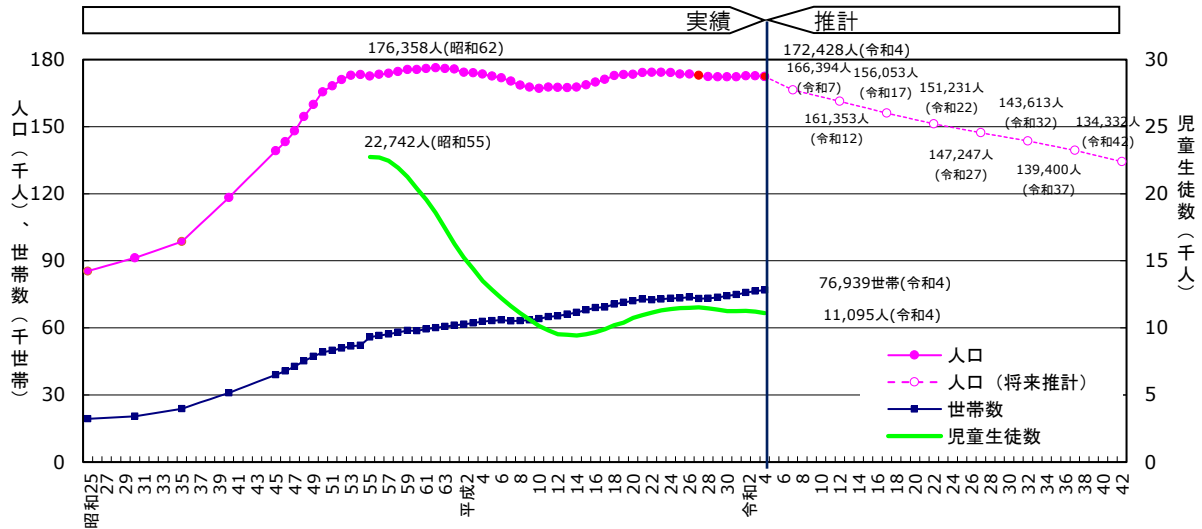
出典：鎌倉市防災情報マップ

#### (4) 人口動向

##### ① 人口の推移

本市では、昭和 30 年代後半から大規模な宅地開発などにより人口が急増し、昭和 62 年（1987 年）には 176,358 人となりピークを迎えました。その後、減少しましたが、平成 14 年（2002 年）から人口増加が続き、令和 4 年（2022 年）10 月 1 日時点は 172,428 人とピーク時の 2.2% 減にとどまっています。

一方、国立社会保障・人口問題研究所による令和 42 年（2060 年）までの将来人口推計では、平成 27 年（2015 年）から令和 42 年（2060 年）まで減少が続き、令和 42 年（2060 年）には 134,332 人と、令和 4 年（2022 年）に比べ 22% 減となると推計されています。

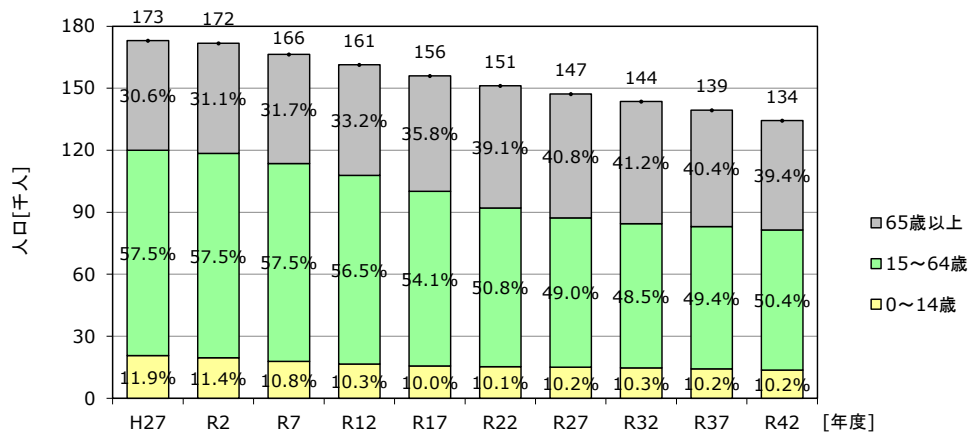


図表 人口及び世帯数の推移

出典：令和 4 年（2022 年）までの人口・世帯数（10 月 1 日）、市立小中学校の児童生徒数：鎌倉の統計  
 令和 7 年（2025 年）から令和 42 年（2060 年）までの将来人口推計：日本の地域別将来推計人口（平成 30 年（2018 年）3 月推計）、国立社会保障・人口問題研究所

国立社会保障・人口問題研究所による年齢 3 区分別の将来人口推計では、生産年齢人口（15～64 歳）及び年少人口（0～14 歳）は、今後減少傾向になると推計されています。

一方、高齢者人口は増加傾向にあり、令和 42 年度（2060 年度）には、市の人口の約 40% を占めると推計されています。



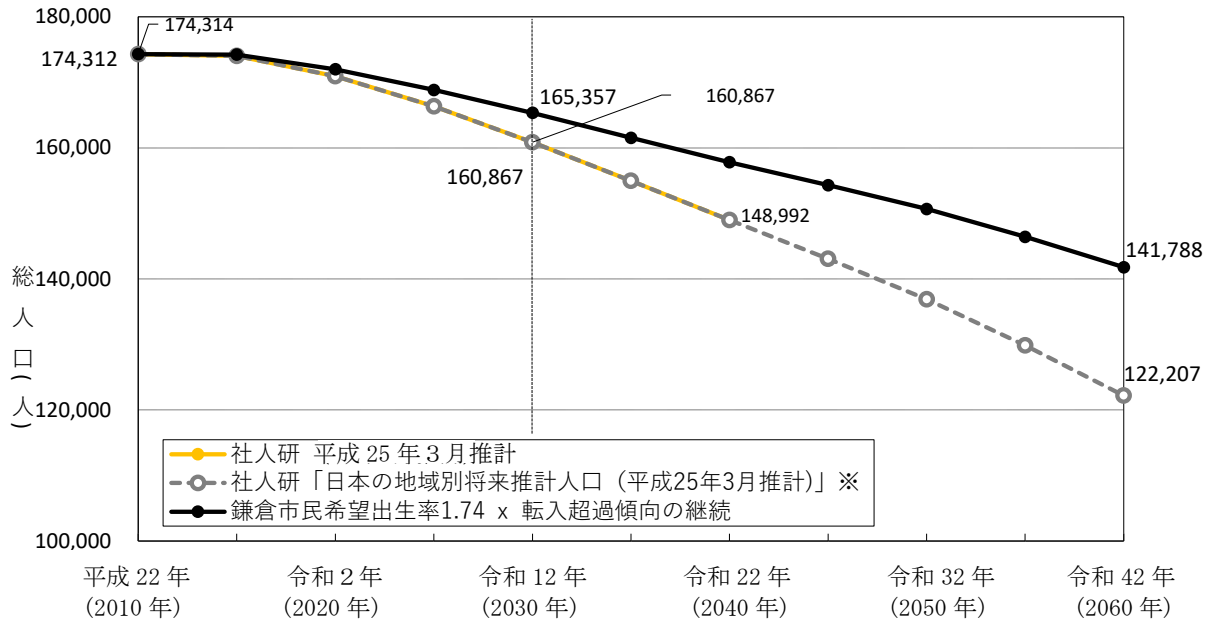
図表 年代別人口の割合と将来推計

出典：日本の地域別将来推計人口（平成 30 年（2018 年）3 月推計）、国立社会保障・人口問題研究所

## ② 人口の将来展望

本市の「鎌倉市人口ビジョン（平成 28 年（2016 年）3 月策定）」においては、「働くまち」、「住みたい・住み続けたいまち」鎌倉としての魅力を確立し、「出生率の向上による自然減の克服」と「転入超過の継続」が叶えられた場合、本市における将来人口は次のとおり描かれています。

この「鎌倉市人口ビジョン」における市全体の人口は令和 12 年（2030 年）に 165,357 人、令和 42 年（2060 年）141,788 人となる想定です。



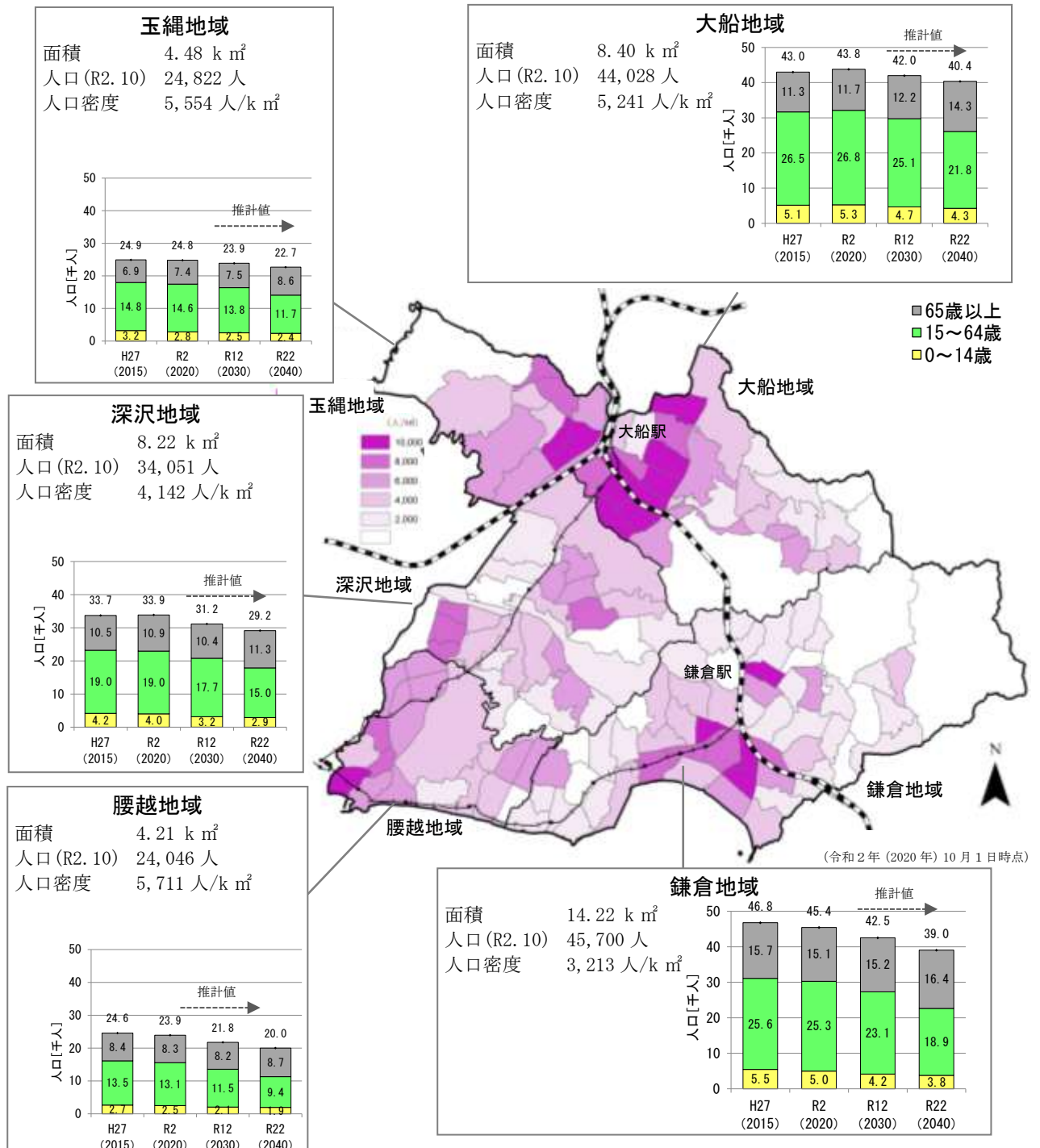
図表 鎌倉市の将来人口推計

出典：鎌倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成 28 年（2016 年）3 月）※一部加筆

### ③ 地域別の人口の推移と人口密度

令和2年（2020年）10月1日時点の町丁別の人口密度では、大船駅の東西、鎌倉駅南側、湘南モノレール沿い等に人口密度の高い地域がみられます。

行政地域別の将来人口推計（推計期間は令和22年（2040年）まで）では、平成27年（2015年）以降すべての地域で人口が減少すると推計されており、特に鎌倉地域の減少割合が大きくなっています。



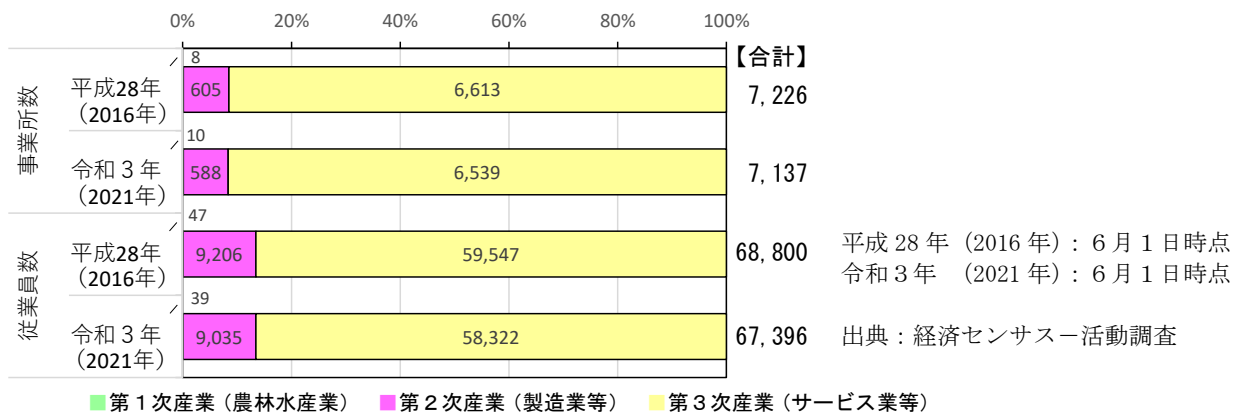
出典：国勢調査（平成27年（2015年）・令和2年（2020年））  
第3次鎌倉市総合計画第4期基本計画 参考資料

図表 町丁別の人口密度と地域別の将来人口推計

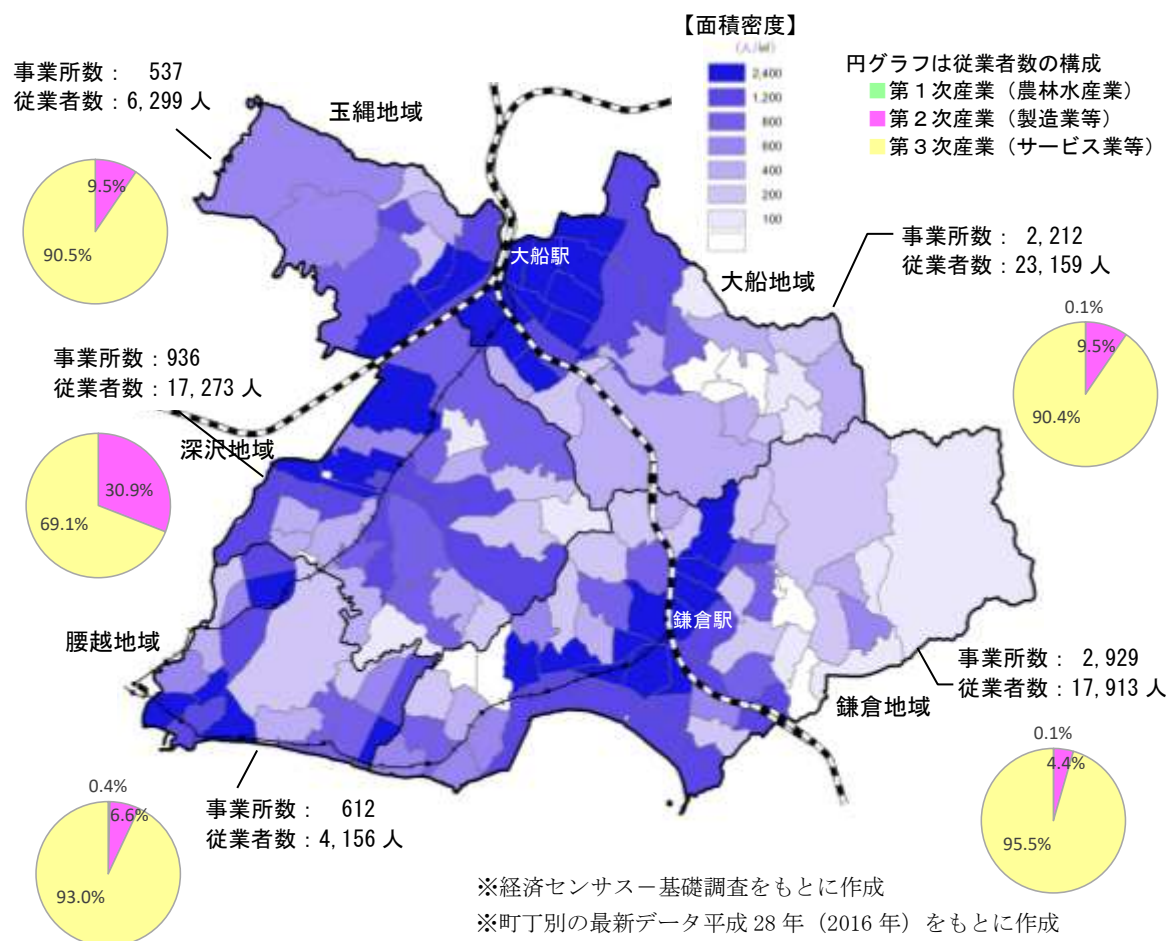
## (5) 産業構造

令和3年(2021年)時点の市内の事業所数は7,137事業所、従業者数が67,396人であり、従業者数の内訳は、第1次産業が0.1%、第2次産業が13.4%、第3次産業が86.5%と、第3次産業中心の産業構造となっています。

従業者の分布は商業施設の多い鎌倉駅周辺や大船駅周辺の他、大規模な工場がある上町屋の密度が高くなっています。



図表 事業所数と従業者数



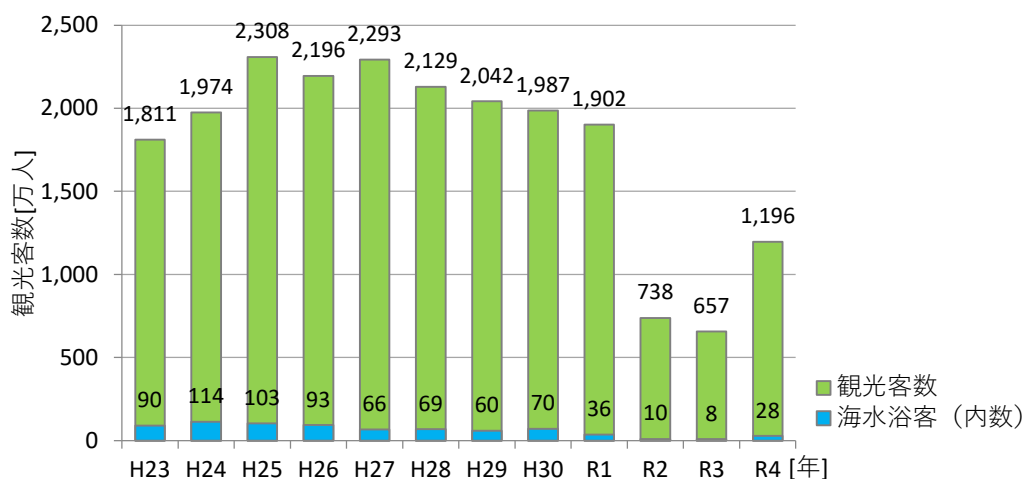
図表 平成28年(2016年)の町丁別の従業者数の密度等



## (6) 観光

本市は、美しい自然環境と貴重な歴史的遺産に恵まれた観光地として親しまれ、平成 25 年（2013 年）以降は減少傾向ではあるものの、令和 4 年（2022 年）には国内外から延べ約 1,196 万人の観光客が訪れています。

観光の特徴としては、「人口・市域の面積に対して多くの観光客が訪れている」、「訪れる観光客が、地域的・季節的・時間的に見て偏りがある」、「繰り返し訪れる観光客が多く、再来訪意識が高い」、「首都圏内の日帰り観光地としての性格が強い」などが挙げられます。



※令和 2 年（2020 年）及び令和 3 年（2021 年）は、新型コロナウイルス感染症の影響により、海水浴場を開設しなかったこともあり延入観光客数が減少した。出典：観光客数及び海水浴客数（鎌倉市ホームページ）

図表 延入込観光客数の推移

図表 国内主要観光都市の延入込観光客数の比較

	令和 4 年度 (2022 年度) 延入込客数 (千人)	面積 (km <sup>2</sup> )	人口 (人)	面積当たりの 延入込客数 (千人/km <sup>2</sup> )	人口当たりの 延入込客数 (人)
鎌倉市	11,958	39.66	172,438	302	69
京都市	43,612	827.83	1,387,356	53	31
奈良市	9,294	276.84	352,045	34	26
日光市	8,723	1,449.83	77,932	6	112

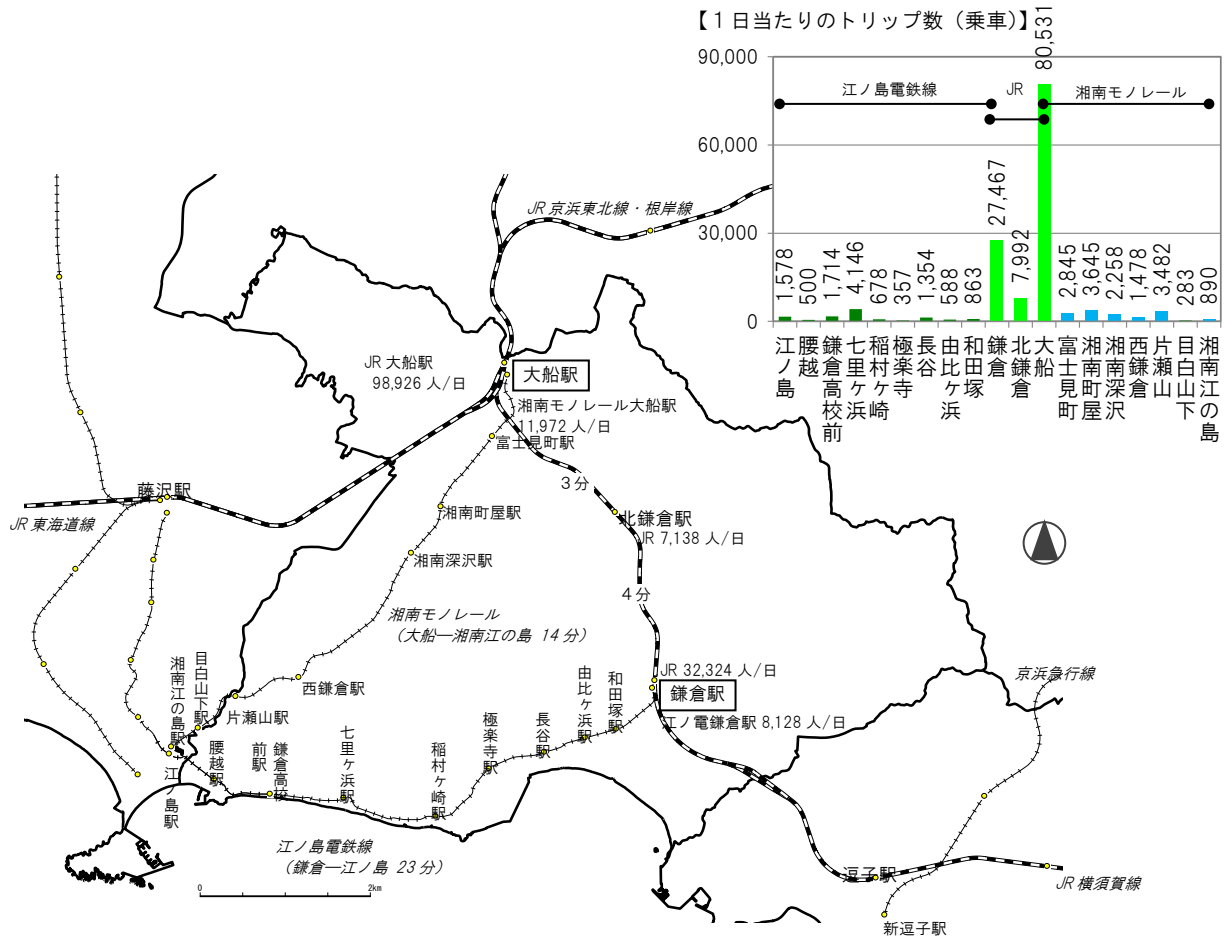
※各市の人口は令和 4 年（2022 年）10 月 1 日時点

## (7) 交通

### ① 公共交通網

鉄道はJR（東海道線、横須賀線、京浜東北線・根岸線）と江ノ島電鉄、湘南モノレールが運行しており、市内にJR 3 駅、江ノ島電鉄 9 駅、湘南モノレール 6 駅があります。1 日あたりの乗車人数は、多くの公共交通機関の結節点である大船駅が最も多く、ついで、JR と江ノ島電鉄の結節点である鎌倉駅が多くなっています。

バスは大船駅と鎌倉駅を起点とした、駅間や市内を循環する路線があります。



図表 鉄道路線図と乗車数

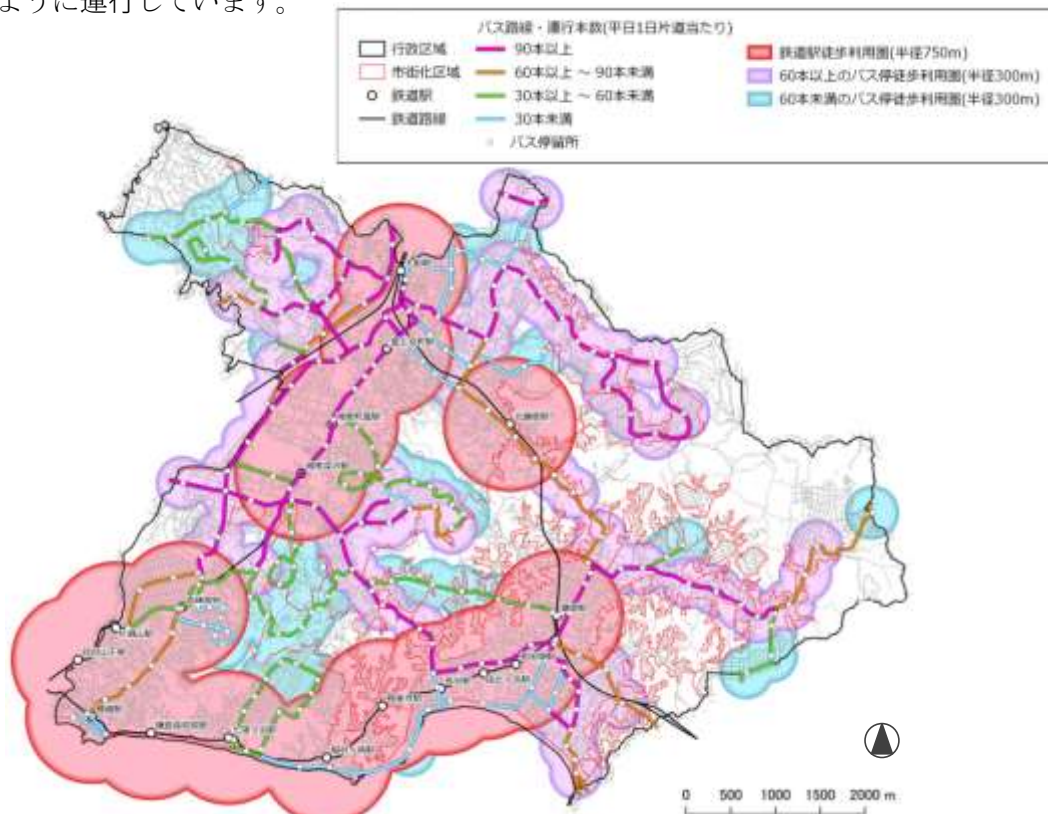
※地図上の人数は、令和3年度（2021年）乗車人数、右上グラフはトリップ\*4数

出典：令和3年度（2021年度）乗車人数（JR鎌倉駅・北鎌倉駅・大船駅、江ノ電鎌倉駅、湘南モノレール大船駅）：令和4年（2022年）版鎌倉市の統計

各駅トリップ数（乗車）：東京都市圏パーソントリップ調査（東京都市圏交通計画協議会）平成30年（2018年）調査結果

\*4 トリップ：人がある目的をもって、ある地点からある地点へと移動する単位をトリップといい、1回の移動でいくつかの交通手段を乗り換えても1トリップと計上

市内の公共交通は、鉄道が5路線（JR（東海道線、横須賀線、京浜東北線・根岸線）、江ノ島電鉄、湘南モノレール）あるほか、民間バス3事業者により市街化区域内をおおむねカバーするように運行しています。



図表 公共交通の運行状況と鉄道駅・バス停の徒歩利用圏

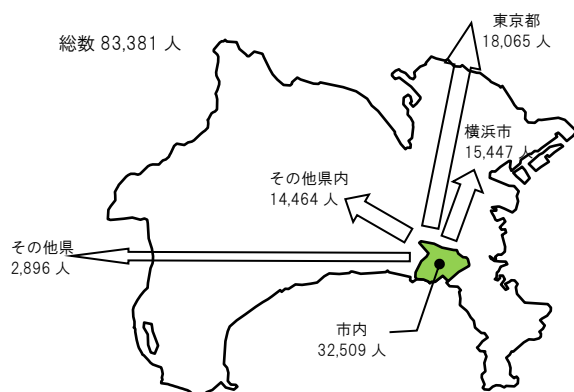
出典：鎌倉市立地適正化計画（令和4年（2022年）4月）

## ② 従業地・通学地及び利用交通手段

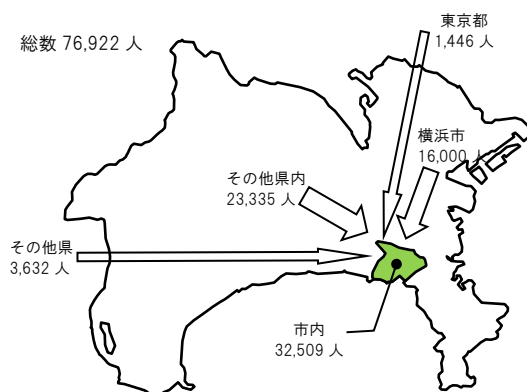
### 【従業地・通学地】

令和2年（2020年）国勢調査によると、市内の15歳以上の就業者・通学者83,381人は、約39%が市内、約22%が東京都、約19%が横浜市に従業・通学しています。

また、鎌倉市への就業者・通学者（市内常住含む）76,922人のうち、横浜市からが約21%、その他県内からが約30%となっています。



図表 常住地による就業者・通学者数（15歳以上）



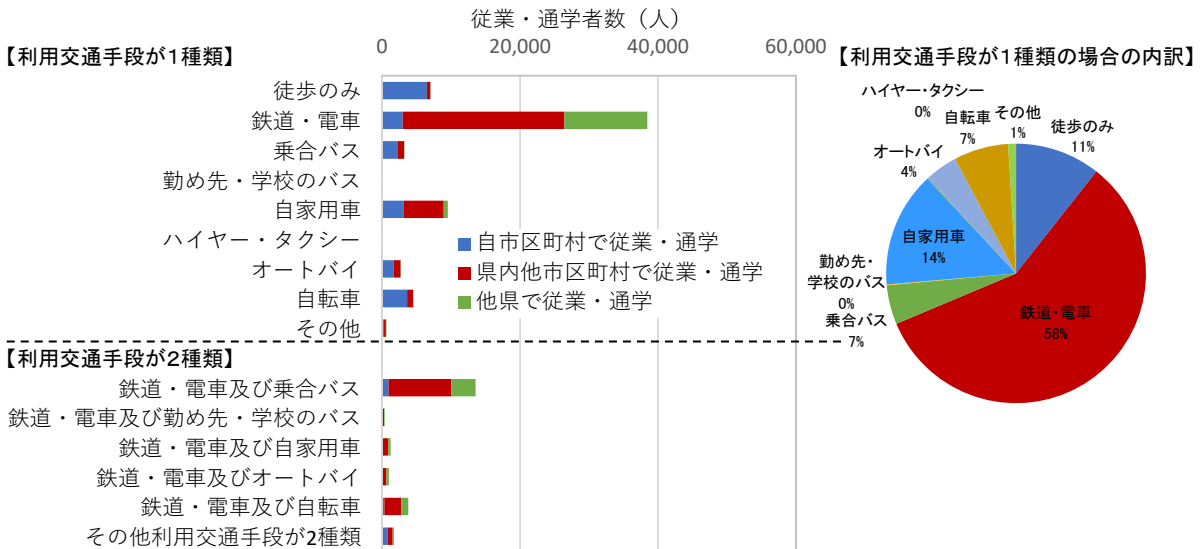
図表 従業地・通学地による就業者・通学者数（15歳以上）

※令和2年（2020年）国勢調査 従業地・通学地による人口・産業等集計 第3表、第4表をもとに作成

### 【利用交通手段・移動時間帯】

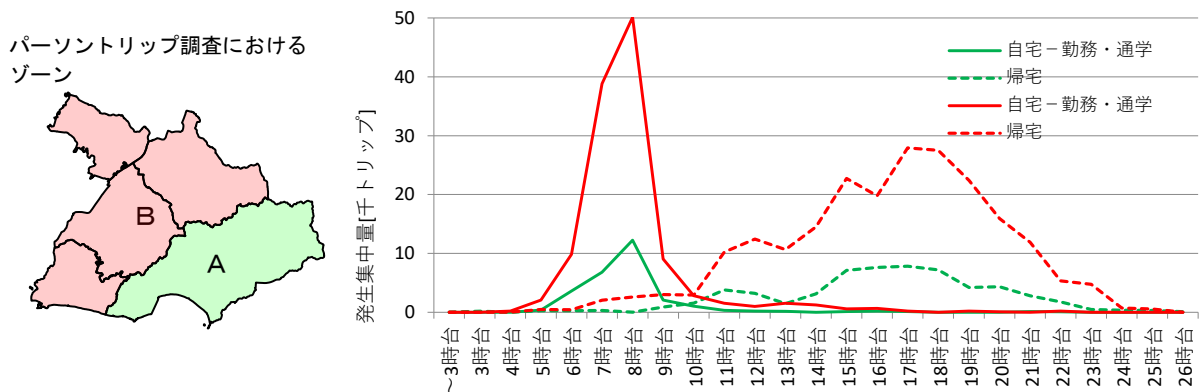
令和2年（2020年）国勢調査では、市内の15歳以上の就業者・通学者で、利用交通手段が1種類の場合、鉄道・電車を利用している人が約58%、自家用車が約14%となっています。

また、平成30年（2018年）のパーソントリップ調査結果では、通勤・通学の時間帯は6時から9時にピークがあり、帰宅の時間のピークは17時から18時となっています。



図表 駅からの交通手段、市内移動の交通手段

出典：令和2年（2020年）国勢調査 従業地・通学地による人口・就業状態等集計第17-2表をもとに作成



図表 勤務・通学と帰宅に関する移動の時間帯別発生集中量

出典：時間帯別トリップ数：東京都市圏パーソントリップ調査（東京都市圏交通計画協議会）、平成30年（2018年）調査結果をもとに作成  
 （帰宅には、自宅-勤務・通学以外の行動に対する帰宅も含む）

### ③ 自動車保有台数

令和4年（2022年）版鎌倉市の統計では、令和3年度（2021年度）の普通乗用車、小型乗用車、軽自動車の自動車登録台数の合計は65,981台で、一世帯当たりの台数は0.86台となっています。

## (8) 財政

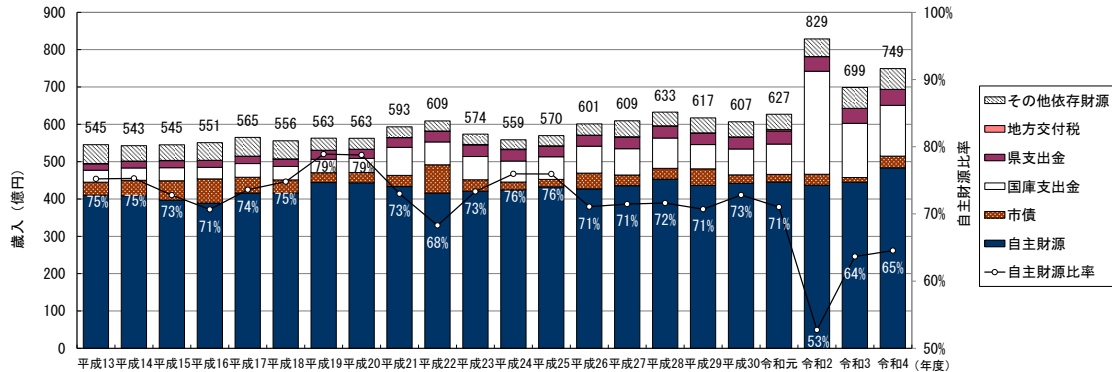
### 歳入・歳出の推移

本市の令和4年度（2022年度）一般会計の歳入は、約749億円です。歳入の推移をみると平成13年（2001年）以降ほぼ同程度を維持していますが、令和2年度（2020年度）は新型コロナウイルス感染症対策に関する国庫支出金の増加に伴い、歳入も大幅に増加しています。

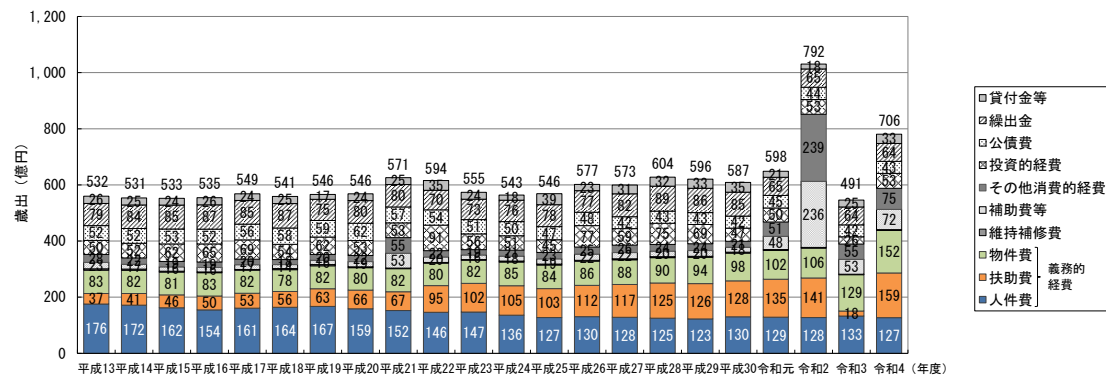
また、自主財源の歳入に占める割合は平成22年度（2010年度）を除き、70%から80%程度で推移していますが、令和2年度（2020年度）は国庫支出金の増加に伴い自主財源比率が53%となっています。また、地方財政状況調査によると、令和3年度（2021年度）の自主財源比率64%は全国市及び23特別区の中で14位の水準でした。

一方、令和4年度（2022年度）の一般会計の歳出は約706億円です。歳出合計は平成13年（2001年）以降横ばいの傾向にあります。令和2年度（2020年度）は新型コロナウイルス感染症対策等についての補助費等の増加に伴い、歳出も大幅に増加しています。平成19年度（2007年度）以降の人員費は減少傾向にあります。義務的経費（人員費・扶助費・公債費）は、平成13年度（2001年度）の約296億円から令和4年度（2022年度）は約438億円に増加しており、特に扶助費は、平成13年度（2001年度）と比べ約4.3倍となっており、財政の硬直化が進行しています。

公共施設の整備等に関わる投資的経費については、平成22年度（2010年度）の91億円を除き、約26～77億円で推移していますが、今後の扶助費等の増加の傾向も踏まえると、投資的経費の拡充は困難であると考えられます。



図表 歳入の推移



図表 歳出の推移

\*5 扶助費：社会保障制度の一環として各種扶助についての経費（生活保護、医療費助成など）  
 物件費：消費的性質をもつ経費（旅費、交際費、需用費、役務費、備品購入費、委託料、使用料及び賃借料、原材料費等）

## (9) 市が保有する財産の状況

### ① 土地

本市が保有する土地は約 451 万㎡であり、利用目的別内訳では、公園（緑地含む）が約 280 万㎡（約 62%）と過半を占めているのが特徴です。

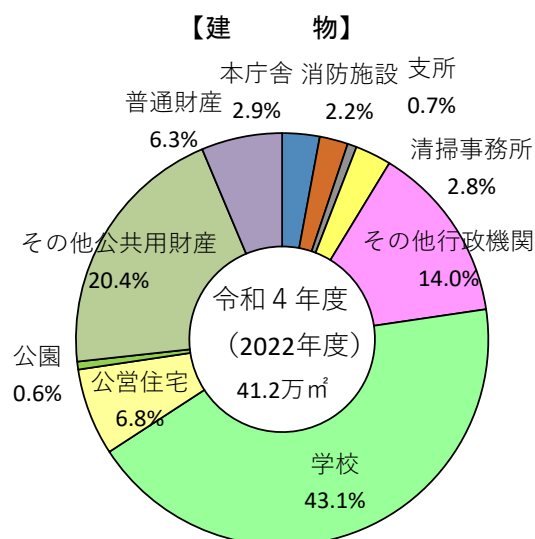
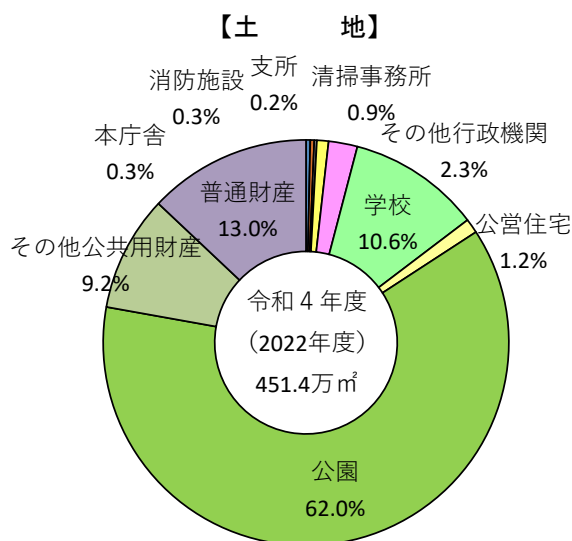
本庁舎、支所、消防施設、清掃事務所、その他行政機関、学校、公営住宅の用地については、約 71 万㎡（約 16%）となっています。

### ② 建物

本市が保有する建物の総延床面積は約 41 万㎡であり、利用目的別内訳では、学校が約 18 万㎡（約 43%）と最も大きくなっています。

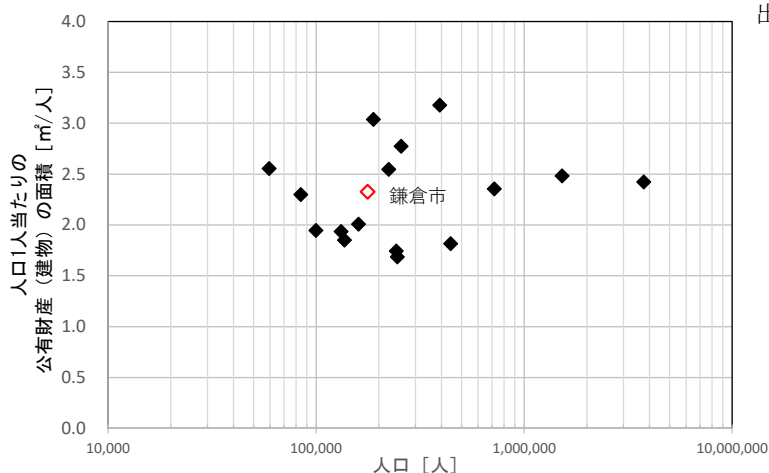
市民 1 人当たりの建物の床面積は約 2.3 ㎡/人になります。

市町村公共施設状況調査<sup>\*6</sup>（令和 4 年度（2022 年度））のデータから県内各市の人口 1 人当たりの公有財産（建物）を算出した結果、2.0 ㎡/人を下回る自治体が複数みられます。



図表 土地・建物（公有財産）

出典：令和 4 年度（2022 年度）鎌倉市歳入歳出決算書及び付属書



図表 県内市の人口と公有財産（建物）の関係

出典：市町村公共施設状況調査（令和 4 年度（2022 年度））の結果から作成

<sup>\*6</sup> 市町村公共施設状況調査：地方財政状況調査の一環として、市町村が所有又は管理する公共施設の現況を把握して、住民福祉の向上と市町村の能率的な行政に資するための資料を作成することを目的として総務省が実施している調査

## 2-2 公共施設の状況

### (1) 主な公共施設

市内には、次の本計画対象外の施設を含め、約 230 の公共施設があります。

図表 主な公共施設

用途	施設名					
庁舎	本庁舎 <sup>複</sup> 腰越支所 <sup>複</sup> 深沢支所 <sup>複</sup> 大船支所 <sup>複</sup> 玉縄支所 <sup>複</sup> 市民サービスコーナー <sup>借</sup>					
消防施設	鎌倉消防署 大船消防署	腰越出張所 玉縄出張所	深沢出張所 今泉出張所	浄明寺出張所	七里ガ浜出張所	
小学校	第一小学校 <sup>複</sup> 西鎌倉小学校 小坂小学校 今泉小学校 <sup>複</sup>	第二小学校 七里ガ浜小学校 玉縄小学校	御成小学校 <sup>複</sup> 深沢小学校 植木小学校 <sup>複</sup>	稲村ヶ崎小学校 <sup>複</sup> 富士塚小学校 関谷小学校	腰越小学校 山崎小学校 大船小学校	
中学校	第一中学校 手広中学校 <sup>複</sup>	第二中学校 大船中学校	御成中学校 玉縄中学校	腰越中学校 岩瀬中学校	深沢中学校	
青少年会館	鎌倉青少年会館 <sup>複</sup>		玉縄青少年会館 <sup>複</sup>			
子どもひろば・ 子どもの家 子ども会館	子どもひろば・子どもの家： にかいどう <sup>複</sup> だいいち おなり いなむらがさき <sup>小</sup> ふかさわ せきや こしごえ にしかまくら しちりがはま ふじづか やまさき いまいずみ おおふな おさか <sup>複</sup> たまなわ うえき <sup>小</sup> うえき分室（旧植木子ども会館） 深沢子ども会館 <sup>注1</sup>					
保育園	由比ガ浜保育園 <sup>複</sup> 腰越保育園 深沢保育園 <sup>複</sup> 大船保育園 岡本保育園 <sup>複</sup>					
子育て支援	鎌倉子育て支援センター <sup>複</sup> 玉縄子育て支援センター <sup>複</sup>		深沢子育て支援センター <sup>複</sup>		大船子育て支援センター <sup>複</sup>	
福祉関連 施設	福祉センター <sup>複</sup> あおぞら園 障害児活動支援センター <sup>複</sup> 障害児通所支援施設 <sup>複</sup> 名越やすらぎセンター 教養センター 今泉さわやかセンター 腰越なごやかセンター 玉縄すこやかセンター （御成町在宅福祉サービスセンター <sup>民</sup> ） （二階堂在宅福祉サービスセンター <sup>複</sup> ） （台在宅福祉サービスセンター <sup>民</sup> ）					
生涯学習 施設	鎌倉生涯学習センター 腰越学習センター <sup>複</sup> 深沢学習センター <sup>複</sup> 大船学習センター <sup>複</sup> 玉縄学習センター <sup>複</sup> 玉縄学習センター分室 <sup>複</sup> 、吉屋信子記念館					
図書館	中央図書館	腰越図書館 <sup>複</sup>	深沢図書館 <sup>複</sup>	大船図書館 <sup>複</sup>	玉縄図書館 <sup>複</sup>	
スポーツ 施設	鎌倉体育館 鎌倉海浜公園水泳プール	大船体育館	見田記念体育館 こもれび山崎温水プール	鎌倉武道館		
文化施設	鎌倉国宝館 鏑木清方記念美術館	鎌倉歴史文化交流館 川喜多映画記念館	鎌倉文学館	鎌倉芸術館		
市営住宅	深沢住宅 岡本住宅 ベネッセレ湘南深沢 <sup>借</sup> レーベンスガルテン山崎 <sup>借</sup>	笛田住宅 諏訪ヶ谷ハイツ	梶原住宅 笛田ロイヤルハイツ <sup>借</sup>	梶原東住宅	深沢セントラルハイツ <sup>借</sup>	
市民活動支援	鎌倉NPOセンター 大船NPOセンター					

複：複合施設（例：行政センター〔支所、図書館、学習センター〕）

小：小学校の教室等を利用している子どもの家

借：民間建築物を賃借してサービス提供しているもの（例：市民サービスコーナー、借上げ型市営住宅）

民：市有公共施設の中で民間事業者が事業運営しているもの

注1：深沢子ども会館は令和6年（2024年）3月末に閉館予定

※ 本表に記載した公共施設の他、消防団器具置場、公衆便所、公園管理事務所、倉庫、自転車等保管場所等があります。詳しくは「資料1 施設データ（2）対象外施設」資料-4参照。

消防署・出張所



体育館



鎌倉芸術館



保育園



行政センター[支所・図書館・学習センター]



老人福祉センター



本庁舎



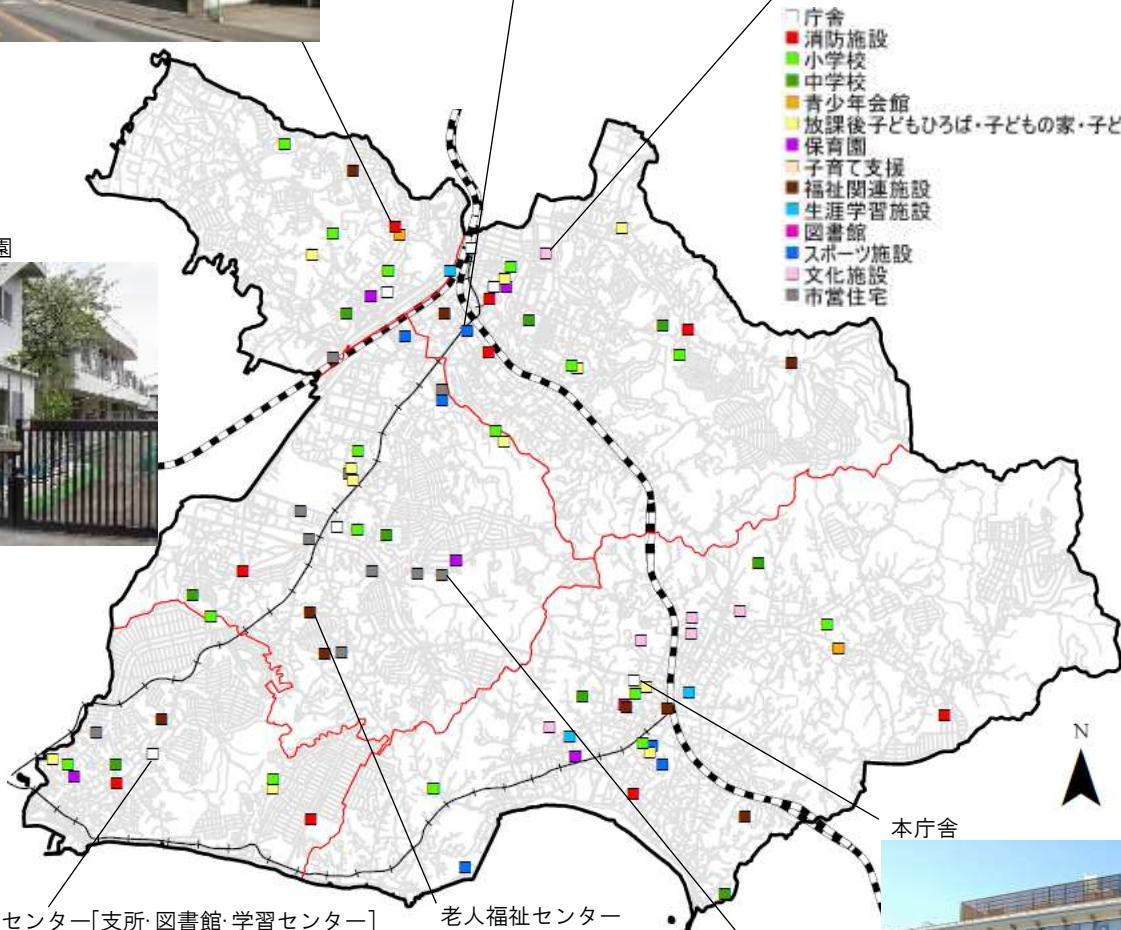
市営住宅



小学校



中学校



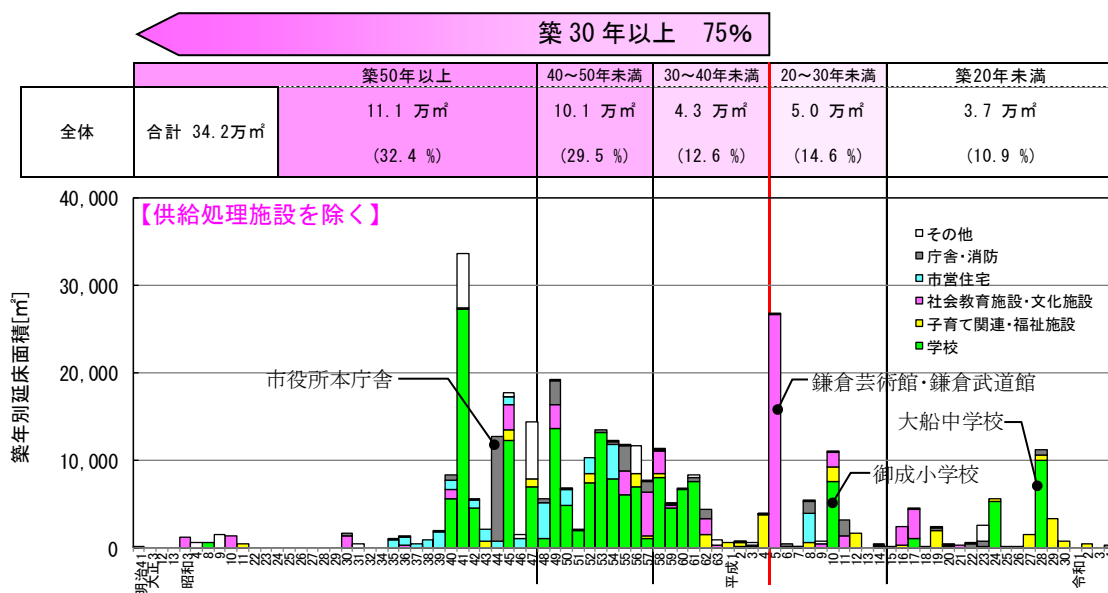
図表 主要な施設の配置状況



## (2) 市が保有する建物の規模と建築時期

本市が保有する建物は、学校を中心に昭和40年代から50年代に建てられたものが多く、供給処理施設を除く建物の総延床面積約34.2万㎡のうち、築30年以上の建物は約26万㎡と、全体の約75%を占めています。

図表 築年別延床面積



※1 建物をリースしているものについても含めていることなどから、「市が保有する財産の状況 (p. 21)」で示す建物の延床面積とは異なります。

※2 増築等を行っているものについては、主な建物の建築年度を示しています。

### (3) 耐震化状況と劣化状況

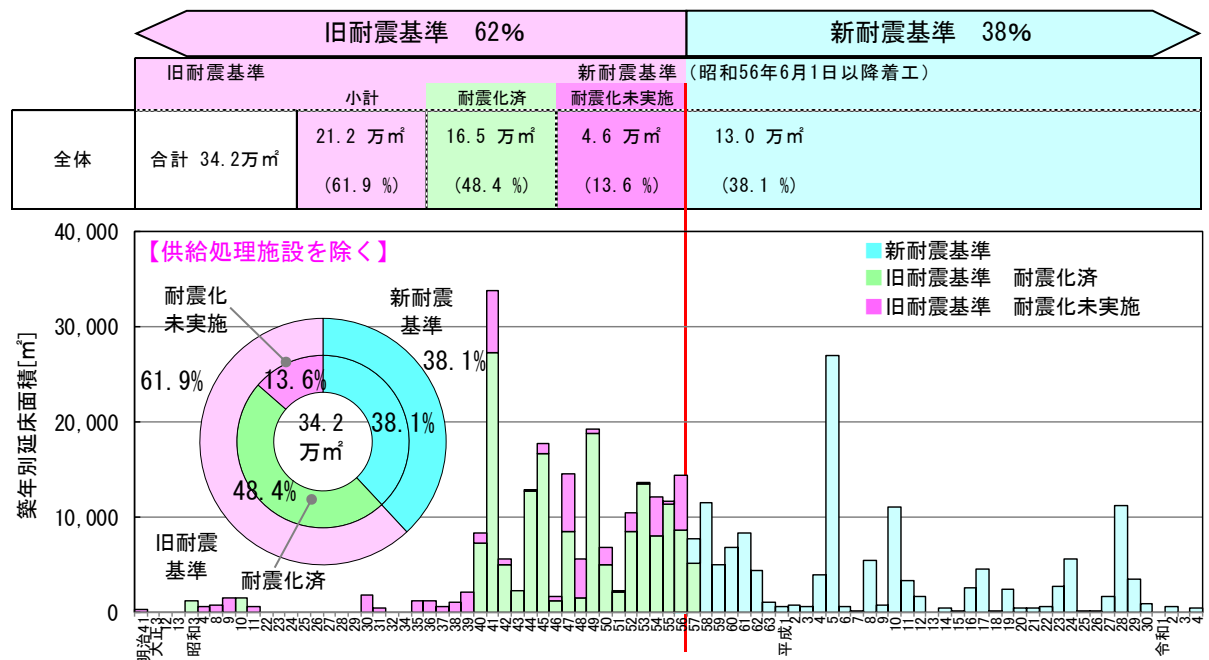
#### ① 耐震化状況

本市が保有する供給処理施設を除く建物の総延床面積約 34.2 万㎡のうち、旧耐震基準が適用された建物（昭和 56 年（1981 年）5 月までに着工された建物）は約 21.2 万㎡と、全体の約 62%を占めています。このうち、耐震化\*7が未実施のものは、旧耐震基準で整備された建物の約 13.6%を占めています。

総延床面積の約 4 割を占める学校施設の耐震安全性の確保については、優先的に取組を行っており、市立小中学校全校はすべて耐震化が完了しています（一部付属建物を除く）。

また、学校を除く施設のうち、保育園や消防施設などでは耐震化改修事業を実施してきましたが、市営住宅などの一部に耐震化未実施の建物があります。

図表 公共施設の耐震化状況



※1 建物をリースしているものについても含めていることなどから、「市が保有する財産の状況 (p. 21)」で示す建物の延床面積とは異なります。

※2 増築等を行っているものについては、主な建物の建築年度を示しています。

\*7 耐震化: 耐震基準を満たす状態にすること（構造体に限る）。耐震化実施済として扱っているものは次に挙げるものを指す。

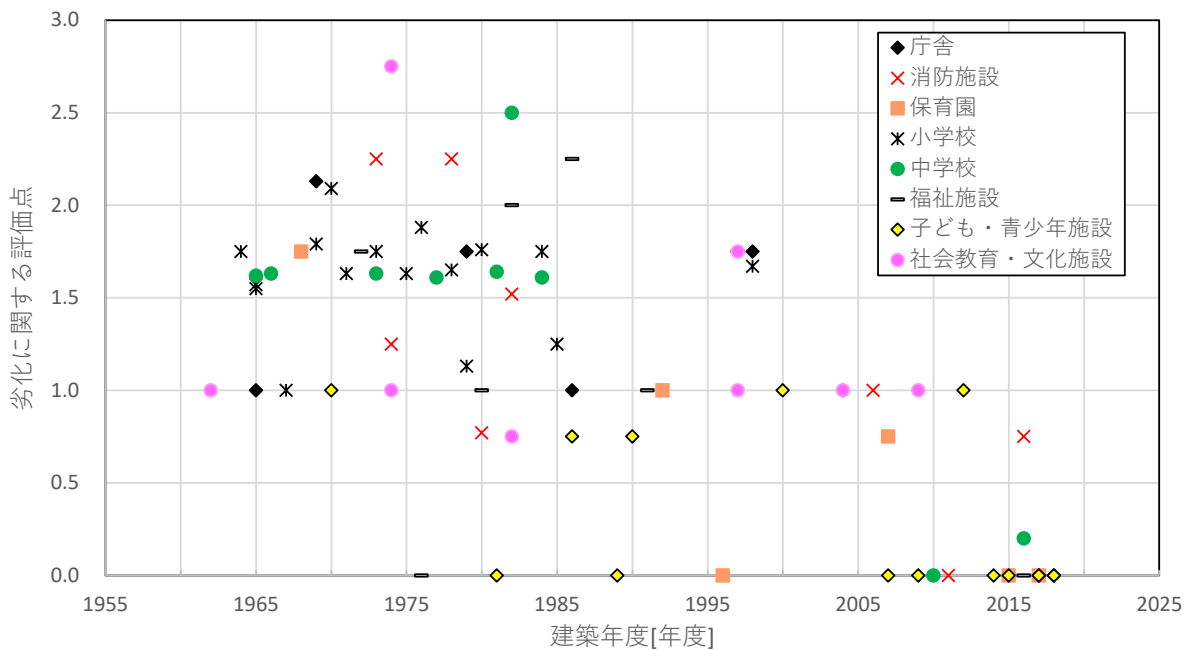
- ①新耐震基準以降（昭和 56 年（1981）6 月以降に着工したもの）の建物
- ②旧耐震基準の建物のうち、耐震診断の結果、耐震基準を満たしていたもの
- ③旧耐震基準の建物のうち、耐震診断の結果、耐震基準を満たしていなかったため、耐震補強工事を実施したことにより基準を満たしたものの

## ② 劣化状況

建築基準法第 12 条に基づく点検結果のうち、大規模改修や建替え時期に大きく影響する建物の躯体（基礎及び土台、外壁、屋上面及び屋根、壁の室内に面する部分、床）に関する点検項目をもとに、劣化の状況を評価しています。

劣化に関する評価点は建築年度が古いほど高くなる傾向はありますが、大規模改修工事の実施状況などにより、同じ年代でもばらつきがみられます。

劣化の評価点が高い施設（評価点が 2.0 以上）として、市役所本庁舎、中央図書館、消防施設（2 施設）、小中学校（2 校）、老人福祉施設（2 施設）が挙げられます。



図表 主要な施設の劣化に関する建築年度と評価点

### <評価指標の考え方>

・建築基準法第 12 条に基づく点検項目のうち、建物の大規模改修や建替え時期に大きく影響すると考えられる躯体に関する項目の劣化状況を判断指標とし、部材ごとに下表に示す重要度係数を設定して建物全体の劣化に関する評価点の算定を行っています（複数棟ある場合はそれぞれの評価点を面積按分）。

$$\text{劣化に関する評価点} = \sum_{\text{部材の区分}} (\text{是正箇所の有無 (1点または0点)} \times \text{重要度係数})$$

図表 大規模改修・建替え時期に与える影響の重みづけ

No	部材	調査項目	建物の大規模改修・建替え時期に与える影響	重要度係数
1	基礎及び土台	基礎及び土台の沈下、劣化及び損傷等の状況	劣化や沈下の進行によって、建物全体への影響が大きく、改修では対応できない場合も考えられる	1.00
2	屋上面及び屋根	屋上面及び屋根の劣化及び損傷の状況	漏水等によって建物全体の劣化に影響を与える可能性が高いと考えられる	1.00
3	外壁	外壁躯体の劣化及び損傷の状況	漏水等によって建物全体の劣化に影響を与えると考えられるが、屋上面及び屋根に比べて、影響はやや低い	0.75
4	壁の室内に面する部分	室内に面する部分の躯体の劣化及び損傷の状況	耐力壁に劣化が見られる場合は、建物全体へ与える影響は高いが、外壁に比べて、影響はやや低いと考えられる	0.50
5	床	床躯体の劣化及び損傷の状況	劣化の範囲にもよるが、建物全体へ与える影響は上記部材に比べ、やや低いと考えられる	0.25

#### (4) 施設分類別の特徴

##### ① 本庁舎・支所

##### ア 施設概要

- ・本庁舎（分庁舎含む。以下同じ。）は、鎌倉駅西口から徒歩5分の利便性の高い場所に立地しています。
- ・支所は、本庁舎のある鎌倉地域を除く腰越地域、深沢地域、大船地域、玉縄地域の各行政センター（支所、図書館、学習センターとの複合施設）の1階に設けています。
- ・本庁舎と支所の耐震化は完了していますが、本庁舎と大船支所は築50年以上経過し、老朽化が進んでいます。
- ・特に、本庁舎は最低限（Is値0.6）の耐震化は完了していますが、災害応急対策活動を行う官公庁施設に求められる耐震性能（Is値0.9）は有しておらず、大規模な地震が発生した場合の業務継続は困難な状況となっています。

図表 本庁舎と支所の施設概要(1)

名称	延床面積※ <sup>1</sup>	建築年度	耐震化状況※ <sup>2</sup>	津波想定	備考
本庁舎	13,863 m <sup>2</sup>	昭和44	改修済	浸水範囲内	分庁舎等含む敷地全体の面積
腰越支所	367 m <sup>2</sup> (1,437 m <sup>2</sup> )	平成10	-	浸水範囲内	行政センター延床面積 3,233m <sup>2</sup>
深沢支所	366 m <sup>2</sup> (721 m <sup>2</sup> )	昭和55	改修不要	-	行政センター延床面積 3,352m <sup>2</sup> (倉庫含む)
大船支所	330 m <sup>2</sup> (345 m <sup>2</sup> )	昭和40	改修済	-	行政センター延床面積 1,723m <sup>2</sup>
玉縄支所	312 m <sup>2</sup> (743 m <sup>2</sup> )	昭和62	-	-	行政センター延床面積 2,358m <sup>2</sup> (車庫含む)
市民サービスコーナー	20 m <sup>2</sup>	平成4	-	-	大船ルミネウイング6階を賃借

※1 支所の延床面積のうち（ ）は、行政センター共用部の面積  
市民サービスコーナー(大船ルミネウイング6階に20m<sup>2</sup>を賃借)では証明書交付を行っている。

※2 耐震化状況は、旧耐震基準の施設の対応状況を記載（新耐震基準のものは「-」と表示）、以降同様。

図表 本庁舎と支所の施設概要(2)

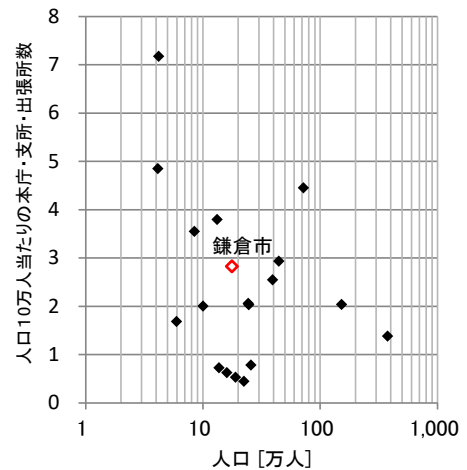
名称	地域地区		駐車台数	職員数 (R5.7.1)
	用途地域	その他地区		
本庁舎	第二種住居地域	第3種風致地区	83台	694人
腰越支所	第一種住居地域	-	37台	5人
深沢支所	近隣商業地域・第一種住居地域	-	40台	6人
大船支所	近隣商業地域・第二種住居地域	-	23台	8人
玉縄支所	第一種住居地域	-	29台	5人
市民サービスコーナー	商業地域・近隣商業地域	-	-	4人

※1 支所の駐車台数は行政センター全体の値

※2 職員数は正職員の数（会計年度任用職員は含まない）



図表 本庁・支所の配置



図表 県内市の人口と本庁・支所・出張所数の関係

## イ 利用状況

### 【本庁舎】

- ・本庁舎には、市長部局、教育委員会、市議会等の執務室及び窓口があり、本市業務全般を取り扱っています。
- ・本庁舎市民課では、戸籍届、住民異動届、印鑑の登録・廃止、証明書の交付等を行っています。
- ・市民課の「戸籍、住民票等証明書交付」の取扱い件数は、年間8万件を超えており、この内訳は、本庁舎（市民課）が78%、市民サービスコーナーが22%となっています。

図表 本庁舎(市民課)等の証明書等の件数（令和4年度（2022年度）） (件/年)

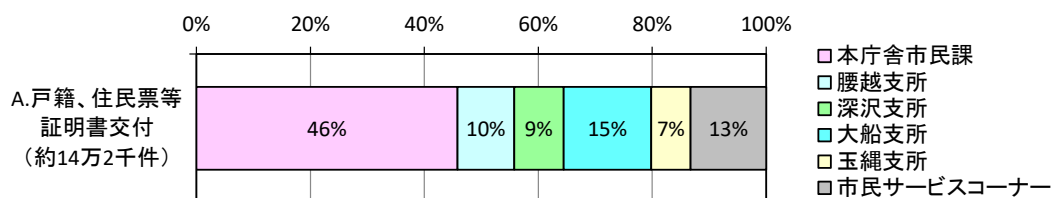
	本庁舎 (市民課)	市民サービス コーナー	合計
A. 戸籍、住民票等証明書交付	64,876	18,782	83,658
合計	64,876	18,782	83,658

### 【支所】

- ・支所では、戸籍届、住民異動届、印鑑の登録・廃止、証明書の交付、国民年金、国民健康保険の各種届出、市税等の収納事務（令和2年度（2020年度）まで）、地域団体との連絡・協調についての事務と、行政センターの施設管理を行っています。
- ・証明書等の取扱い件数は、4支所合計で年間約18万件になっています。
- ・マイナンバーカードの普及に伴い、住民票の写し、印鑑証明、戸籍証明書の交付件数は減少傾向にあります。

図表 支所の証明書等の件数（令和4年度（2022年度）） (件/年)

	腰越支所	深沢支所	大船支所	玉縄支所	合計
A. 戸籍、住民票等証明書交付	14,078	12,297	21,785	9,784	57,944
B. 戸籍、住民異動等届出	1,061	1,421	3,537	2,048	8,067
C. 市税・その他に関する証明書交付	2,156	2,673	6,377	2,435	13,641
D. 諸証明手数料等収納	15,883	14,319	27,344	11,911	69,457
E. その他受付	6,551	5,671	13,424	7,067	32,713
合計	39,729	36,381	72,467	33,245	181,822



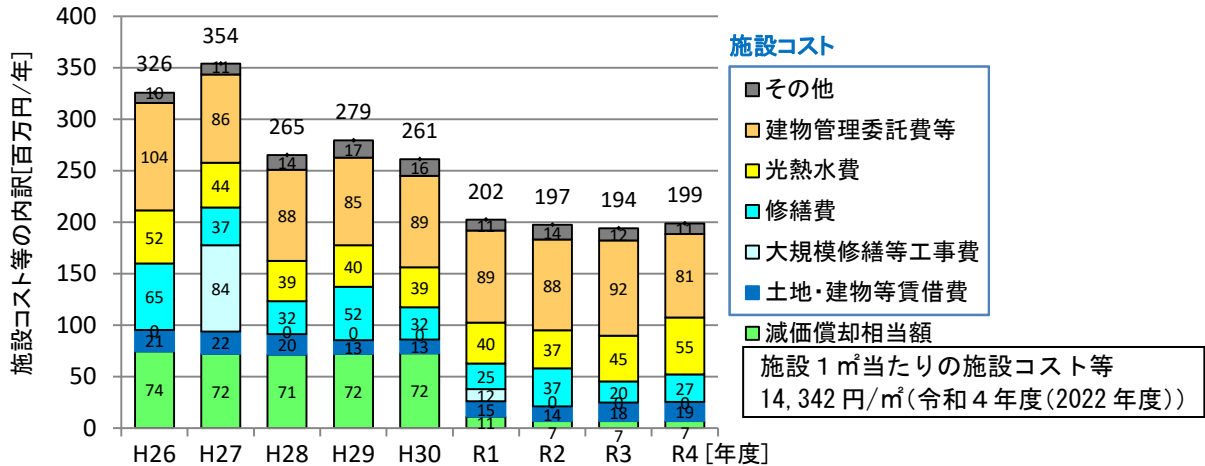
図表 「戸籍、住民票等証明書交付」の取扱い件数の内訳（令和4年度（2022年度））

## ウ コスト

### 【本庁舎】

- ・本庁舎の施設コストは、築50年を経過したことにより、減価償却相当額が令和元年度（2019年度）から大幅に減少したことに伴い、年間200百万円前後で推移しています。

図表 本庁舎の施設コスト等の推移

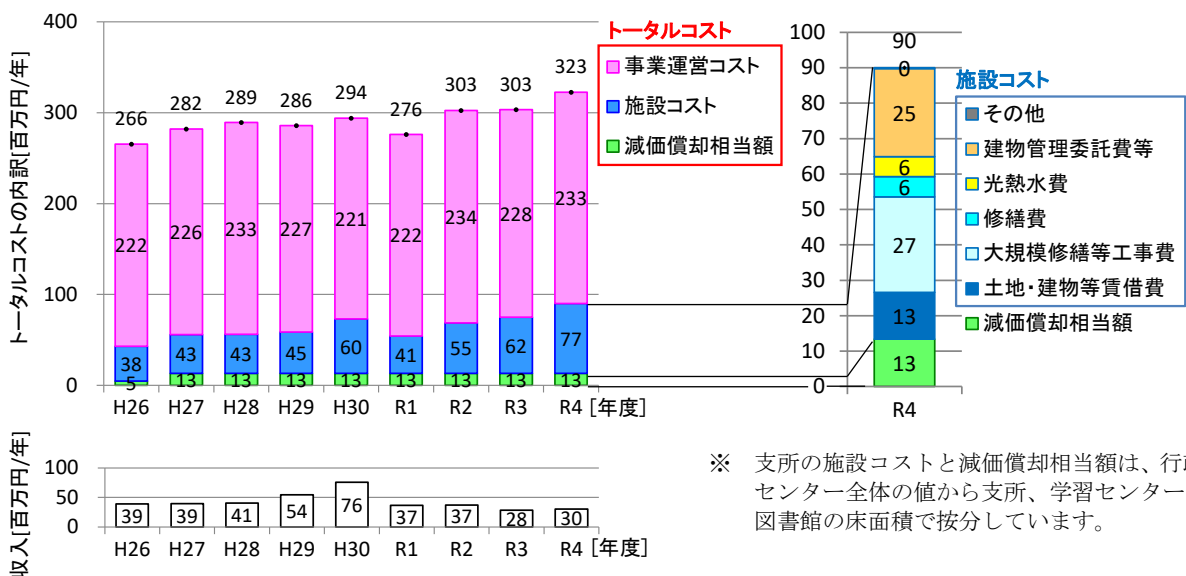


※ 本庁舎の事業運営コストは、市で行う事業の大半が含まれるため、ここでは、本庁舎の施設コストと減価償却相当額を示します。

### 【支所】

- ・4支所及び市民サービスコーナーの令和4年度（2022年度）のトータルコストは約323百万円、利用1件当たりのトータルコストは449円です。

図表 4支所及び市民サービスコーナーのコストの経年変化と施設コストの内訳 (令和4年度(2022年度))



※ 支所の施設コストと減価償却相当額は、行政センター全体の値から支所、学習センター、図書館の床面積で按分しています。

利用1件当たりのトータルコスト：449円/件(令和4年度(2022年度))

## エ 再編に当たっての課題と関係する計画等

### 【本庁舎】

- ・本庁舎は、防災面をはじめとする様々な課題等を解決するため、深沢地域整備事業用地への移転整備に向けて取り組んでいます。
- ・併せて、本庁舎移転整備後の現在地の利活用についても検討を進めています。

### 【支所】

- ・大船支所は築 50 年以上、深沢支所も築 40 年以上となっており、老朽化が課題となっています。
- ・マイナンバーカードの普及状況及び行政手続き等の DX 化の進展を見据え、今後、全庁的な関連業務の見直しが必要となります。
- ・支所がある行政センターは、地域拠点校等への統合整備までの間、現在の施設が利用できるよう維持管理が必要となります。

### 図表 本庁舎・支所に関わる計画等

#### ■ 社会保障・税番号制度：マイナンバー制度

マイナンバー制度は、複数の機関に存在する個人の情報を同一人の情報であることの確認を行うための基盤で、社会保障・税制度の効率性・透明性を高め、国民にとって利便性の高い公平・公正な社会を実現するための社会基盤として導入されるものです。

- ・行政の効率化（様々な情報の照合や入力などに要している時間や労力の削減と正確性の向上）
- ・国民の利便性の向上（添付書類の削減など行政手続の簡素化・負担の軽減）

#### ■ コンビニエンスストアにおける証明書等の自動交付

本市では、マイナンバーカードを利用して、全国のコンビニエンスストアで住民票の写しや印鑑登録証明書、戸籍（全部・個人事項）証明書を取得できるサービスを実施しています。

- ・住民票の写し、印鑑登録証明、戸籍（全部・個人事項）証明書が、コンビニエンスストアの端末で取得できるシステムです。（住民票記載事項証明、各種税証明書、戸籍の附票の写しは取得できません。）
- ・サービス提供時間は、（住民票の写し・印鑑登録証明）6:30～23:00、（戸籍全部・個人事項証明書）10:00～18:00 です。（いずれも、12月29日から1月3日を除く）

## ② 消防施設

### ア 施設概要

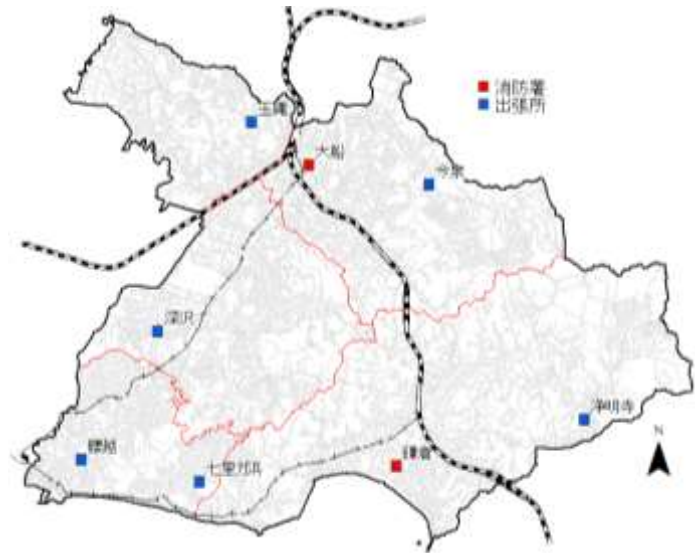
- ・消防署が2施設、出張所が6施設あります。他に消防団器具置場が28箇所あります。
- ・消防本部は大船消防署内に設置しています。
- ・深沢出張所の一部（訓練塔）以外、耐震化は完了しています。

図表 消防力の現況

区分		鎌倉市
消防本部・署	消防本部数	1
	消防署数	2
	出張所数	6
	消防吏員数	246
	消防ポンプ車自動車数	11
	救急自動車数	10
消防団	消防団数	1
	分団数	28
	団員数	402
令和2年度(2020年度)消防費歳出決算額(百万円)		2,930

出典：令和3年版消防統計（神奈川県）

図表 消防施設の配置



図表 消防署・出張所の施設概要

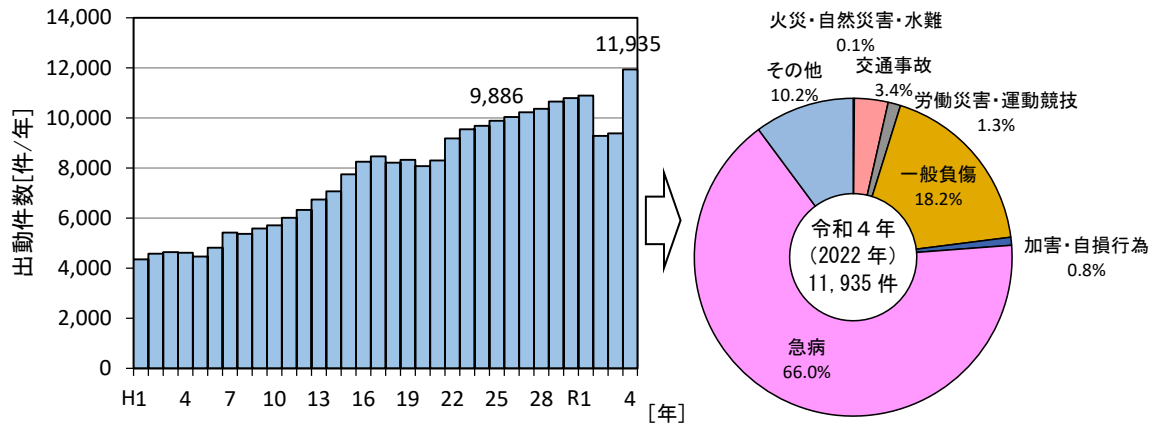
名称	延床面積	建築年度	耐震化状況	津波想定	備考
鎌倉消防署	2,570 m <sup>2</sup>	昭和49	改修済	浸水範囲内	消防本部（平成26年度（2014年度）まで）
大船消防署	2,180 m <sup>2</sup>	昭和55	改修済	-	消防本部（平成27年度（2015年度）から）、備蓄倉庫除く
腰越出張所	633 m <sup>2</sup>	平成28	-	浸水範囲内	-
深沢出張所	986 m <sup>2</sup>	昭和57	改修未実施（一部）	-	外部倉庫含む、備蓄倉庫除く
浄明寺出張所	273 m <sup>2</sup>	昭和53	改修不要	-	-
七里ガ浜出張所	492 m <sup>2</sup>	平成23	-	-	-
玉縄出張所	434 m <sup>2</sup>	昭和48	改修済	-	-
今泉出張所	403 m <sup>2</sup>	平成19	-	-	-
合計	7,971 m <sup>2</sup>	-	-	-	-



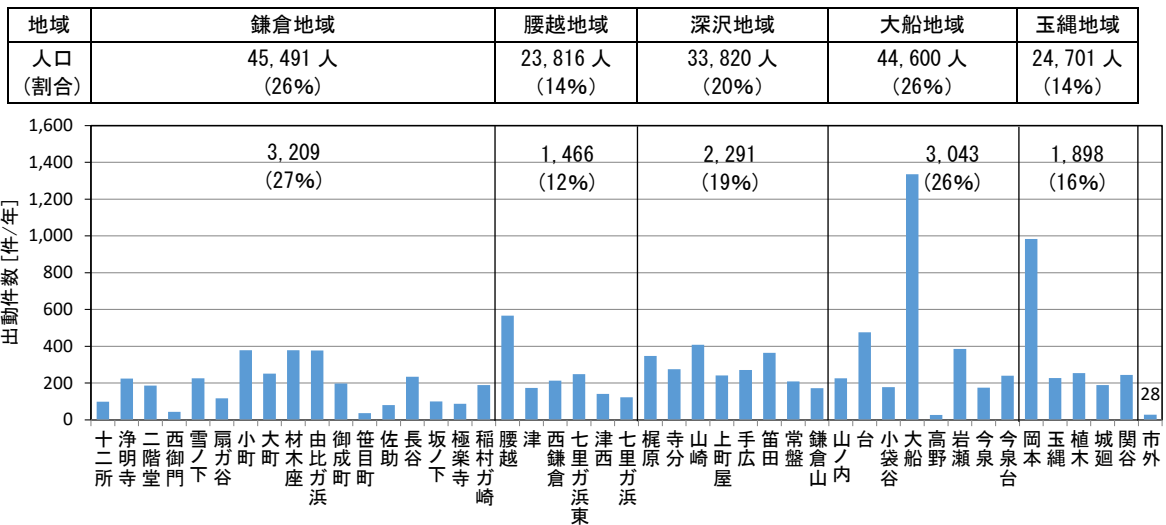
## イ 活動状況

- ・救急の出動件数は年々増加しており、令和4年（2022年）の出動件数は11,935件で、そのうち急病が約66%となっています。
- ・人口の多い鎌倉地域と大船地域における救急出動件数が多くなっています。
- ・火災件数は年により異なりますが、毎年30件程度の火災が発生しています。

図表 救急出動状況の推移と救急事故種別

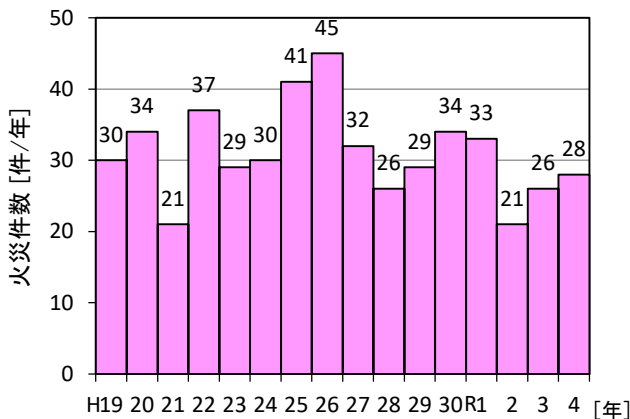


図表 令和4年（2022年）の救急出動状況（地域別）



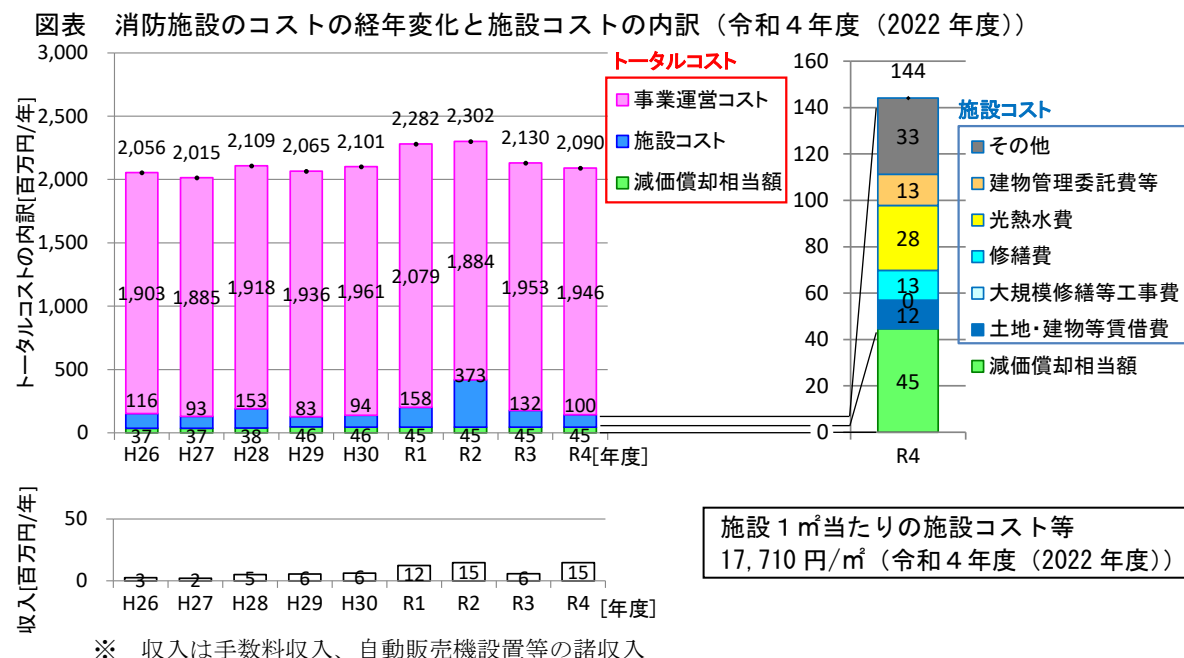
図表 火災件数の推移

※ 台一丁目は玉縄地域のため、正確な地域区分ではありません。  
 ※ 地域別人口は令和4年（2022年）10月1日時点

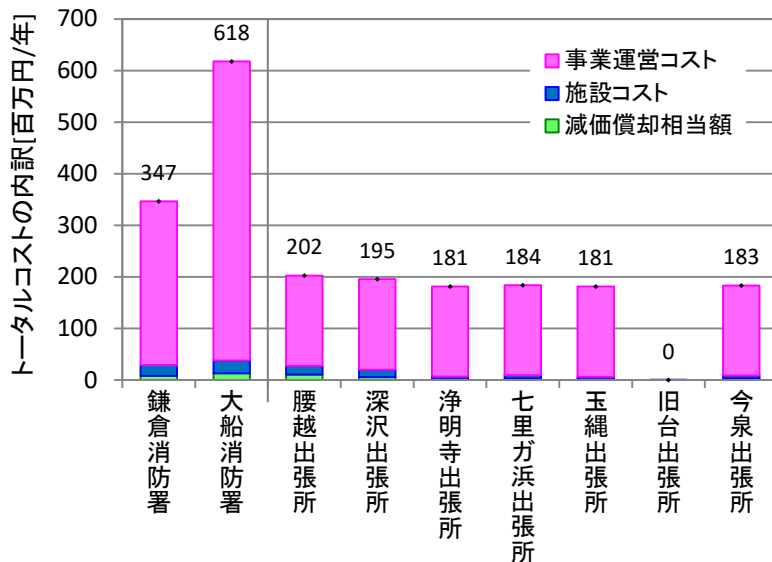


## ウ コスト

- ・消防施設（8施設）の令和4年度（2022年度）のトータルコストは2,090百万円、施設1㎡当たりのトータルコストは17,710円です。
- ・消防施設の施設別のトータルコストは、大船消防署が最も高くなっています。



図表 消防施設の施設別のトータルコスト（令和4年度（2022年度））



## エ 再編に当たっての課題と関係する計画等

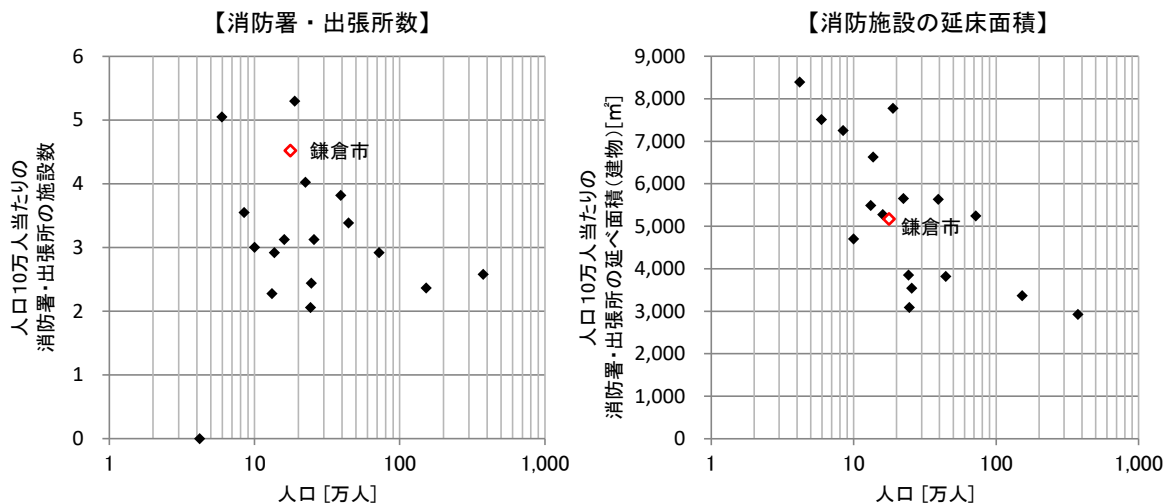
### 【消防施設の老朽化等】

- ・平成 27 年（2015 年）4 月に消防本部を移転した大船消防署は、洪水浸水想定区域（想定最大規模）に立地しており、築 40 年以上経過し老朽化が進んでいます。また、鎌倉消防署（津波浸水想定区域）、玉縄出張所は築 50 年近く経過しており、深沢出張所、浄明寺出張所も築 40 年以上経過し老朽化が進んでいます。
- ・女性職員の当直可能施設の設置、感染症防止対策等のための仮眠室の個室化が必要です。

### 【消防施設の施設数】

- ・県内の人口 20 万人以下の市で、消防署を 2 つ設けているのは鎌倉市のみです。
- ・人口 10 万人当たりの消防署・出張所数は約 4.5 施設と、類似の人口規模の県内他市と比べて多くなっています。これは、本市の地形等による交通事情の悪さが要因と考えられます。
- ・都市計画道路（腰越大船線）の大船立体の架け替えが平成 29 年度（2017 年度）に完了し、深沢地域と大船地域間のアクセス改善により、消防活動の効率化が期待されています。

図表 県内市の人口と消防署・出張所数、建物面積との関係



出典：令和 3 年（2021 年）版消防統計、

市町村公共施設状況調査（令和 3 年度（2021 年度））（建物面積）をもとに作成

図表 消防施設配置等に関連する道路整備事業



### ③ 学校施設

#### ア 施設概要

##### 【小中学校】

- ・市立小学校 16 校、市立中学校 9 校の合計 25 校のうち、主要建物の築年数は、22 校で築 30 年以上（このうち 21 校は築 40 年以上、このうち 11 校で築 50 年以上）となっています。
- ・山崎小学校や玉縄中学校では、校舎の延床面積に比較して児童生徒数が多いという現状があります。
- ・敷地内又は近接地に専用のプールがある小学校が 6 校、中学校が 3 校で、その他の学校については、鎌倉海浜公園水泳プール、こもれび山崎温水プールの利用や、2つの学校で共用する等の対応をとっています。

##### 【学校施設の地域開放】

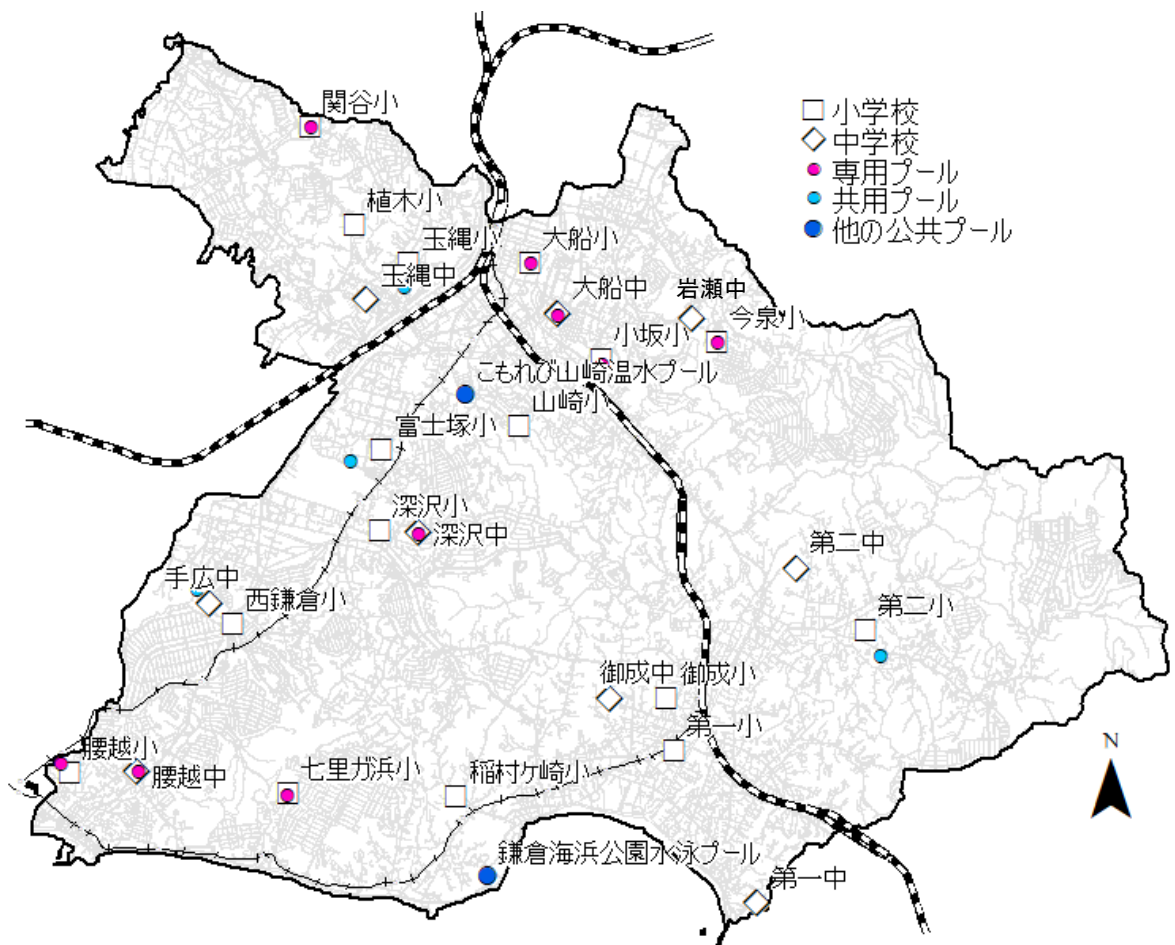
- ・校庭・体育館は学校の休業日及び夜間、また、プールは学校の休業日（夏期）の昼間のうち、それぞれ学校が使用しないときに開放しています。（担当はスポーツ課）
- ・第一小学校、御成小学校、今泉小学校、手広中学校の多目的室は、学校開放学習施設としています。（担当は生涯学習課）

図表 小中学校の施設概要とプールの設置状況

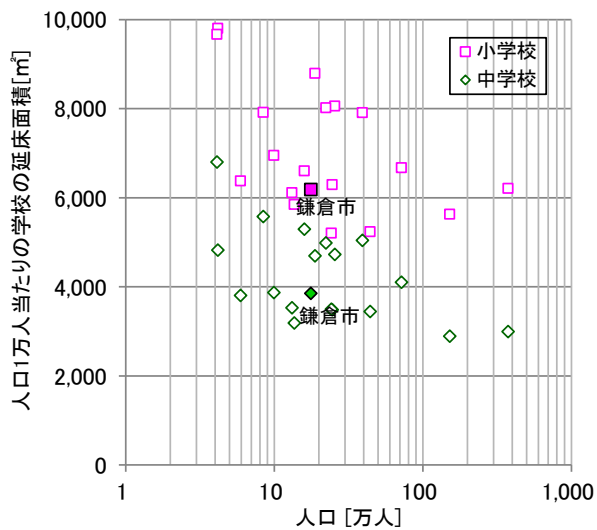
		延床面積	建築年度	耐震化状況	津波浸水想定	用途地域	プール		
							有無と設置場所	備考	
小学校	1 第一小	8,524 m <sup>2</sup>	昭和 40	改修済	範囲内	一住・二住	無		鎌倉海浜公園水泳プールを利用
	2 第二小	5,342 m <sup>2</sup>	昭和 42	改修済	-	一低・一中高	有	敷地外	第二中とプールを共用
	3 御成小	8,365 m <sup>2</sup>	平成 10	-	範囲内	一中高	無		鎌倉海浜公園水泳プールを利用
	4 稲村ヶ崎小	4,099 m <sup>2</sup>	昭和 55	改修不要	-	一低	無		鎌倉海浜公園水泳プールを利用
	5 七里ガ浜小	4,924 m <sup>2</sup>	昭和 50	改修済	-	二住	有	敷地内	
	6 腰越小	6,708 m <sup>2</sup>	昭和 39	改修済	-	一低	有	敷地外	近隣
	7 西鎌倉小	7,527 m <sup>2</sup>	昭和 48	改修済	-	一住	有	敷地外	手広中とプールを共用
	8 深沢小	8,466 m <sup>2</sup>	昭和 44	改修済	-	一住	有	敷地外	富士塚小とプールを共用
	9 富士塚小	7,649 m <sup>2</sup>	昭和 51	改修済	-	一住	有	敷地外	深沢小とプールを共用
	10 山崎小	5,740 m <sup>2</sup>	昭和 44	改修済	-	一中高	無		こもれび山崎温水プール利用
	11 小坂小	6,922 m <sup>2</sup>	昭和 60	-	-	二住・一中高	有	敷地外	近接
	12 玉縄小	7,173 m <sup>2</sup>	昭和 40	改修済	-	一中高	有	敷地外	植木小・玉縄中とプールを共用
	13 植木小	5,582 m <sup>2</sup>	昭和 59	-	-	一住・一中高	無		玉縄小・玉縄中と共用プール利用
	14 関谷小	5,968 m <sup>2</sup>	昭和 53	改修済	-	準住・一住	有	敷地内	
	15 大船小	6,458 m <sup>2</sup>	昭和 52	改修済	-	二住	有	敷地内	
	16 今泉小	8,003 m <sup>2</sup>	昭和 46	改修済	-	一中高	有	敷地内	
中学校	1 第一中	5,574 m <sup>2</sup>	昭和 59	-	-	一低	無		
	2 第二中	5,264 m <sup>2</sup>	平成 22	-	-	一低	有	敷地外	第二小とプールを共用
	3 御成中	8,350 m <sup>2</sup>	昭和 41	改修済	-	一低	無		
	4 腰越中	6,745 m <sup>2</sup>	昭和 52	改修不要	範囲内	一住	有	敷地内	
	5 深沢中	7,363 m <sup>2</sup>	昭和 40	改修済	-	一住	有	敷地内	
	6 手広中	7,000 m <sup>2</sup>	昭和 57	-	-	一中高	有	敷地外	西鎌倉小とプールを共用
	7 大船中	9,982 m <sup>2</sup>	平成 28	-	-	一中高	有	敷地内	スポーツ棟屋上に設置
	8 玉縄中	7,600 m <sup>2</sup>	昭和 48	改修済	-	一住	有	敷地外	玉縄小・植木小とプールを共用
	9 岩瀬中	7,881 m <sup>2</sup>	昭和 55	改修済	-	一低	無		
	25校						13箇所		

※ 1 用途地域：複数の地域にまたがる場合はすべての用途地域を記載（一低：第一種低層住居専用地域、一中高：第一種中高層住居専用地域、一住：第一種住居地域、二住：第二種住居地域、準住：準住居地域）

※ 2 学校のプールはすべて消防水利として指定

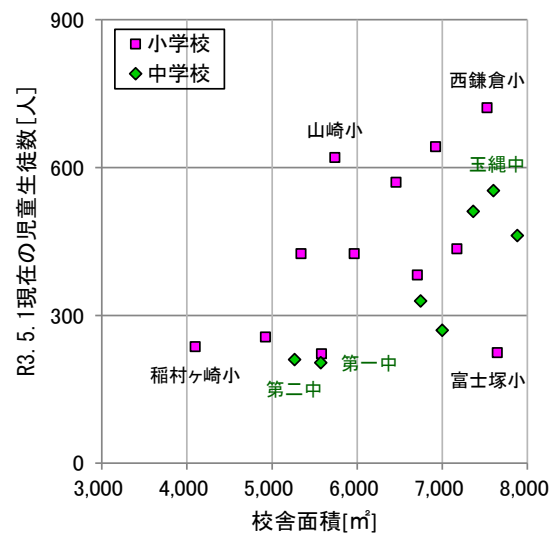


図表 学校とプールの利用



図表 県内市の人口と学校の延床面積との関係

出典：市町村公共施設状況調査（令和3年度（2021年度））をもとに作成



図表 学校の校舎面積と児童生徒数の関係

（令和5年度（2023年度））

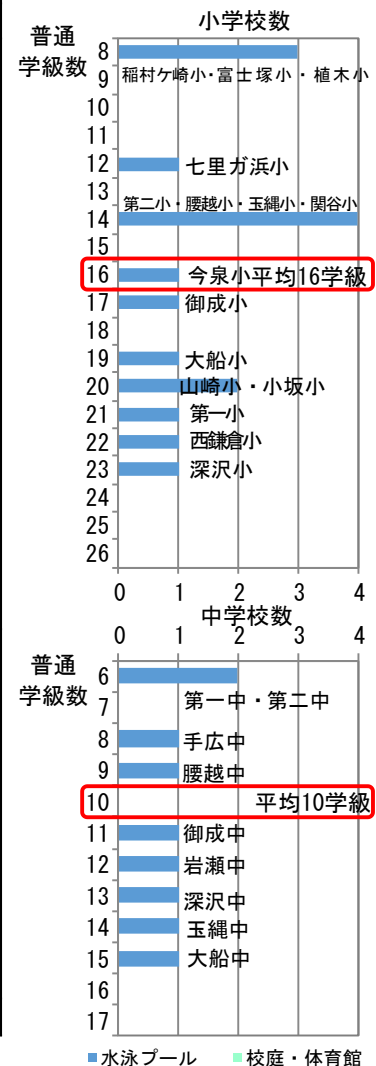
## イ 利用状況

### 【小中学校】

- ・小学校の1校当たりの普通学級数は、8学級（稲村ヶ崎小学校）から26学級（深沢小学校）となっており平均17学級です。
- ・中学校の1校当たりの普通学級数は、7学級（第二中学校）から17学級（大船中学校・玉縄中学校）となっており平均12学級です。
- ・普通学級1学級当たりの児童・生徒数の平均は、小学校で26.4人、中学校で30.7人です。

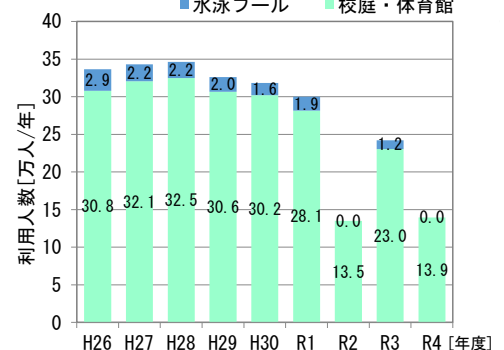
図表 市立小中学校の児童生徒数と学級数（令和5年（2023年）5月1日時点）

	学校名	普通学級		特別支援学級		合計	
		児童生徒数	学級	児童生徒数	学級	児童生徒数	学級
1	第一小学校	687	21	15	3	702	24
2	第二小学校	405	14	10	2	415	16
3	御成小学校	488	17	22	4	510	21
4	稲村ヶ崎小学校	236	8			236	8
5	七里が浜小学校	252	12	2	2	254	14
6	腰越小学校	364	14	9	2	373	16
7	西鎌倉小学校	699	22	11	2	710	24
8	深沢小学校	729	23	19	3	748	26
9	富士塚小学校	204	8	10	2	214	10
10	山崎小学校	620	20			620	20
11	小坂小学校	622	20	10	2	632	22
12	玉縄小学校	419	14	8	2	427	16
13	植木小学校	214	8	4	2	218	10
14	関谷小学校	415	14	5	2	420	16
15	大船小学校	544	19	13	4	557	23
16	今泉小学校	466	16	7	2	473	18
	小学校16校計	7,364	250	145	34	7,509	284
1	第一中学校	192	6	6	2	198	8
2	第二中学校	206	6	2	1	208	7
3	御成中学校	392	11	7	2	399	13
4	腰越中学校	315	9	7	2	322	11
5	深沢中学校	489	13	11	2	500	15
6	手広中学校	260	8	5	2	265	10
7	大船中学校	534	15	11	2	545	17
8	玉縄中学校	527	14	13	3	540	17
9	岩瀬中学校	454	12	4	2	458	14
	中学校9校計	3,369	94	66	18	3,435	112



### 【学校施設の地域開放】

- ・学校が使用しないときに地域に開放している校庭、体育館及びプール（夏期）の令和4年度（2022年度）の利用者は、約13.9万人（延べ人数）となっています。



図表 地域開放施設の利用人数

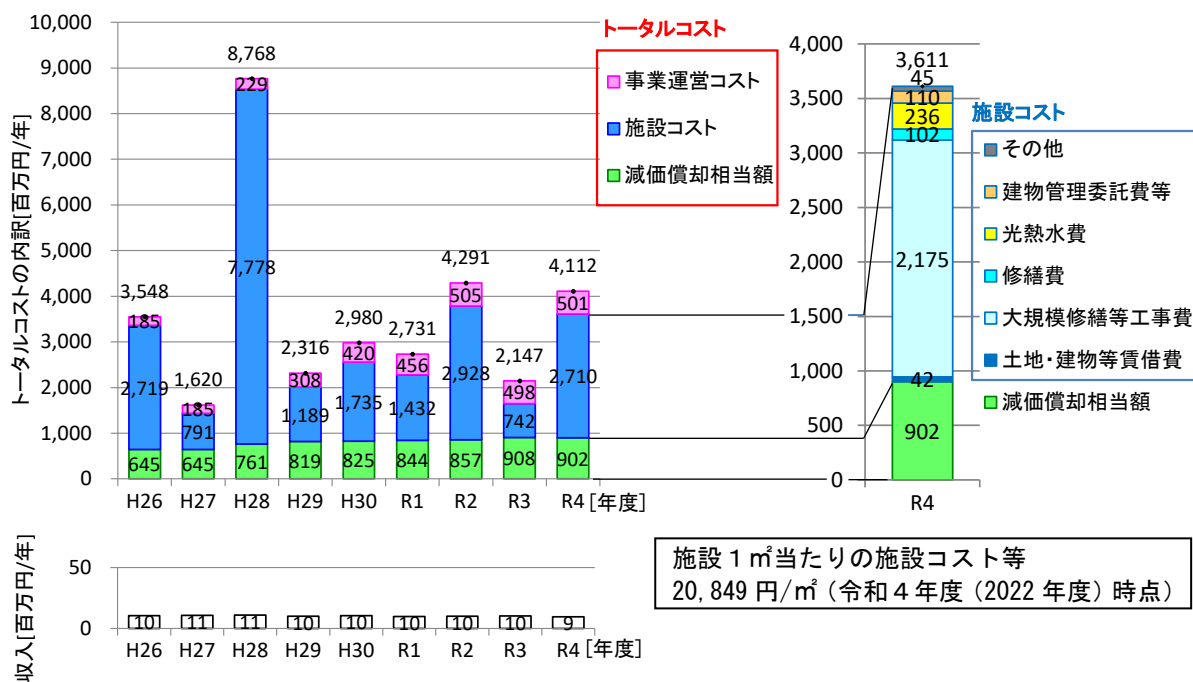
※プール：市立小・中学校のプール

出典：鎌倉の統計

## ウ コスト

- ・小中学校 25 施設の令和 4 年度（2022 年度）のトータルコストは 4,112 百万円です。
- ・大船中学校の建替えのため、平成 28 年度（2016 年度）の施設コストが多くなっています。

図表 学校施設のコストの経年変化と施設コストの内訳（令和 4 年度（2022 年度）時点）



- ※1 事業運営コストには、教職員の人件費は含まない  
 ※2 収入は電柱、校地内駐車場等の使用料

## エ 再編に当たっての課題

- ・将来的に減少すると推計されている年少人口と、学校数のバランスの適正化が求められます。
- ・用途、規模等の規制が厳しい第一種低層住居専用地域や、第一種中高層住居専用地域に学校施設の立地が多いことから、他施設との複合化の検討には留意が必要です。

図表 学校敷地の用途地域と規制の例 (校)

用途地域 <sup>※2</sup>	学校数 <sup>※1</sup>	
	小学校	中学校
第一種低層住居専用地域	4	4
第一種中高層住居専用地域	5	2
第一種住居地域	5	3
第二種住居地域	2	0
合計	16	9

- ※1 敷地が2つの用途地域にまたがる場合は、規制が厳しい方の用途地域に分類  
 ※2 用途地域毎に、建物の用途、規模、高さ等に規制が設けられており、第一種低層住居専用地域の規制が最も厳しい（住宅以外、建築可能な用途が少ない）

#### ④ 子ども・青少年施設

##### ア 施設概要・サービス概要

###### 【子どもの家】

- ・子どもの家（児童福祉法に基づく放課後児童クラブ（学童保育）を本市では「子どもの家」という名称を用いている。）は、就労などの理由により、保護者が昼間家庭にいない（居宅内労働者も対象）小学生に対し、放課後の適切な遊びや生活の場を提供し、家庭的な支援を行う施設です。（厚労省管轄）
- ・子どもの家は16施設（各小学校区）あり、うち1施設（いなむらがさき子どもの家）は小学校内に設置しているほか、9施設を小学校に隣接した敷地に設置しています。
- ・すべての子どもの家が子どもひろば（分室の場合含む）を併設しています。

###### 【子どもひろば】

- ・子どもひろばは、放課後子ども総合プランの「放課後子ども教室（アフタースクール）」と位置付けて実施しており、「放課後子どもひろば」という施設のプレイルーム及び図書室と、小学校の校庭や体育館を使用して、小学生へ居場所を提供するとともに週に1回程度、多様な活動体験（プログラム）を提供しています。（文科省管轄）
- ・多様な体験活動（プログラム）の提供に当たっては、「放課後かまくらっ子推進事務員（コーディネーター）」を設置しており、プログラム講師・施設職員・小学校を繋ぎ、実施に向けた調整を行っています。
- ・子どもひろばの利用者で、子どもの家（学童保育）の利用要件を満たしている場合、台風やインフルエンザ等による小学校の臨時休校時に子どもの家の臨時利用ができます。
- ・子どもひろばは、平日の10時から13時（土曜日は10時から17時まで）の間、乳幼児親子の受け入れを行っています。

###### 【子ども会館】

- ・子ども会館は、地域の子どもたちが自由に遊べるスペースです。
- ・子ども会館は1施設（深沢子ども会館（令和6年（2024年）3月末に閉館予定））あり、幼児（保護者の付き添いが必要）から中学生までが利用できます。
- ・現在は子どもの家を併設した施設はなく、「放課後かまくらっ子」の開始に伴い、他の子ども会館は閉館し、一部の施設は子どもひろばの施設に転用しています。

###### 【青少年会館】

- ・青少年会館では、子供や青少年（30歳未満）育成のための各種講座・教室などが開催されている他、団体や個人が貸室として使用することができます。
- ・30歳以上であっても、青少年育成の模範として活動・青少年との交流を図る活動の場合には、団体や個人が貸室として使用することができます。
- ・青少年会館は2施設あり、鎌倉青少年会館には子どもひろば・子どもの家及び在宅福祉サービスセンターを併設しており、玉縄青少年会館には、ファミリーサポートセンターを併設しています。



図表 子どもの家のサービス概要

利用時間	学校が開校している日	放課後～18時
	学校が休校している日	8時～18時
	土曜日	8時30分～17時30分
閉館日	日曜日、祝日、年末年始(12月29日～1月3日)、その他、市長が認めた日	
延長利用	希望者のみ、平日19時まで	
利用条件	次のすべてに該当する必要があります。 ・児童、保護者ともに鎌倉市に住所を有していること ・保護者の就労等の理由により昼間家庭にいないこと(居住内労働は対象) ・小学校に就学していること	
利用料	児童1人につき 月額 6,000円(令和6年度は月額 7,000円、令和7年度以降は月額 7,500円)(延長利用料 100円/1回の利用毎、早朝利用 100円/1回の利用毎で事前申請必要) 同一世帯で2人以上が利用する場合、2人目以降は半額	

図表 子どもひろばのサービス概要

利用時間	学校が開校している日	放課後～17時(4月～9月) 放課後～16時30分(10月～3月)
	学校が休校している日	8時30分～17時(4月～9月) 8時30分～16時30分(10月～3月)
	土曜日	8時30分～17時(4月～9月) 8時30分～16時30分(10月～3月)
閉館日	日曜日、祝日、年末年始(12月29日～1月3日)、その他、市長が認めた日	
利用条件	次のいずれかに該当する必要があります。 ・放課後かまくらっ子を実施する小学校区の小学校の1年生～6年生 ・放課後かまくらっ子を実施する小学校区に居住している1年生～6年生	
利用料	無料(但し、保険料 500円)	

図表 子ども会館のサービス概要

利用時間	10時～17時(正午から13時までは利用できないことがある)
閉館日	日曜日、祝日、年末年始(12月29日～1月3日)、その他、市長が認めた日
利用条件	幼児から中学生まで(幼児の場合は保護者の付き添いが必要)
施設内容	プレイルーム、図書室、庭
利用料	無料

図表 青少年会館のサービス概要

開館時間	9時～21時30分(日曜・祝日は17時まで)、1時間単位で使用可	
閉館日	毎月最終月曜日(ただし12月は28日)、年末年始(12月29日～1月3日)	
登録	会館を使用するには、団体登録、個人登録が必要。	
使用申込申請	青少年関係団体	使用希望日の2か月前の初日から
	一般団体	使用希望日の1か月前の初日から
施設内容(主なもの)と使用料	鎌倉青少年会館	玉縄青少年会館
	研修室大(70名) :450円/時間	会議室 A(40名) :250円/時間
	研修室小(40名) :250円/時間	会議室 B(30名)※現在貸出をしていません :100円/時間
	調理実習室(25名) :600円/時間	集会室(180名) :900円/時間
—	美術室(20名)、音楽室(24名)、和室(30名) :250円/時間	

図表 青少年会館、子どもひろば、子ども会館、子どもの家の施設概要

名称	延床面積	建築年度	耐震化状況	津波想定	備考
鎌倉青少年会館(青少年会館機能)	262㎡	平成12	-	-	子ども施設、在宅福祉サービスセンターを併設
玉縄青少年会館(青少年会館機能)	462㎡	昭和45	改修済	-	ファミリーサポートセンター併設
放課後子どもひろばにかいどう・にかいどう子どもの家	345㎡	平成12	-	-	鎌倉青少年会館内
放課後子どもひろばだいいち・だいいち子どもの家	363㎡	平成24	-	浸水範囲内	平成24年度(2012年度)に新築(移転)
放課後子どもひろばおなり・おなり子どもの家(旧図書+増築)	369㎡	令和5	-	浸水範囲内	令和5年度(2023年度)に新築・完成
放課後子どもひろばいなむらがさき・いなむらがさき子どもの家(校舎内)	128㎡	昭和55	改修不要	-	校舎内。令和2年(2020年)6月から64㎡拡大。令和7年(2025年)3月から小学校の用地の一部に新築し、移転予定
放課後子どもひろばしちりがはま・しちりがはま子どもの家	276㎡	平成19	-	-	平成19年(2007年)に新築
放課後子どもひろばこしごえ・こしごえ子どもの家	(346㎡)	平成27	-	-	子ども会館は平成25年(2013年)2月から休館し、建替えの上、平成27年(2015年)12月25日に開館。
放課後子どもひろばにしかまくら・にしかまくら子どもの家	300㎡	平成29	-	-	小学校の用地の一部に新築し、移転
放課後子どもひろばふかさわ・ふかさわ子どもの家	471㎡	平成30	-	-	小学校の用地の一部に新築し、移転
放課後子どもひろばふじづか・ふじづか子どもの家	260㎡	昭和57	-	-	昭和57年(1982)に新築
放課後子どもひろばやまさき・やまさき子どもの家	342㎡	昭和62	-	-	昭和62年(1987年)に新築。その後、平成25年(2013年)と平成27年(2015年)に増築
放課後子どもひろばおおふな・おおふな子どもの家	367㎡	平成2	-	-	昭和50年(1975年)に新築。平成2年(1990年)に改築。その後、平成27年(2015年)に増築
放課後子どもひろばおさか・おさか子どもの家	407㎡	平成1	-	-	旧大船第二子ども会館・おおふな第二こどもの家を廃止・移転し、取得した既存建物(旧北鎌倉美術館)にて平成25年(2013年)7月8日に開館
放課後子どもひろばいまいずみ・いまいずみ子どもの家	313㎡	平成29	-	-	小学校の用地の一部に新築し、移転
放課後子どもひろばたまなわ・たまなわ子どもの家	549㎡	令和2	-	-	小学校の用地の一部に新築し、移転
放課後子どもひろばうえき(校舎内)	64㎡	昭和59	-	-	令和2年(2020年)6月から校舎内(64㎡は学校と共用)
放課後子どもひろばうえき分室・うえき子どもの家(旧植木子ども会館)	277㎡	平成16	-	-	旧植木子ども会館内(子どもひろばは分室)
放課後子どもひろばせきや・せきや子どもの家	358㎡	平成30	-	-	小学校の用地の一部に新築し、移転
深沢子ども会館	132㎡	平成26	-	-	暫定施設(平成26年(2014年)8月1日より)
合計	6,392㎡	-	-	-	-

※深沢子ども会館は令和6年(2024年)3月末に閉館予定

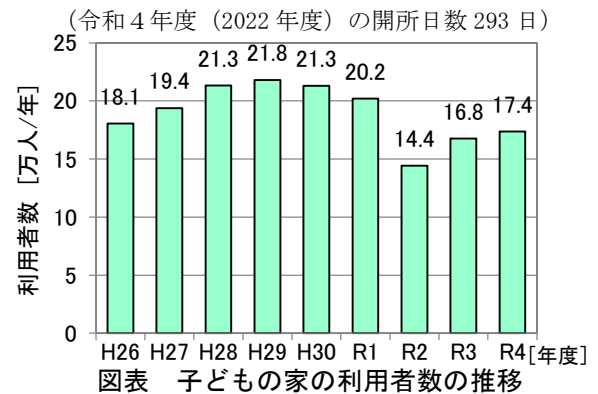


図表 青少年会館、子ども会館、子どもの家の配置

## イ 利用状況

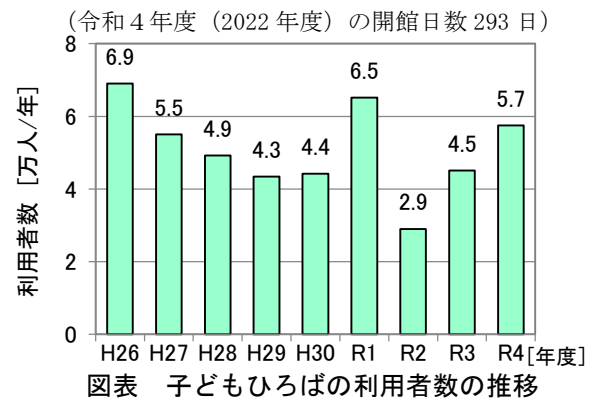
### 【子どもの家】

- ・子どもの家の利用者は、新型コロナウイルス感染症の影響がない令和元年度（2019年度）までは、約20万人前後で推移していましたが、令和2年度（2020年度）は減少しましたが、その後利用者数は増加傾向に転じ、令和4年度（2022年度）の延べ利用者数は約17.4万となっています。



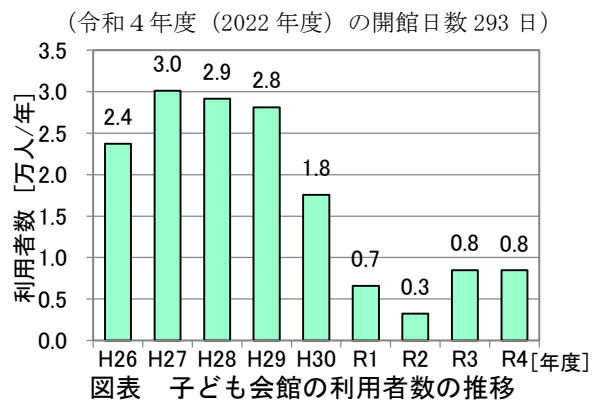
### 【子どもひろば】

- ・子どもひろばの利用者は平成26年度（2014年度）以降減少傾向にありましたが、令和元年度（2019年度）は約6.5万人に増加しています。新型コロナウイルス感染症の影響があった令和2年度（2020年度）の利用者は減少していますが、令和4年度（2022年度）の延べ利用者数は約5.7万人まで増加しています。



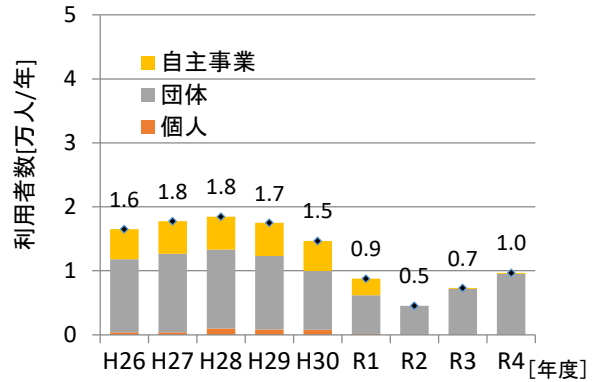
### 【子ども会館】

- ・子ども会館の利用者は平成29年度（2017年度）までは、2.4~3.0万人で推移していましたが、「放課後かまくらっ子（子ども家・子どもひろば）」の実施による施設の閉館に伴い利用者数も減少しており、令和4年度（2022年度）の利用者数は0.8万人となっています。

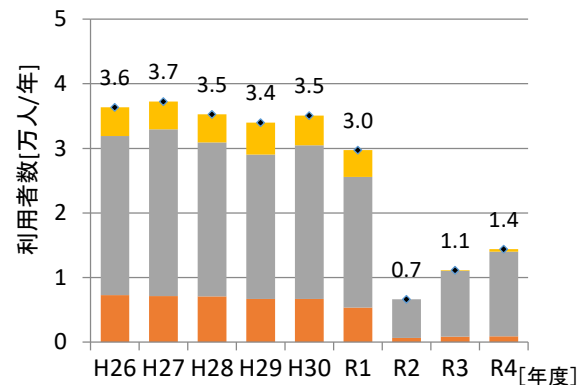


## 【青少年会館】

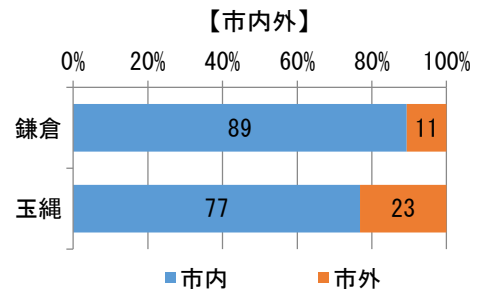
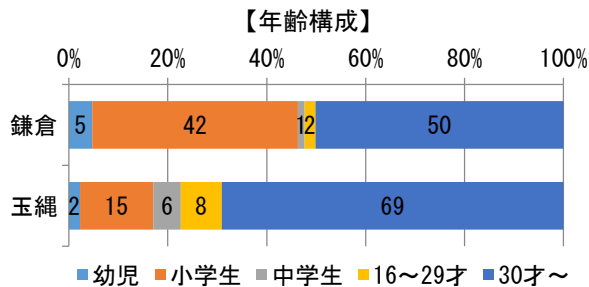
- ・鎌倉青少年会館及び玉縄青少年会館の利用者数は、新型コロナウイルス感染症の影響があった令和2年度（2020年度）以降減少傾向にあり、令和4年度（2022年度）の延べ利用者数は、鎌倉青少年会館で9,695人、玉縄青少年会館で14,391人となっています。また、令和2年度（2020年度）以降、自主事業及び個人での利用者が大幅に減少しています。
- ・令和4年度（2022年度）の利用者の年齢構成は、30歳以上が鎌倉青少年会館で約50%、玉縄青少年会館で約69%となっています。
- ・鎌倉青少年会館の利用者のうち約11%、玉縄青少年会館の利用者のうち約23%が市外の方となっています。



図表 鎌倉青少年会館の利用者数



図表 玉縄青少年会館の利用者数



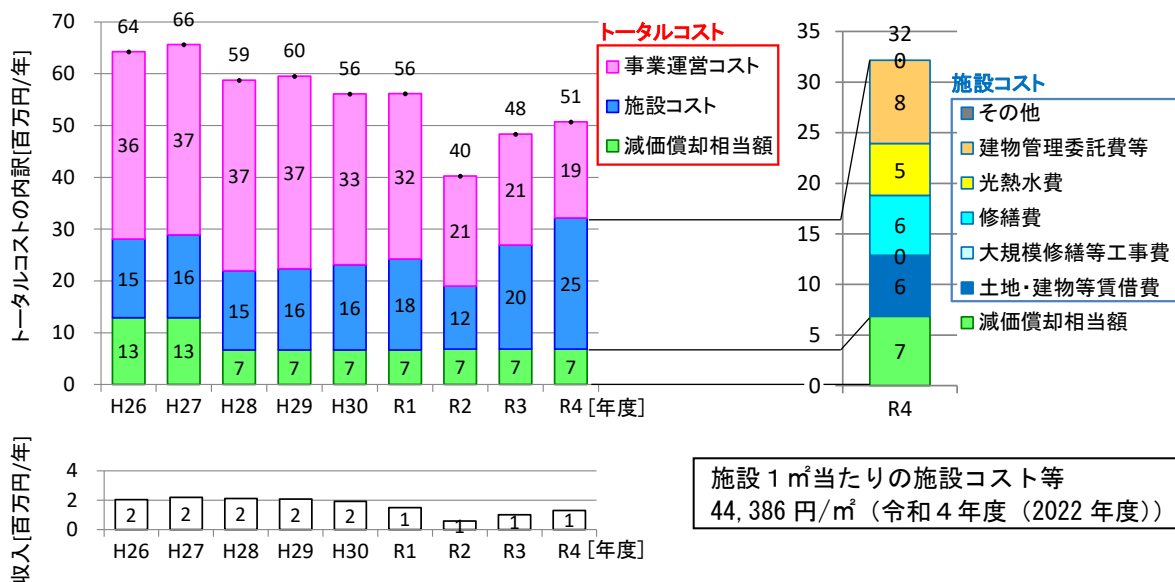
図表 青少年会館の利用者の内訳（令和4年度（2022年度））

## ウ コスト

### 【青少年会館】

・青少年会館の令和4年度（2022年度）のトータルコストは51百万円となっており、事業運営コストが約37%を占めています。

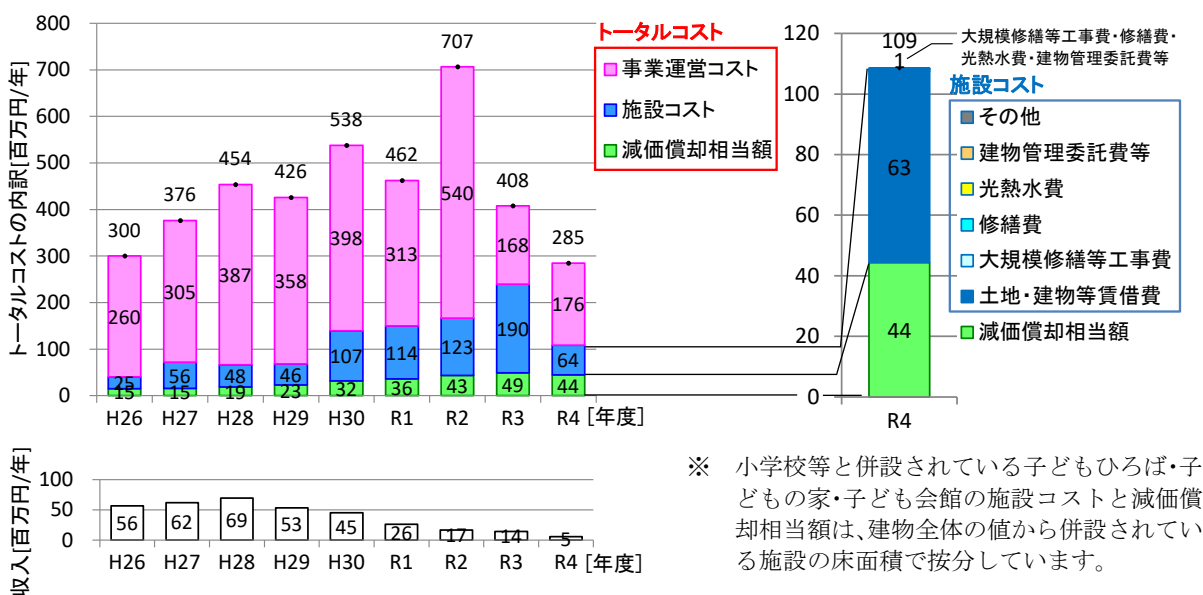
図表 青少年会館のコストの経年変化と施設コストの内訳（令和4年度（2022年度））



### 【子どもひろば・子どもの家・子ども会館】

・子どもひろば・子どもの家・子ども会館の令和4年度（2022年度）のトータルコストは285百万円となっており、事業運営コストが約62%を占めています。

図表 子どもひろば・子どもの家・子ども会館のコストの経年変化と施設コストの内訳（令和4年度（2022年度））



※ 小学校等と併設されている子どもひろば・子どもの家・子ども会館の施設コストと減価償却相当額は、建物全体の値から併設されている施設の床面積で按分しています。

## エ 再編に当たっての課題と関係する計画等

### 【子どもひろば・子どもの家】

- ・一部の子どもの家は小学校から離れた場所にあることから、通所に課題があります。

### 【青少年会館】

- ・青少年会館は、青少年に交流と活動の場を提供し、青少年の健全な育成を図ることを目的に設置されたものですが、利用者の約 61%が 30 歳以上となっている現状から、青少年の居場所となるスペースや貸室機能のあり方の見直しが必要となっています。
- ・玉縄青少年会館は築 50 年経過し、老朽化が課題となっています。

## ⑤ 子育て関連施設（保育園・子育て支援センター）

### ア 施設概要

#### 【保育園】

- ・令和5年（2023年）4月1日時点では、公立の保育施設としては、市立の保育園が5施設あります。民間の保育施設としては、保育園が24施設（うち分園1園）、認定こども園が6施設（うち分園1園）、小規模保育事業施設が4施設、事業所内保育施設が1施設、家庭的保育施設が1施設あります。その他、届出保育施設が29施設（休止中含む）、病児・病後児保育施設が2施設あります。
- ・腰越保育園は、令和5年（2023年）1月から仮園舎で保育を行っています。令和6年（2024年）4月から運営を民間に移管し、民設の新園舎（腰越こどもセンター）で保育を行う予定です。
- ・大船保育園は、今後、施設整備をして、運営を民間に移管する方針です。施設整備の内容によっては所在地が変わる場合もあります。

#### 【子育て支援センター】

- ・子育て支援センターは、主に、0～3歳児の乳幼児と保護者が自由にくつろげるフリースペースです。
- ・子育てアドバイザーが常駐しており、子育てについての相談を行っているほか、子育てに関するイベントや講座も随時行っています。
- ・子育て支援センターの設置がない腰越地域では、代替の事業（つどいの広場）を行っていますが、令和6年（2024年）7月からは民設民営の腰越こどもセンターに併設する子育て支援センターが開設します。

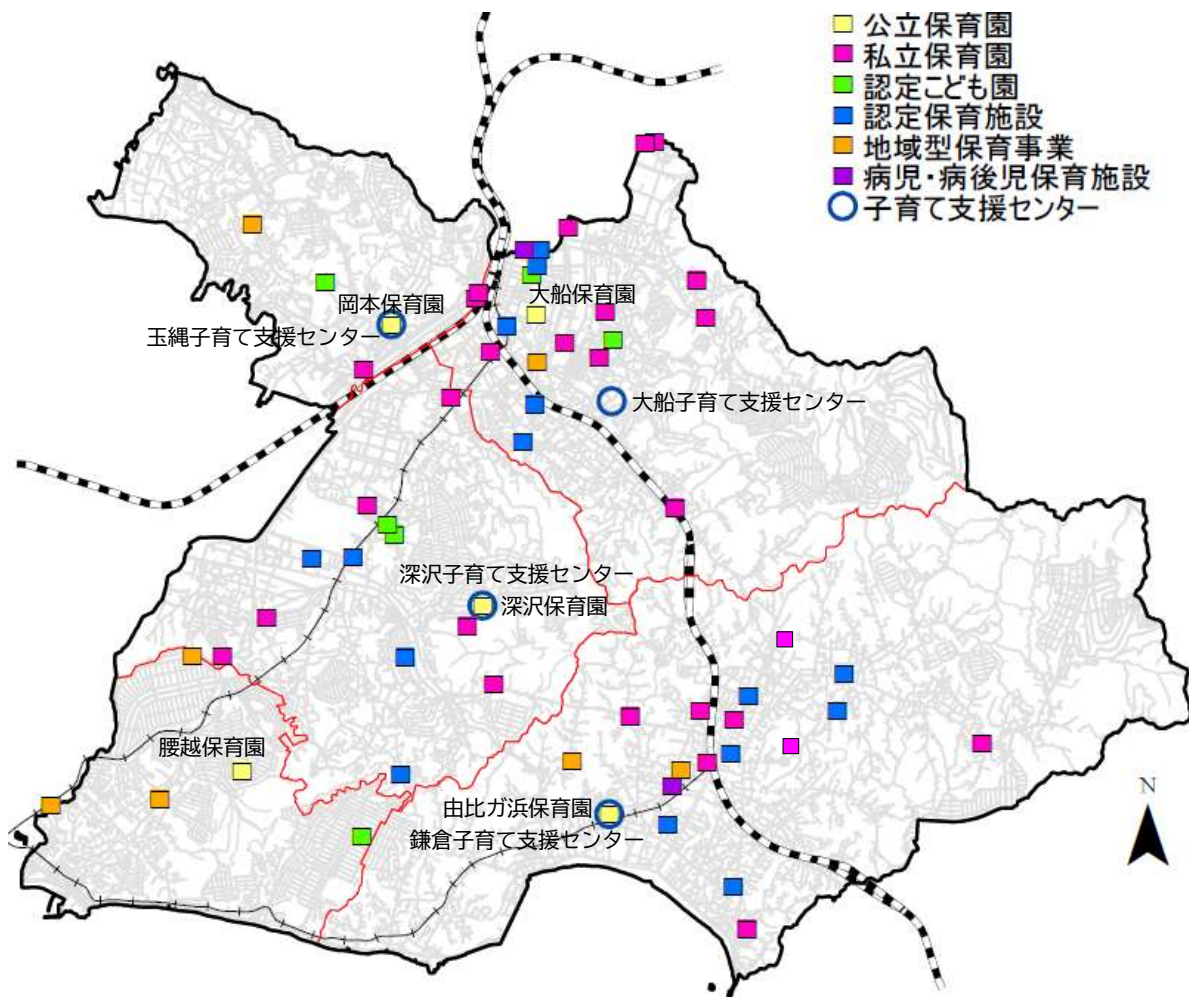
図表 市内の保育施設・幼稚園数 (施設)

		公立	私立	合計
保 育 施 設	保育園	5	24	29
	認定こども園	0	6	6
	小規模保育事業施設	0	4	4
	事業所内保育施設	0	1	1
	家庭的保育施設	0	1	1
	認定保育施設	0	0	0
	届出保育施設	0	29	29
	病児・病後児保育施設	0	2	2
小計		5	67	72
幼稚園		0	21	21

令和5年（2023年）4月1日時点

図表 公立保育園等の施設概要

名称	延床面積	建築年度	耐震化状況	津波想定	備考
公立保育園	5,288 m <sup>2</sup>	-	-	-	
腰越保育園	835 m <sup>2</sup>	昭和43	解体済	-	令和6年(2024年)4月の民営化に向けた民間事業者による建て替えのため、令和5年(2023年)1月に仮設園舎へ移転。
深沢保育園	1,038 m <sup>2</sup>	平成19	-	-	深沢こどもセンター内
大船保育園	692 m <sup>2</sup>	平成8	-	-	-
由比ガ浜保育園	2,029 m <sup>2</sup>	平成29	-	浸水範囲内	由比ガ浜こどもセンター内
岡本保育園	695 m <sup>2</sup>	平成27	-	-	玉縄こどもセンター内
子育て支援センター(公設)	602 m <sup>2</sup>	-	-	-	
鎌倉子育て支援センター	157 m <sup>2</sup>	平成29	-	浸水範囲内	由比ガ浜こどもセンター内
深沢子育て支援センター	223 m <sup>2</sup>	平成19	-	-	深沢こどもセンター内
大船子育て支援センター	115 m <sup>2</sup>	平成1	-	-	放課後子どもひろばおさか・おさか子どもの家内(取得した既存建物(旧北鎌倉美術館)にて平成27年(2015年)3月に開設)
玉縄子育て支援センター	107 m <sup>2</sup>	平成27	-	-	玉縄こどもセンター内
合計	5,890 m <sup>2</sup>	-	-	-	

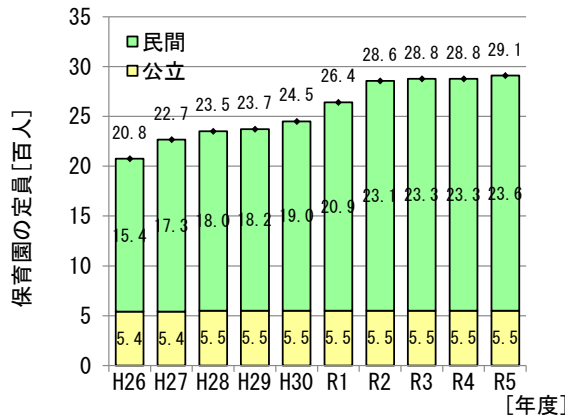


図表 保育園、子育て支援センターの配置

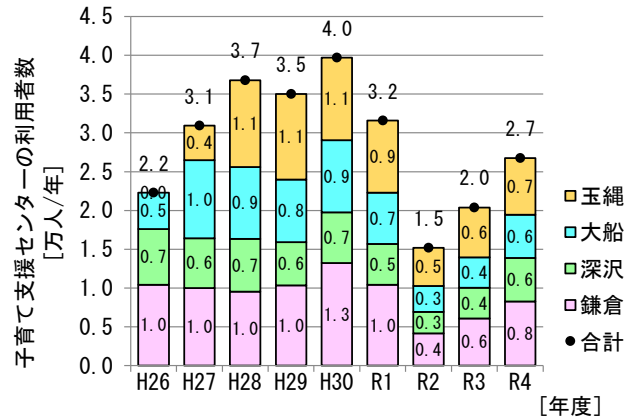


## イ 利用状況等

- 公立保育園の定員は平成 28 年度（2016 年度）以降 550 人となっていますが、私立保育園の定員が平成 26 年度（2014 年度）以降増加傾向にあることから、保育園全体の定員は増加しています。
- 子育て支援センターの利用者数は平成 27 年度（2015 年度）に玉縄子育て支援センターが開設されて以降、新型コロナウイルス感染症の影響があった令和 2 年度（2020 年度）と令和 3 年度（2021 年度）を除き、3 万人前後で推移しています。



図表 保育園の定員の推移



※玉縄子育て支援センターは平成 27 年（2015 年）11 月開設

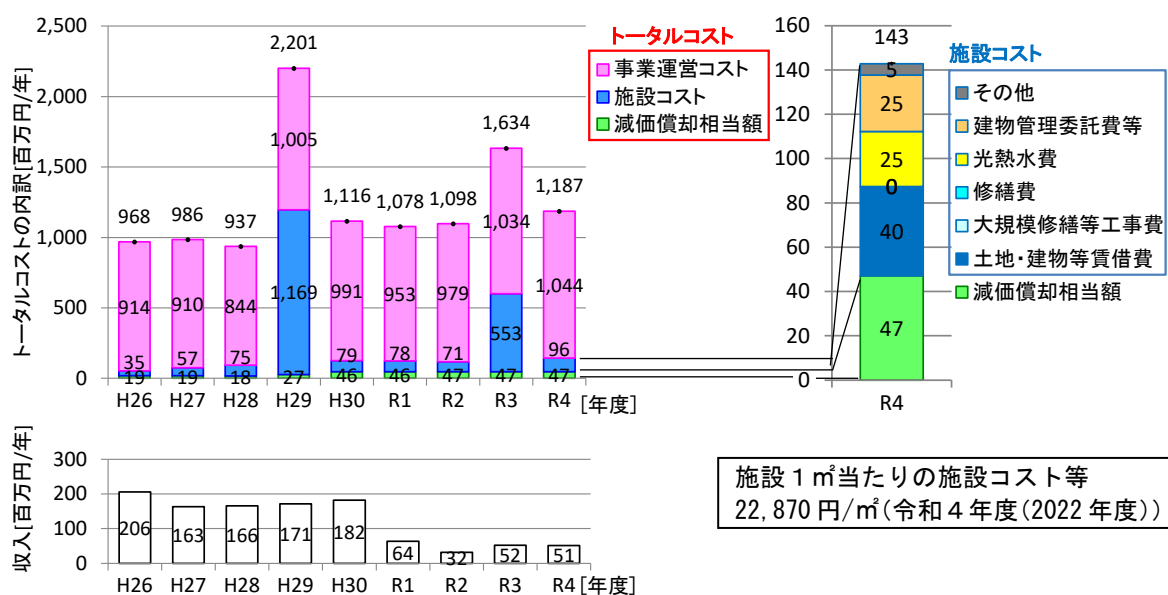
図表 子育て支援センターの利用者数の推移

## ウ コスト

### 【保育園】

- ・ 公立保育園の令和4年度（2022年度）のトータルコストは約1,187百万円、施設1㎡当たりの施設コスト等は22,870円です。
- ・ 由比ガ浜保育園の整備のため、平成29年度（2017年度）の施設コストが多くなっています。

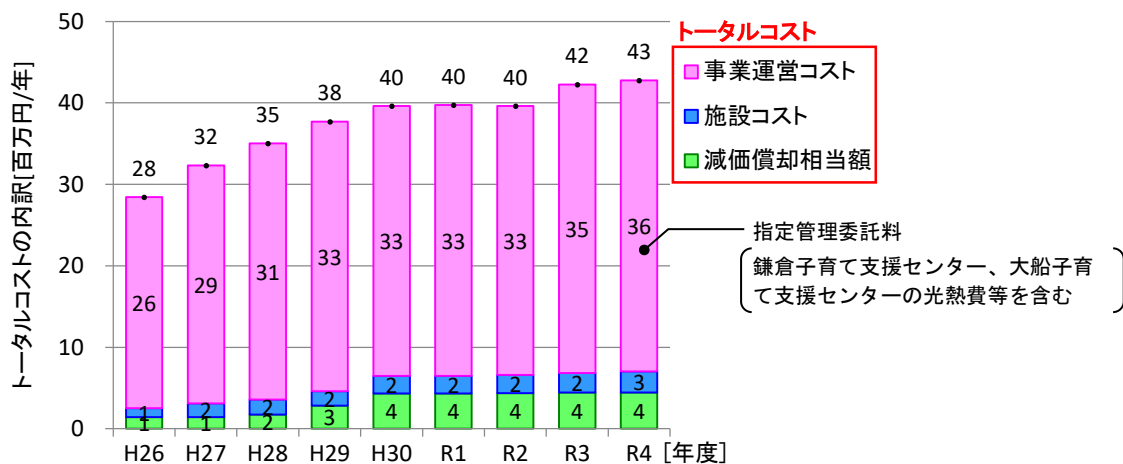
図表 公立保育園のコストの経年変化と施設コストの内訳（令和4年度（2022年度））



### 【子育て支援センター】

- ・ 子育て支援センターのトータルコストは年間40百万円前後で推移しています。

図表 子育て支援センターのコストの経年変化と施設コストの内訳



## エ 再編に当たっての課題と関係する計画等

### 【保育園】

- ・鎌倉市立保育園民営化計画（平成 18 年（2006 年）9 月）に基づき、各行政地域に 1 施設の公立保育園を配置し、拠点保育所に位置付けています。

### 【子育て支援センター】

- ・地域に根差した子育て支援を行うため、各行政地域に 1 施設の設置が求められています。

## 図表 子育て関連施設の規模等に関わる計画等

### ■子ども・子育て支援新制度（平成 27 年（2015 年）4 月から運用開始）

「子ども・子育て支援新制度」は、子どもが健やかに成長することができる社会の実現を目指して創設されたもので、次の 3 つの目的を掲げています。

- ①質の高い幼児期の学校教育・保育の総合的な提供
- ②保育の量的拡大・確保、教育・保育の質的改善
- ③地域の子ども・子育て支援の充実

- ・地域における子育て支援のニーズに応えるため、放課後児童クラブ（鎌倉市では子どもの家）、一時預かり、地域子育て支援拠点事業（鎌倉市では子育て支援センター）、延長保育等のサービスの拡充を図る。

### ■鎌倉市立保育園民営化計画（平成 18 年（2006 年）9 月）

公立保育園については 8 園（当時）のうち、各地域に 1 園、合計 5 園を地域の拠点となる保育園「拠点園」として位置付け、地域性を考慮しながら、公立保育園独自のサービスを提供する方針としています。

### ■鎌倉市拠点保育所整備方針（平成 30 年（2018 年）5 月）

少子高齢化による市税の減収などによる厳しい財政状況でも、拠点保育所としての機能を維持しつつ、更に充実させていくために、今後の大船地域・腰越地域における運営形態や整備手法について整理しています。

## ⑥ 福祉関連施設

### ア 施設概要、サービス概要

#### 【福祉センター】

- ・福祉センターは、福祉の増進及び福祉活動の促進を目的に福祉団体やボランティア等を支援する地域活動の拠点施設となっています。
- ・福祉センターには、社会福祉協議会やデイサービスセンター（民間事業者）、発達支援室執務室などが併設され、貸館の運営は社会福祉協議会に委託しています。

図表 福祉センターのサービス内容等

利用できる方	市内で地域福祉活動に従事している人・団体ほか市民
利用時間	8時30分～21時
休館日	12月29日～1月3日
利用料	無料
主な活動内容	福祉活動、ボランティア活動等

3F	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鎌倉市基幹相談支援センター</li> <li>・鎌倉市職員労働組合</li> </ul>
2F	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉センター(貸館)</li> <li>・鎌倉市社会福祉協議会(地域福祉活動支援事業) ※鎌倉市社会協議会と地域福祉活動支援事業は機能の入居</li> <li>・鎌倉市成年後見センター</li> </ul>
1F	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通所介護(デイサービス)事業</li> <li>・鎌倉市障害者二千人雇用センター</li> <li>・未病センターかまくら</li> <li>・発達支援室</li> </ul>

図表 福祉センター使用状況

#### 【老人福祉センター】

- ・老人福祉センターは、高齢者の健康増進・教養の向上・レクリエーションの場の提供を目的とした60歳以上の高齢者が利用できる施設です。
- ・老人福祉センターには、生活相談室、健康相談室、機能回復訓練室、教養娯楽室、図書室、浴場等があり、無料で利用することができます。
- ・老人福祉センターは、指定管理者制度を導入しています。

図表 老人福祉センターのサービス内容等

利用できる方	市内在住の60歳以上の方
利用時間	9時～16時(浴室 10時30分～15時30分)
休館日	12月28日～1月4日
利用料	無料
主な活動内容	各種講座の開催、サークル活動の場の提供、各種相談(専門職による福祉相談、健康相談を実施)、行事(文化祭、サークル作品展・舞台発表会等を実施)

### 【知的障害者支援施設（鎌倉はまなみ）】

- ・鎌倉はまなみは、知的障害者の自立と社会経済活動への参加を促進することを目的とした施設で、以前は指定管理者制度を導入した上で、本市が施設の維持管理に関する経費とともに、重度の知的障害者への支援に必要な経費を負担してきました。令和3年（2021年）4月に、施設を管理運営していた社会福祉法人に建物を譲渡（土地は当初3年間無償貸付）した上で、引き続き同法人が障害福祉サービスを施設利用者に提供しています。

### 【あおぞら園】

- ・あおぞら園は、発達に支援が必要な児童を対象に、集団生活や遊びなどを通して、人との関わりや生活していく力をつけていくための援助を、保護者と連携しながら行う施設です。
- ・あおぞら園は、令和3年（2021年）4月から指定管理者制度を導入しています。

### 【障害児活動支援センター】

- ・障害児活動支援センターは、障害のある子どもたちなどが放課後等に安心して過ごす場の提供を目的とした施設で、深沢子どもセンター内に設置しています。
- ・障害児活動支援センターは、深沢子どもセンターの建物の一部を社会福祉法人に有償貸付した上で、この法人が公共施設を利用して事業運営を行っています。
- ・児童福祉法に規定する、障害児の生活能力向上のために必要な支援を行い、社会との交流を図ることができるよう支援を行う「放課後等デイサービス」及び余暇活動の場を提供するサービスを行う事業者には賃貸借し、貸家料（賃貸料）の徴収業務及び施設管理に係る光熱水費・委託料等の支払い及び徴収業務を行っています。

### 【障害児通所支援施設】

- ・障害児通所支援施設は、障害のある子どもたちなどへの通所支援事業及び余暇活動の場の提供を目的とした施設で、由比ガ浜子どもセンター内に設置されています。
- ・障害児通所支援施設は、由比ガ浜子どもセンターの建物の一部をNPO法人を含む共同企業体（事業者）に有償貸付した上で、この事業者が公共施設を利用して事業運営を行っています。
- ・児童福祉法に規定する、障害児が日常生活の基本動作及び知識技能を習得し、集団生活に適應できるよう適切かつ効果的な支援を行う「児童発達支援」、障害児の生活能力向上のために必要な支援を行い、社会との交流を図ることができるよう支援を行う「放課後等デイサービス」、これらのサービスを受け障害児が自立した日常生活又は社会生活を営めるよう配慮した計画を作成する「障害児相談支援」の三事業を行う事業者には賃貸借し、貸家料（賃貸料）の徴収業務及び施設管理に係る光熱水費・委託料等の支払い及び徴収業務を行っています。

### 【在宅福祉サービスセンター】

- ・在宅福祉サービスセンターは3施設あり、民間事業者が公共施設を利用して事業運営を行っています。
- ・二階堂在宅福祉サービスセンターは、鎌倉青少年会館に併設しています。
- ・御成町在宅福祉サービスセンターは、用途廃止し、現在、平成29年（2017年）4月1日から保育事業のためにサービスを行う事業者には、平成30年（2018年）4月1日から就労継続支援B型の福祉ショップ運営のためにサービスを行う事業者には貸付を行っています。

		3F	・民間保育園(機能の入居)	3F	・鎌倉市歯科医師会事務局(機能の入居) ・台高齢者相談支援センター(機能の入居) ・訪問介護事業(機能の入居)
2F	・鎌倉青少年会館(貸館) ・放課後子どもひろばにかいどう・ にかいどう子どもの家	2F	・民間保育園(機能の入居)	2F	・台在宅福祉サービスセンター (通所介護(デイサービス)事業)
1F	・二階堂在宅福祉サービスセンター (通所介護(デイサービス)事業)	1F	・就労継続支援事業(飲食店) (機能の入居)	1F	・鎌倉市口腔保健センター ・かまくら地域介護支援機構(機能の入居) ・富士見町町内会館(機能の入居)

鎌倉青少年会館
御成町在宅福祉サービスセンター
台在宅福祉サービスセンター

図表 在宅福祉センターの配置状況

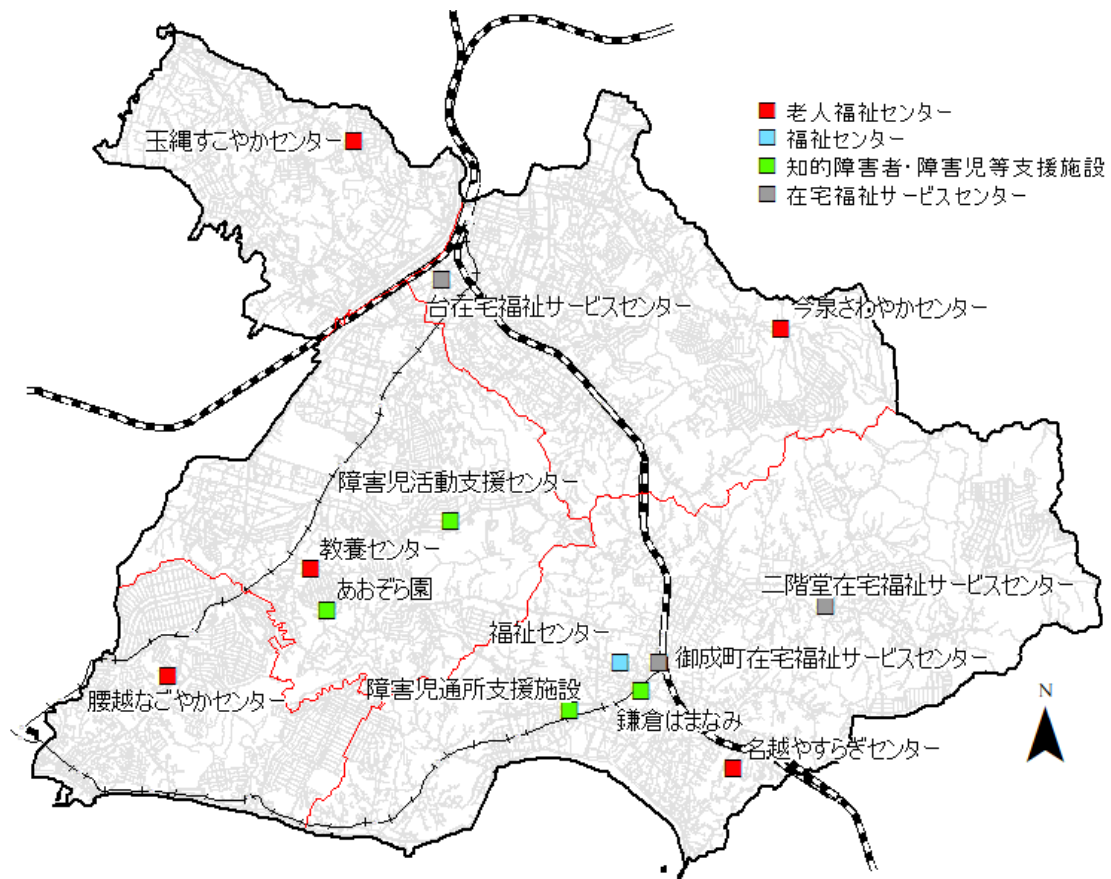
【台在宅福祉サービスセンター】

- ・台在宅福祉サービスセンターは、鎌倉市口腔保健センター等の他機能も導入しています。

図表 福祉施設の施設概要

名称	延床面積	建築年度	耐震化状況	津波想定	備考
福祉センター	660 m <sup>2</sup>	平成3	-	浸水範囲内	延床面積には会議室、地区社協活動室、福祉団体活動室、ボランティア活動室、調理室、車庫2棟を含む
老人福祉センター					
名越やすらぎセンター	1,028 m <sup>2</sup>	昭和47	改修済	-	-
腰越なごやかセンター	599 m <sup>2</sup>	平成28	-	-	平成29年(2017年)2月に新築(移転)
今泉さわやかセンター	1,204 m <sup>2</sup>	昭和62	-	-	-
玉縄すこやかセンター	494 m <sup>2</sup>	昭和58	-	-	-
教養センター	1,608 m <sup>2</sup>	昭和56	改修不要	-	-
障害児活動支援センター	277 m <sup>2</sup>	平成19	-	-	深沢こどもセンター内
あおぞら園	1,043 m <sup>2</sup>	昭和52	改修不要	-	令和3年(2021年)4月から指定管理者制度へ移行
障害児通所支援施設	301 m <sup>2</sup>	平成29	-	浸水範囲内	由比ガ浜こどもセンター内 (由比ガ浜こどもセンターの整備に併せて、平成30年(2018年)4月に新設)
在宅福祉サービスセンター					民営(場所の提供)
二階堂在宅福祉サービスセンター	715 m <sup>2</sup>	平成12	-	-	鎌倉青少年会館内
御成町在宅福祉サービスセンター	59 m <sup>2</sup>	平成4	-	浸水範囲内	-
台在宅福祉サービスセンター	608 m <sup>2</sup>	平成9	-	-	-
合計	8,596 m <sup>2</sup>	-	-	-	-

※「鎌倉はまなみ」は、公設民営の施設であったが、建物を譲渡し、令和3年(2021年)4月1日より完全民営化(土地貸付)

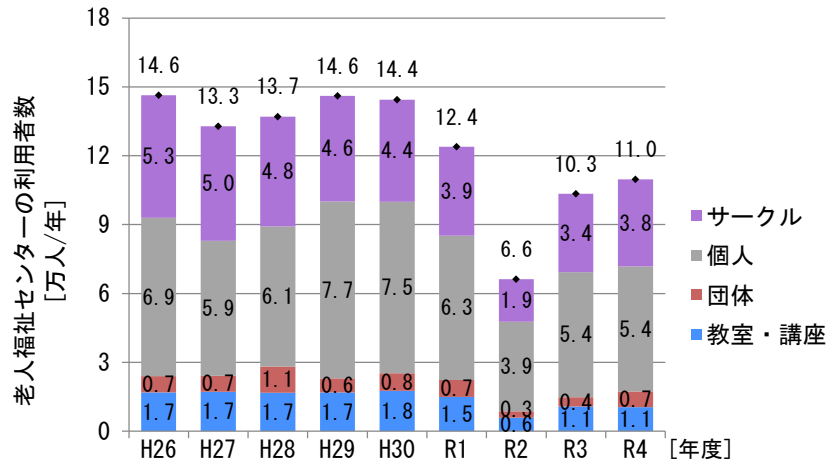


図表 福祉施設の配置

## イ 利用状況

### 【老人福祉センター】

- 老人福祉センター5施設の利用者数は、新型コロナウイルス感染症の影響があった令和2年度（2020年度）を除き、平成26年度（2014年度）から令和4年度（2022年度）で年間約10～14万人（延べ人数）で推移しています。

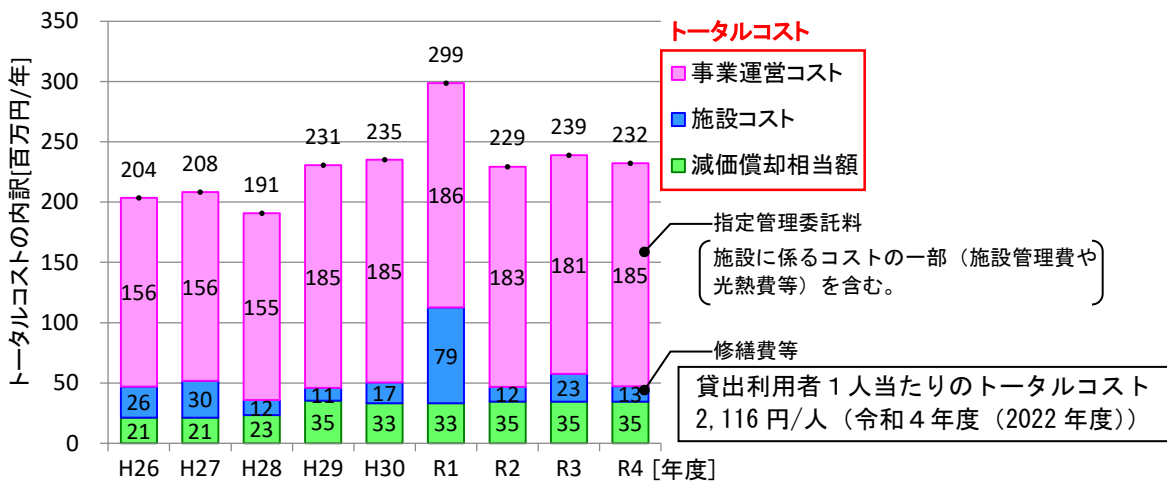


図表 老人福祉センターの利用者数

## ウ コスト

- 老人福祉センターのトータルコストは年間200百万円前後で推移しています。（指定管理者制度<sup>\*8</sup>を導入しているため、事業運営コスト（指定管理委託料）の中に、施設管理費や光熱費等が含まれています。）
- 老人福祉センターの貸出利用者1人当たりのトータルコストは2,116円（令和4年度（2022年度））です。

図表 老人福祉センターのコストの経年変化と施設コストの内訳



## エ 再編に当たっての課題と関係する計画等

### 【老人福祉センター】

- 老人福祉センターは、高齢化の進行に伴い行政上一定の支援が求められる中で、サービスの提供方法の工夫などコスト削減の検討が必要となっています。

<sup>\*8</sup> 指定管理者制度：「公の施設」の管理運営を行う民間事業者等を「指定管理者」として指定することにより、民間のノウハウを活用しつつ、サービスの向上と経費の節減等を図ることを目的とした制度。



## ⑦ 生涯学習施設

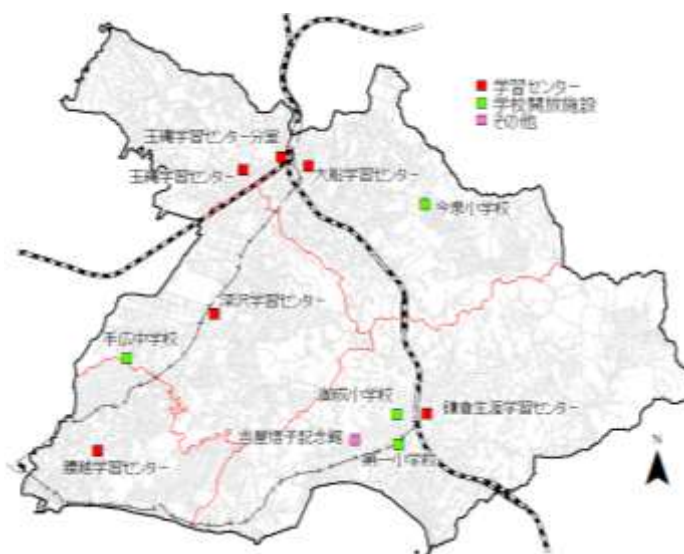
### ア 施設概要・サービス概要

#### 【学習センター】

- ・学習センターは、市民の生涯学習を推進するための拠点として市内に6施設設置されており、単独施設である鎌倉生涯学習センターを除く5施設は、各地域の行政センターとたまなわ交流センター内（玉縄学習センター分室）に設置されています。
- ・施設の内容としては、286席のホール・ギャラリー（鎌倉生涯学習センター）、集会室、調理室、音楽室などがあり、本市に在住又は通勤・通学している方を含む5名以上の団体等が利用できます。
- ・貸室機能については、市内の他の公共施設においても、同様の集会室等を提供している施設があります。
- ・鎌倉生涯学習センターの敷地は借地です。
- ・令和4年度（2022年度）から指定管理者制度を導入しています。
- ・鎌倉生涯学習センターは、市庁舎現在地において中央図書館等と複合化して整備し、拠点となる施設としての機能の充実を図る予定です。深沢学習センターは、新庁舎に移転し、バリアフリーに配慮するとともに、集会室等を整備し市民活動の場とします。ホール機能、料理実習機能、和室機能については、既存施設においてニーズが高いことに配慮し、同様の機能を踏襲することを検討していきます。

#### 【吉屋信子記念館】

- ・作家 吉屋信子の遺志により土地・建物などが鎌倉市に寄贈されたもので、建物は、吉田五十八（近代数寄屋建築の第一人者）により設計されたものです。
- ・平成29年（2017年）6月に登録有形文化財に登録（主屋と門及び塀）されました。
- ・市民の学習施設として利用されている他、春と秋に一般公開を行っています。



図表 学習施設の配置

#### 【学校開放施設】

- ・第一小学校、御成小学校、今泉小学校、手広中学校の多目的室等は、学校開放学習施設として利用されています。

図表 学習センターの施設概要

名称	延床面積	建築年度	耐震化状況	津波想定	備考
鎌倉生涯学習センター	5,075 m <sup>2</sup>	昭和57	改修済	浸水範囲内	借地
腰越学習センター	744 m <sup>2</sup>	平成10	-	浸水範囲内	腰越行政センター内
深沢学習センター	1,186 m <sup>2</sup>	昭和55	改修不要	-	深沢行政センター内
大船学習センター	587 m <sup>2</sup>	昭和40	改修済	-	大船行政センター内
玉縄学習センター	1,186 m <sup>2</sup>	昭和62	-	-	玉縄行政センター内
玉縄学習センター分室	280 m <sup>2</sup>	平成10	-	-	たまなわ交流センター内
合計	9,058 m <sup>2</sup>	-	-	-	

図表 吉屋信子記念館の施設概要

名称	延床面積	建築年度	耐震化状況	津波想定	備考
吉屋信子記念館	208 m <sup>2</sup>	昭和37	診断未実施	浸水範囲内	一般公開日以外利用可能

学習センターの利用条件等

利用できる方	本市に在住又は通勤し、若しくは通学している方を含む5名以上の団体。 学習センターの利用を申込みためには、事前に団体の登録が必要。
開館時間	9:00～21:00 まで（延長利用の場合を除く）
利用区分	①9:00～11:00、②11:30～13:30、③14:00～16:00、④16:30～18:30、⑤19:00～21:00、⑥21:00～22:00
休館日	毎月最終月曜日（ただし12月は28日）、年末年始（12月29日～1月3日）

鎌倉

種類と定員	使用料(円)		
	①～⑤	⑥	全日
第1集会室(14人・1F)	600	300	3,600
第2集会室(12人・2F)	400	200	2,400
第3集会室(20人・3F)	400	200	2,400
第4集会室(20人・3F)	500	250	3,000
第5集会室(57人・3F)	1,160	580	6,960
第6集会室(52人・4F)	1,260	630	7,560
第7集会室(30人・4F)	620	310	3,720
音楽室(50人・2F)	1,700	850	10,200
和室(32畳/40人・3F)	1,400	700	8,400
美術創作室(36人・4F)	1,400	700	8,400

ホール					
区分	入場料(会費)を徴収するもの		入場料(会費)を徴収しないもの		楽屋
	平日	日曜日 土曜日 休日	平日	日曜日 土曜日 休日	
①9:00～12:00	20,250	26,250	8,100	10,500	1,650
②13:00～16:00	20,250	26,250	8,100	10,500	1,650
③17:00～21:00	32,400	43,000	13,000	17,200	2,640
④21:00～22:00	8,100	10,750	3,250	4,300	660
全日	72,900	95,500	29,200	38,200	5,940

ギャラリー						
区分	入場料(会費)を徴収するもの	入場料(会費)を徴収しないもの				
		全フロア	A室	B室	C室	D室
全日	5,600	28,000	7,000	7,000	7,000	7,000

腰越

種類	定員	使用料(円)		
		①～⑤	⑥	全日
第1集会室(1F)	18人	400	200	2,400
第2集会室(2F)	15人	300	150	1,800
第3集会室(2F)	36人	800	400	4,800
第4集会室(B1F)	110人	2,000	1,000	12,000
和室(2F)	8人	300	150	1,800
美術創作室(2F)	25人	1,060	530	6,360
料理実習室(2F)	25人	1,800	900	10,800

吉屋信子記念館の定員と使用料

種類	定員	使用料(円) (一般公開日は入場無料)	
応接室及び和室	15人	午前(9:00-12:00) 2,000	午後(13:00-16:00) 2,000

学校開放施設の定員と利用時間(使用料は無料)

	種類	定員	利用時間		
			午前	午後	夜間
第一小学校開放施設	多目的室1	60人	9:00-12:00	13:00-17:00	18:00-21:00
	多目的室2	45人			
御成小学校開放施設※	多目的ルーム	50人	9:00-13:00	13:00-17:00	平日 17:45(その他17:00)-21:00
今泉小学校開放施設※	多目的室	40人	9:00-13:00	13:00-17:00	17:00-21:00
	和室	30人			
	図工室	40人			
手広中学校開放施設※	多目的室1	40人	9:00-13:00	13:00-17:00	17:00-21:00
	多目的室2	40人			

※平日(月～金)は夜間のみ。土曜日・日曜日・祝日及び学校の休業日は午前・午後・夜間の使用が可能。

深沢

種類	定員	使用料(円)		
		①～⑤	⑥	全日
第1集会室(1F)	54人	860	430	5,160
第2集会室(1F)	54人	860	430	5,160
第3集会室(2F)	30人	400	200	2,400
第4集会室(3F)	24人	600	300	3,600
第5集会室(3F)	12人	400	200	2,400
ホール(3F)	200人	2,200	1,100	13,200
和室(1F)	15人	800	400	4,800
料理実習室(3F)	26人	1,800	900	10,800

大船

種類	定員	使用料(円)		
		①～⑤	⑥	全日
第1集会室(3F)	54人	1,120	560	6,720
第2集会室(3F)	36人	600	300	3,600
第3集会室(3F)	24人	560	280	3,360
第4集会室(3F)	24人	560	280	3,360

玉縄

種類	定員	使用料(円)		
		①～⑤	⑥	全日
第1集会室(1F)	54人	880	440	5,280
第2集会室(2F)	42人	720	360	4,320
第3集会室(3F)	10人	300	150	1,800
第4集会室(3F)	150人	1,800	900	10,800
和室(2F)	30人	1,000	500	6,000
料理実習室(3F)	30人	1,800	1,900	10,800

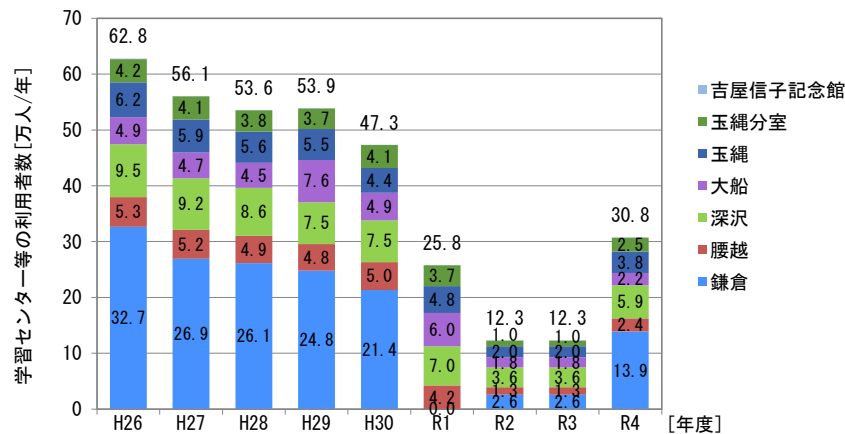
玉縄分室

種類	定員	使用料(円)		
		①～⑤	⑥	全日
第1集会室(B1F)	50人	880	440	5,280
第2集会室(2F)	24人	560	280	3,360
第3集会室(2F)	56人	1,000	500	6,000

※各施設⑥の時間枠単独での利用は不可

## イ 利用状況について

- 令和4年度（2022年度）の学習センターの利用者数は30.8万人（延べ人数）で、鎌倉生涯学習センターが、約45%を占めています。
- 学習センターの利用者数は、平成26年度（2014年度）から耐震改修工事による休館（平成30年（2018年）12月28日から令和2年（2020年）9月まで休館）に至るまで減少傾向であり、また、休館後も、新型コロナウイルス感染症の影響を受けるとともに、主催事業の開催回数の減少も影響し利用者数が減少したと考えられます。ただし、サークル活動数は、利用区分の変更等により増加傾向にあります。（サークル活動数／令和3年度（2021年度）：10,618団体、令和4年度（2022年度）：23,572団体）
- 令和4年度（2022年度）の学習センターのホール・集会室の利用率は平均約51%で、特に鎌倉生涯学習センターのホールと大船学習センターの利用率が高くなっています。
- 夜間利用率については、大船駅から比較的近い大船学習センターと玉縄学習センター分室が高く、腰越学習センターと玉縄学習センターが低くなっています。



図表 学習センター等の利用者数の推移

図表 学習センターの利用率（令和4年度（2022年度））

	鎌倉		腰越	深沢	大船	玉縄	玉縄分室	合計
	開館日数	集会室	集会室	集会室	集会室	集会室	集会室	平均
開館日数	347日	347日	347日	347日	261日	347日	347日	-
集会室等利用率	ホール	集会室						平均
午前	74.2%	68.4%	46.3%	68.1%	76.4%	53.8%	62.0%	62.5%
午後	86.3%	63.6%	39.0%	56.6%	69.7%	48.5%	63.3%	56.2%
夜間	45.5%	24.3%	14.0%	26.8%	56.2%	19.2%	48.8%	26.8%
平均	68.6%	55.4%	35.4%	53.4%	67.7%	43.1%	59.3%	51.0%
地域別人口 (R4.10.1)	45,491人		23,816人	33,820人	44,600人	24,701人		172,428人

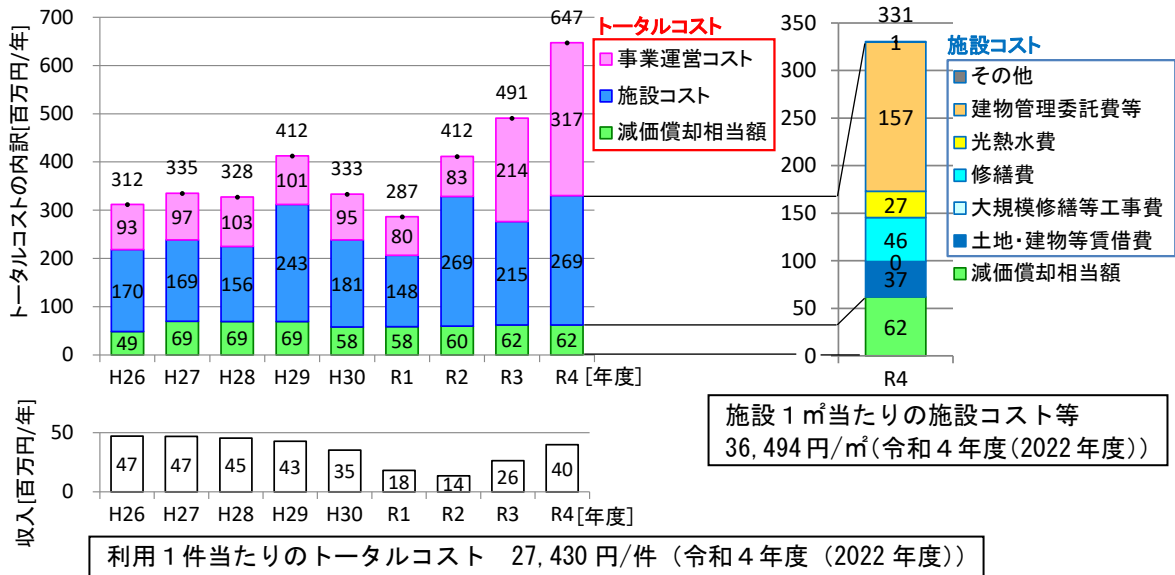
図表 吉屋信子記念館の利用状況（令和4年度（2022年度））

開館日数	347日
利用総日数	59日
利用件数（利用団体）	11件
利用総人数	268人

## ウ コスト

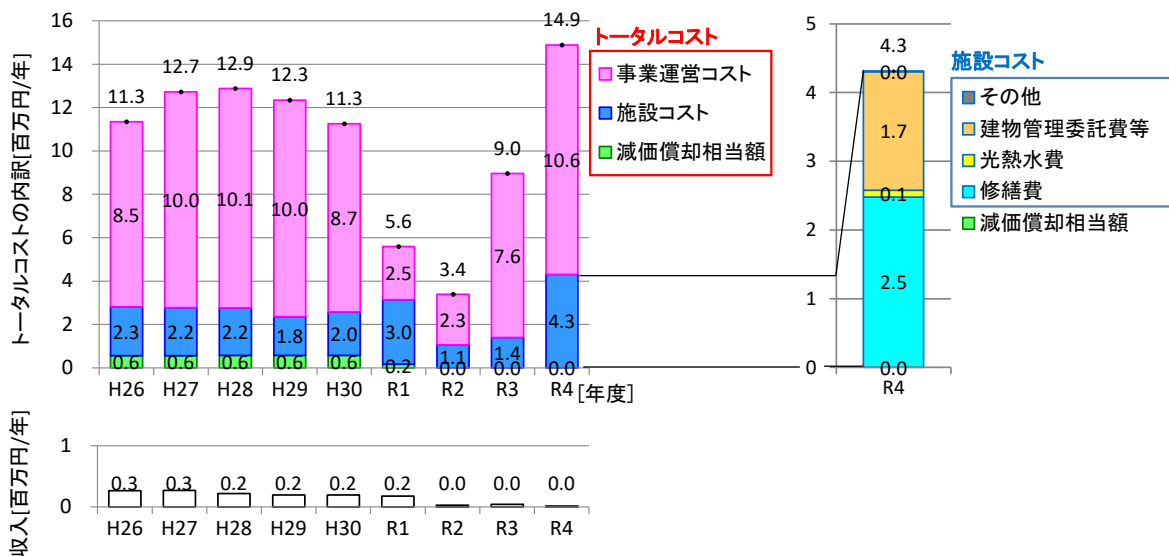
- ・学習センターの令和4年度（2022年度）のトータルコストは647百万円で、事業運営コストが約49%を占めています。
- ・学習センターの令和4年度（2022年度）の利用1件当たりのトータルコストは27,430円で

図表 学習センターのコストの経年変化と施設コストの内訳（令和4年度（2022年度））



※ 学習センターの施設コストと減価償却相当額は、行政センター全体の値から支所、学習センター、図書館の床面積で按分しています。

図表 吉屋信子記念館のコストの経年変化と施設コストの内訳（令和4年度（2022年度））



## エ 再編に当たっての課題

- ・鎌倉生涯学習センターは、鎌倉駅至近の利便性の高い場所に立地していますが、敷地が借地であることから、コスト面での課題があり、今後の方向性の検討が必要となっています。
- ・地域学習センターがある行政センターは、地域拠点校等の整備までの間、現在の施設が利用できるよう維持管理が必要となります。

## ⑧ 図書館

### ア 施設概要

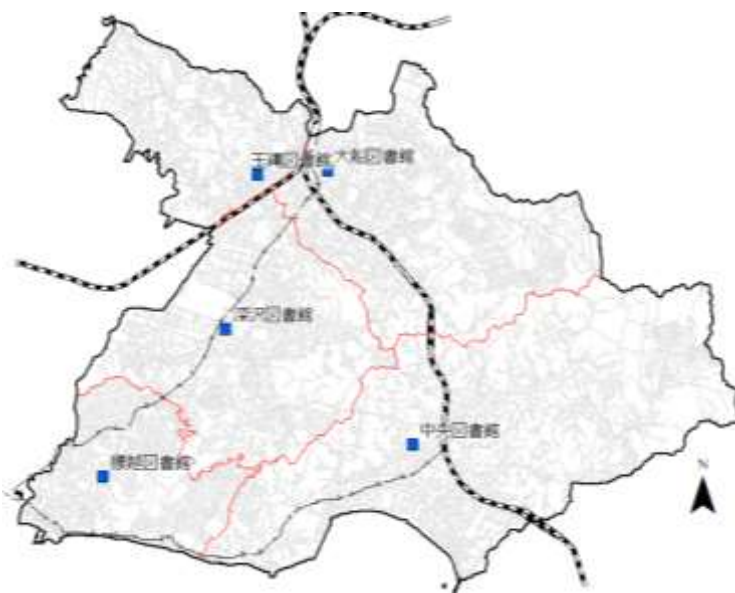
- ・図書館は地域ごとに5施設あり、単独施設である中央図書館の他は、各行政センターに併設されています。
- ・中央図書館は令和3年度（2021年度）に耐震改修工事を実施し、これによりIS値は0.55から0.62に改善し、地震に対する安全性は向上しました。館内設備等の抜本的な改修は実施していないため、利用者ニーズに対応できていない部分があります。
- ・中央図書館は、市庁舎所在地において生涯学習センター機能等と複合化して整備し、拠点図書館としての機能の充実を図る予定です。深沢図書館は、新庁舎に移転し整備を行い、学校貸出機能、市庁舎内図書館としての機能の充実を図る予定です。腰越・大船・玉縄の各地域図書館は、情報拠点としての機能を保持しつつ、多世代が交流できる機能と複合化する予定です。

図表 図書館の施設概要(1)

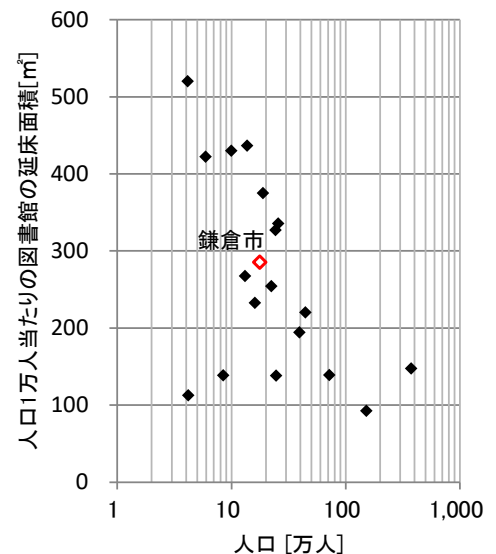
名称	延床面積	建築年度	耐震化状況	津波想定	備考
中央図書館	2,576 m <sup>2</sup>	昭和49	改修済	浸水範囲内	
腰越図書館	684 m <sup>2</sup>	平成10	-	浸水範囲内	腰越行政センター内
深沢図書館	820 m <sup>2</sup>	昭和55	改修不要	-	深沢行政センター内
大船図書館	462 m <sup>2</sup>	昭和40	改修済	-	大船行政センター内
玉縄図書館	512 m <sup>2</sup>	昭和62	-	-	玉縄行政センター内
合計	5,054 m <sup>2</sup>	-	-	-	

図表 図書館の施設概要(2)

名称	面積内訳					閲覧席
	一般コーナー	児童コーナー	ブラウジングコーナー	AVコーナー	書庫	
中央図書館	575 m <sup>2</sup>	143 m <sup>2</sup>	56 m <sup>2</sup>	58 m <sup>2</sup>	314 m <sup>2</sup>	125 席
腰越図書館	240 m <sup>2</sup>	130 m <sup>2</sup>	35 m <sup>2</sup>	30 m <sup>2</sup>	92 m <sup>2</sup>	56 席
深沢図書館	380 m <sup>2</sup>	126 m <sup>2</sup>	42 m <sup>2</sup>	-	168 m <sup>2</sup>	29 席
大船図書館	190 m <sup>2</sup>	135 m <sup>2</sup>	40 m <sup>2</sup>	8 m <sup>2</sup>	-	24 席
玉縄図書館	224 m <sup>2</sup>	123 m <sup>2</sup>	72 m <sup>2</sup>	-	-	43 席
合計	1,609 m <sup>2</sup>	657 m <sup>2</sup>	245 m <sup>2</sup>	96 m <sup>2</sup>	574 m <sup>2</sup>	277 席



図表 図書館の配置



図表 県内市の人口と図書館の延床面積の関係

出典：市町村公共施設状況調査（令和3年度（2021年度））をもとに作成

## イ 利用状況

- ・開館時間については、中央図書館は9時30分から18時まで、他の館は8時45分から17時15分までであり、いずれも平日の木曜、金曜日は19時まで夜間開館を行っています。貸出利用人数の約9%が夜間開館における利用者です。
- ・予約受付件数のうち、インターネットの利用が約79%となっています。
- ・市民の登録率は約37%です。令和4年度（2022年度）に貸出利用した市民の数は22,308人（13%）です。なお、登録率及び貸出利用した市民の割合は参考数値です。
- ・中央図書館、大船図書館の利用が他の館と比較して若干多いですが、5館がほぼ偏りなく利用されています。

図表 令和4年度（2022年度）の図書館の利用状況等

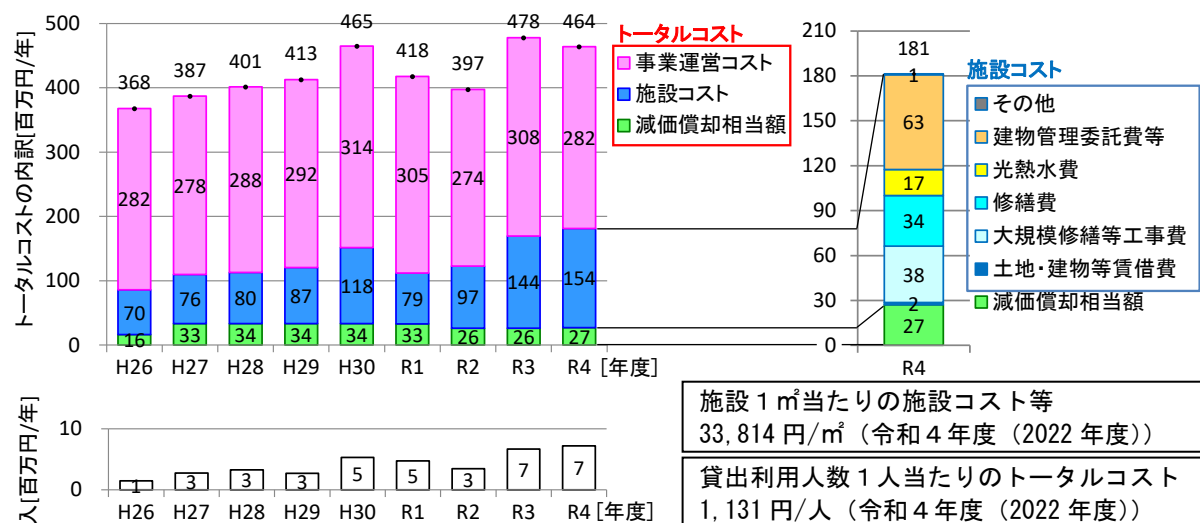
	中央	腰越	深沢	大船	玉縄	合計
開館日数[日/年]	295	304	304	304	304	-
うち夜間開館	93	95	95	95	95	-
登録者数[人]	25,643	8,751	10,776	15,891	9,936	70,997
貸出利用人数[人]	115,122	61,064	71,846	99,320	62,801	410,153
うち夜間開館	14,471	4,414	5,167	7,464	4,442	35,958
全資料数[点]	284,344	110,528	96,513	65,851	73,091	630,327
図書・雑誌等	270,059	109,342	95,422	64,146	71,789	610,758
A V資料	14,285	1,186	1,091	1,705	1,302	19,569
貸出点数[点]	354,924	214,917	239,925	311,329	211,018	1,332,113
うち夜間開館	17,135	10,318	10,202	14,157	8,933	60,745
予約受付件数[件]	372,623	18,813	13,953	18,056	13,468	436,913
各館(窓口・OPAC)	28,800	18,813	13,953	18,056	13,468	93,090
インターネット	343,823					343,823

※夜間開館は祝休日を除く、平日の木曜、金曜日の19:00まで実施

## ウ コスト

- ・図書館の令和4年度（2022年度）のトータルコストは464百万円で、事業運営コストが約61%を占めています。

図表 図書館のコストの経年変化と施設コストの内訳（令和4年度（2022年度））



※ 図書館の施設コスト減価償却相当額は、行政センター全体の値から支所、学習センター、図書館の床面積で按分しています。

## エ 再編に当たった課題

- ・中央図書館の老朽化が著しく進んでおり、市庁舎現在地に複合化されるまでの間、修繕等により適切に維持管理する必要があります。
- ・すべての図書館で、資料の保存スペース、利用者要望のある閲覧スペースなどが十分でなく、図書館サービスに影響を及ぼす可能性があります。
- ・図書館は乳幼児から高齢者まで利用する施設であり、歩いていくことが可能な距離にあるなど身近にあることが望ましいと考えています。
- ・地域図書館がある行政センターは、地域拠点校等の整備までの間、現在の施設が利用できるよう維持管理が必要となります。

## ⑨ スポーツ施設

### ア 施設概要・サービス概要

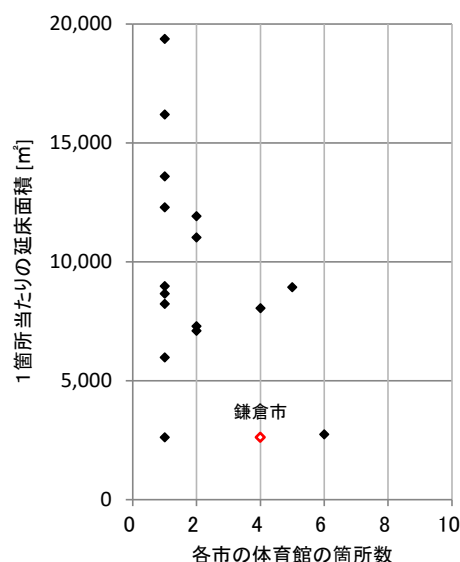
- ・スポーツ施設として、体育館3施設と鎌倉武道館、鎌倉海浜公園水泳プール、こもれび山崎温水プールがあります。
- ・鎌倉体育館と大船体育館は築40年以上で老朽化が進んでいます。
- ・県内他市と比較すると、本市は比較的規模の小さい体育館が複数あることが特徴となっています。体育館を1つのみ保有する他市等における体育館の延床面積は約2,500㎡から約20,000㎡とばらつきが大きく、体育館に求める内容（どのような競技を行うのか等）が違いためと考えられます。
- ・体育館3施設と鎌倉武道館は、指定管理者制度を導入しています。
- ・こもれび山崎温水プールはPFI<sup>\*9</sup>事業（BOT<sup>\*10</sup>）により施設整備と運営（15年間）を行ったあと、民間事業者は無償貸付し、事業運営を行っています。

図表 スポーツ施設の概要

名称	延床面積	建築年度	耐震化状況	津波想定	備考
体育館・武道館					
鎌倉体育館	2,864㎡	昭和45	改修済	浸水範囲内	駐車場24台
大船体育館	1,573㎡	昭和58	-	-	駐車場19台
見田記念体育館	808㎡	平成16	-	浸水範囲内	駐車場2台(身障者用)
鎌倉武道館	5,217㎡	平成5	-	-	駐車場49台
プール					
鎌倉海浜公園水泳プール	1,457㎡	昭和30	診断・改修未(一部)	浸水範囲内	
こもれび山崎温水プール	3,346㎡	平成17	-	-	駐車場50台 PFI期間(15年)の終了に伴いR2.2~R12.3貸付 PFI期間(15年、H17.2~H30.1)
合計	15,265㎡	-	-	-	



図表 スポーツ施設の配置



図表 県内市の体育館の設置箇所数と1箇所当たりの延床面積の分布

出典：市町村公共施設状況調査（令和3年度（2021年度））をもとに作成

\*9 PFI：Private Finance Initiativeの略。民間の資金と経営能力・技術力（ノウハウ）を活用し、公共施設等の設計・建設・改修・更新や維持管理・運営を行う公共事業の手法。

\*10 BOT：Build Operate Transferの略。民間事業者が施設を建設し、維持管理及び運営し、事業終了後に公共に施設所有権を移転する方式。



■体育館

利用者	団体利用はあらかじめ登録し、予約の上で利用。 ※登録することができる団体は、人数が10名以上、その半数以上が本市に在住又は通勤し、若しくは通学している方で、かつ代表者が20歳以上であるスポーツ団体。
休館日	毎月最終月曜日（12月にあつては、28日）、年末年始（12月29日～1月3日）

<鎌倉体育館>

施設内容	競技場（バレーボール2面、バドミントン3面、バスケットボール1面、卓球16台）、格技室（剣道、空手道、合気道、居合道、体操など）、卓球室（卓球台4台）、トレーニング室（個人利用のみ、登録が必要）、会議室（35名）、談話室
利用時間	9時～22時30分（団体利用の入っていない時間帯は、個人で利用可能）
利用料金（税込）	<p>●個人利用 競技場・格技室・卓球室・会議室（運動）</p> <p>一般 1人1回 300円/2時間、回数券（11回券）3,000円</p> <p>小学生及び中学生 1人1回 150円/2時間、回数券（11回券）1,500円</p> <p>●トレーニング室 1人1回 300円/2時間、回数券（11回券）3,000円</p> <p>※上記は市民料金、市民以外は上記金額の2倍</p> <p>●団体利用 競技場1回/2時間、利用人数により2,200円～5,000円、半面利用もあり（1,600円、2,200円）</p> <p>格技室1回/2時間、利用人数により1,300円、1,800円</p> <p>卓球室1回/2時間、利用人数により1,250円、1,600円</p> <p>会議室1回/2時間、300円、運動利用の場合は800円</p> <p>●全館貸切 15,200円</p>

<大船体育館>

施設内容	競技場（バレーボール2面、バドミントン4面、バスケットボール1面、卓球14台）、格技室（剣道、空手道、合気道、太極拳、体操、卓球）、会議室（30名）
利用時間	9時～21時（団体利用の入っていない時間帯は、個人で利用可能）
利用料金（税込）	<p>●個人利用 競技場・格技室・会議室（運動）</p> <p>一般 1人1回 300円/2時間、回数券（11回券）3,000円</p> <p>小学生及び中学生 1人1回 150円/2時間、回数券（11回券）1,500円</p> <p>※上記は市民料金、市民以外は上記金額の2倍</p> <p>●団体利用 競技場1回/2時間、利用人数により2,200円～5,000円、半面利用もあり（1,600円、2,200円）</p> <p>格技室1回/2時間 利用人数により1,250円、1,600円</p> <p>会議室1回/2時間 250円、運動利用の場合は400円</p> <p>●全館貸切 6,900円</p>

<見田記念体育館>

施設内容	体育室、多目的室
利用時間	9時～17時（団体利用の入っていない時間帯は、個人で利用可能）
利用料金（税込）	<p>●個人利用 体育室・多目的室（運動）</p> <p>一般 1人1回 300円/2時間、回数券（11回券）3,000円</p> <p>小学生及び中学生 1人1回 150円/2時間、回数券（11回券）1,500円</p> <p>※上記は市民料金、市民以外は上記金額の2倍</p> <p>●団体利用 体育室1回/2時間、利用人数により1,300円～2,500円、半面利用もあり（900円、1,300円）</p> <p>多目的室1回/2時間、利用人数により1,250円、1,400円</p>

<鎌倉武道館>

施設内容	剣道場（剣道2面、なぎなた、居合道、バドミントン4面）、柔道場（柔道2面、合気道、体操、空手道）、弓道場（6人立）、多目的室（体操、ダンス、卓球、太極拳）、会議室（洋室35名、和室35名）
利用時間	9時～21時（団体利用の入っていない時間帯は、個人で利用可能）
利用料金（税込）	<p>●個人利用 剣道場・柔道場・弓道場・多目的室・会議室（運動）</p> <p>一般 1人1回 300円/2時間、回数券（11回券）3,000円</p> <p>小学生及び中学生 1人1回 150円/2時間、回数券（11回券）1,500円</p> <p>※上記は市民料金、市民以外は上記金額の2倍</p> <p>●団体利用 剣道場1回/2時間、利用人数により2,200円～5,000円、半面利用もあり（1,600円、2,200円）</p> <p>柔道場1回/2時間、利用人数により2,200円～5,000円、半面利用もあり（1,600円、2,200円）</p> <p>弓道場1回/2時間、利用人数により2,200円～5,000円</p> <p>多目的室1回/2時間、利用人数により1,300円～3,000円、半面利用もあり（1,100円、1,300円）</p> <p>会議室1回/2時間、300円、運動利用の場合は800円、半室利用の場合はそれぞれ250円、400円</p> <p>●全館貸切 19,600円</p>

## ■プール

### <こもれび山崎温水プール>

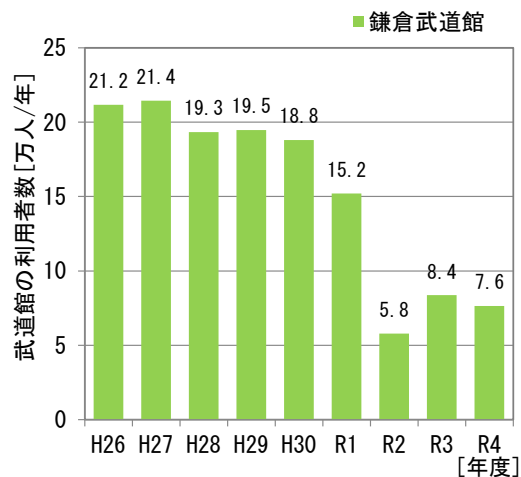
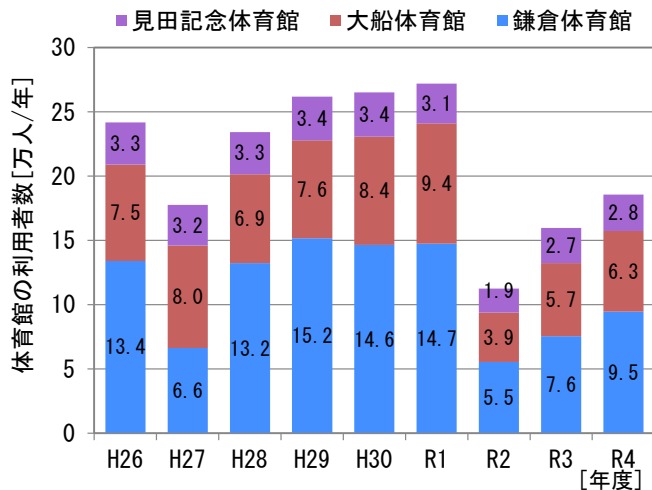
施設内容	プール (25m 幼児 ジャグジープール 採暖室)、トレーニングルーム、スタジオ			
利用時間	平日 (月～土) : 9時～22時 日・祝日 : 9時～18時			
休館日	毎週火曜日 (火曜日が祝日の時は営業)、施設メンテナンス期間、年末年始、イベント開催日等			
利用料金 (税込)		●プール	●トレーニング	●トレーニング&プール
	対象	1回券	1回券	1回券
	大人 (16歳以上)	410円	410円	800円
	こども (小学生・中学生)	210円		
	高齢者 (65歳以上)	310円	310円	600円
障がい者	210円	210円	400円	
	※未就学児、障がい児 (中学生以下の障がい児) は無料			

### <鎌倉海浜公園水泳プール (市営プール) >

施設内容	25mプール、幼児プール
開場期間、使用時間	7月1日～9月7日、9時～17時 (入場は16時30分まで)
利用料金 (税込)	一般 : 1人 300円、小学生及び中学生 : 1人 150円 /市民 一般 : 1人 600円、小学生及び中学生 : 1人 300円 /市民以外

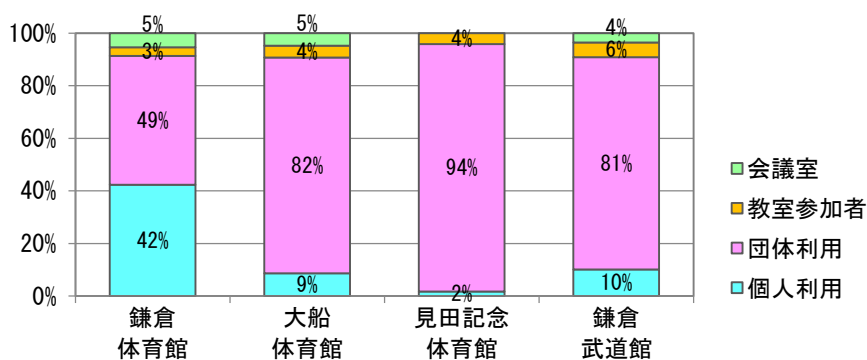
## イ 利用状況

- ・ 体育館3施設と武道館の利用者数は、平成30年度 (2018年度) までは毎年45万人前後の利用で推移していましたが、新型コロナウイルスの影響により令和2年度 (2020年度) は約17万人と利用が大きく落ち込みました。令和4年度 (2022年度) は約26万人と利用は増加に転じていますが、コロナ禍前に比べ約60%程度の利用にとどまっています。
- ・ 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から令和2年度 (2020年度) は閉場していた鎌倉海浜公園水泳プールですが、令和3年度 (2021年度) 及び令和4年度 (2022年度) は、事前予約制、定員制 (100人)、午前午後に入れ替え制という制限を付して開場しました。
- ・ 令和3年度 (2021年度) に鎌倉海浜公園水泳プールに隣接している崖地が崩落したため、それ以降、50mプールと児童用プールの2槽は閉鎖し、25mプールと幼児用プールの2槽のみの開場となっています。

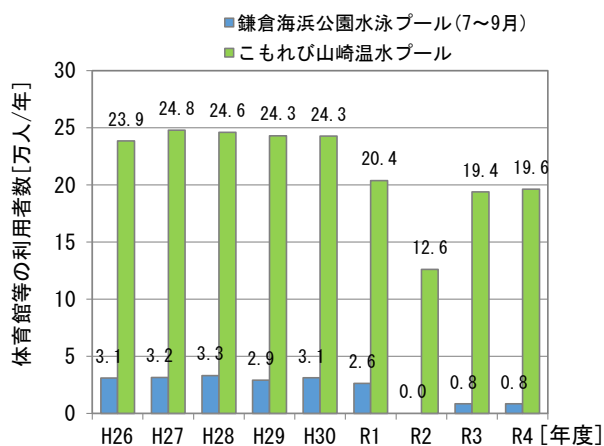


図表 体育館の利用者数の推移

図表 鎌倉武道館の利用者数の推移



図表 体育館・武道館の利用者数の内訳 (令和4年度 (2022年度))



図表 プールの利用者数の推移

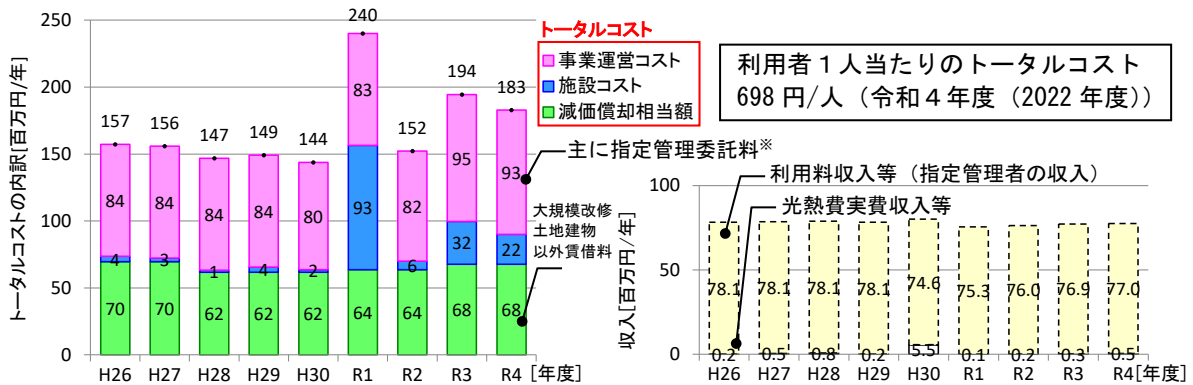
図表 こもれび山崎温水プールの利用者数の内訳 (令和4年度 (2022年度))

利用区分	利用者数
一般利用	96,077
プール利用者	70,412
トレーニング利用者	25,665
会員利用	100,115
スイミング	60,493
フィットネス	39,622
合計	196,192

## ウ コスト

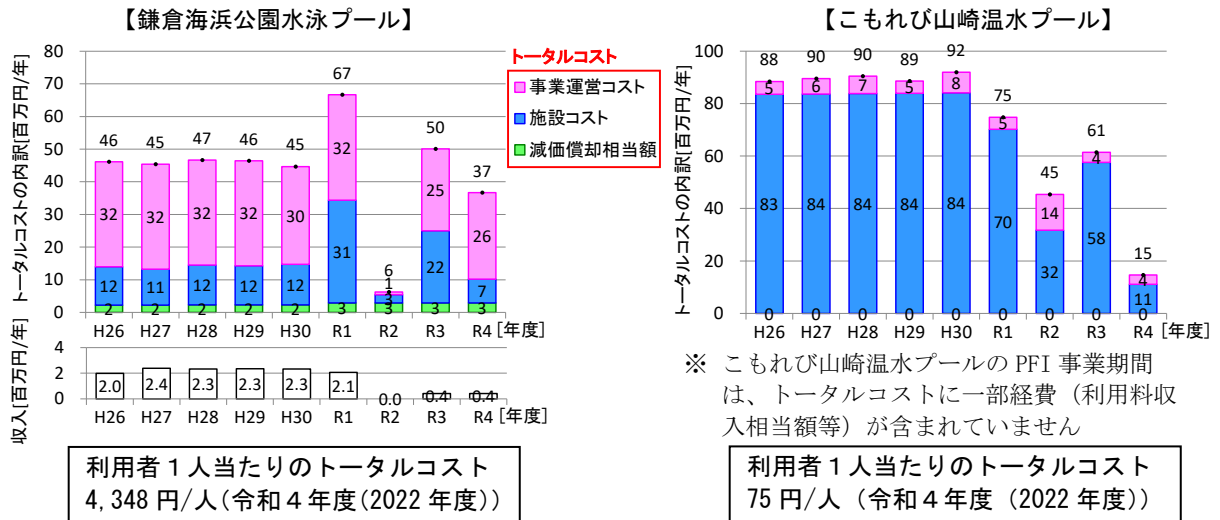
- ・ 体育館と武道館の4施設の令和4年度(2022年度)のトータルコストは183百万円であり、利用者1人当たりのトータルコストは698円です。
- ・ 鎌倉海浜公園水泳プールの令和4年度(2022年度)の利用者1人当たりのトータルコストは4,348円です。
- ・ こもれび山崎温水プールの令和4年度(2022年度)の利用者1人当たりのトータルコストは75円です。

図表 体育館・武道館のコストの経年変化と施設コストの内訳



※ 指定管理委託料は事業運営に係る経費から利用者収入相当額等を差し引いて設定されるため、トータルコストに一部経費(利用者収入相当額等)が含まれていません。

図表 鎌倉海浜公園水泳プールとこもれび山崎温水プールのコストの経年変化



※ こもれび山崎温水プールのPFI事業期間は、トータルコストに一部経費(利用者収入相当額等)が含まれていません

## エ 再編に当たっての課題

- ・ 鎌倉体育館、鎌倉海浜公園水泳プールは、津波浸水想定範囲内にあります。また、鎌倉海浜公園水泳プールは隣接の崖地の崩落により、50mプールの利用再開の目途が立っていない状況です。
- ・ 鎌倉体育館、大船体育館は老朽化が課題となっています。特に躯体の老朽化に伴う雨漏りなどの支障が出始めており、利用を継続していくためには、大規模修繕が不可欠になります。

## ⑩ 文化施設

### ア 施設概要・サービス概要

- ・文化施設として、鎌倉国宝館、鎌倉歴史文化交流館、鎌倉文学館、鎌倉芸術館、鏑木清方記念美術館及び川喜多映画記念館があります。
- ・鎌倉国宝館及び鎌倉歴史文化交流館を除き、指定管理者制度を導入しています。

#### 【鎌倉国宝館】

- ・鎌倉国宝館は、本館・新館からなる歴史・美術の博物館で、鎌倉市域、近隣の社寺に伝来する彫刻・絵画・工芸・書跡・古文書・考古資料など、さまざまな文化財を保管・展示している博物館法に基づく登録博物館です。
- ・本館建物は、昭和3年（1928年）に開設された展示場・収蔵庫からなる建物で、平成12年（2000年）に国の登録有形文化財に登録されました。新館は昭和58年（1983年）に開設した収蔵庫・事務室等を備えた建物です。

#### 【鎌倉歴史文化交流館】

- ・鎌倉歴史文化交流館は、鎌倉で発掘された出土品をメインに、原始・古代から近現代に至る鎌倉の歴史を紹介する施設です。
- ・建物は、本市に寄贈されたもので、世界的に著名な建築家ノーマン・フォスター氏の設計事務所（フォスター＋パートナーズ）が手がけた個人住宅をリノベーションし、平成29年（2017年）5月に開館した博物館です。
- ・近接する扇ガ谷一丁目用地に、博物館機能を充実させる施設の整備を検討しています。

#### 【鎌倉文学館】

- ・鎌倉文学館は、鎌倉ゆかりの文学者の直筆原稿や手紙、愛用品などの収集・保存と展示を行っている施設です。
- ・建物は旧前田侯爵家の別邸が本市に寄贈されたもので、平成12年（2000年）に国の登録有形文化財に登録されています。昭和60年（1985年）の開館に伴って別棟で収蔵庫・便所棟・券売所を整備しています。
- ・大規模改修のため、令和5年度（2023年度）から令和8年度（2026年度）まで閉館予定です。

#### 【鎌倉芸術館】

- ・鎌倉芸術館は、1,500席の大ホールと600席の小ホールなど、本格的なホールを持つ文化施設です。ホールのほか、ギャラリーやスタジオ、練習室、会議室が利用でき、さまざまなジャンルの事業も開催されています。
- ・市内で最も規模が大きい公共施設（供給処理施設を除く）ですが、近隣市も含め、県内に類似の施設が多くあります。
- ・鎌倉芸術館の敷地は借地です。

#### 【鏑木清方記念美術館】

- ・鏑木清方記念美術館は、近代日本画の巨匠鏑木清方画伯の美術作品・資料と土地建物が寄贈されたことを受けて開館した記念美術館で、収蔵品の展示や講演会などを開催しています。
- ・小規模な施設で、小町通りから近い、観光客の多いエリアに位置しています。

### 【川喜多映画記念館】

・川喜多映画記念館は、映画の発展に大きく貢献した川喜多長政・か시코夫妻の旧宅跡に建てられた施設で、映画資料の展示、上映をはじめ、講座・講演会やワークショップなどを開催しています。



図表 文化施設の配置

図表 文化施設の概要

名称	延床面積	建築年度	耐震化状況	津波想定	備考
鎌倉国宝館	2,271 m <sup>2</sup>	昭和3	改修済	-	登録有形文化財・登録博物館
鎌倉文学館	1,445 m <sup>2</sup>	昭和11	改修済	-	登録有形文化財
鎌倉芸術館	21,510 m <sup>2</sup>	平成5	-	-	借地
鍋木清方記念美術館	470 m <sup>2</sup>	平成9	-	-	-
川喜多映画記念館	390 m <sup>2</sup>	平成21	-	-	-
鎌倉歴史文化交流館	1,388 m <sup>2</sup>	平成16	-	-	平成29年(2017年)5月15日開館
合計	27,472 m <sup>2</sup>	-	-	-	-

図表 国宝館、文学館、美術館、記念館及び交流館の開館時間と観覧料

施設名	開館時間	観覧料 <sup>※1</sup> (円)	
		一般	小・中学生
鎌倉国宝館	9時～16時30分	400(300)～700(600)	150(100)～300(200)
鎌倉文学館	3月～9月 9時～17時	収蔵品展 特別展	収蔵品展 特別展
	10月～2月 9時～16時30分	300(210)～500(350)	100(50)～200(140)
鍋木清方記念美術館	9時～17時	企画展 特別展	企画展 特別展
		300(210)～450(310)	150(100)～220(150)
川喜多映画記念館	9時～17時	通常展 特別展	通常展 特別展
		200(140)～400(280)	100(70)～200(140)
鎌倉歴史文化交流館	10時～16時	400(300)	150(100)

※1 展覧会ごとに観覧料が異なる。( )内は20名以上団体料金。

※2 休館日は月曜日(祝日・休日の場合は翌平日)、展示替期間、特別整理期間、年末年始等。なお、鎌倉歴史文化交流館の休館日は日曜日・祝日・休日、年末年始、展示替・燻蒸期間。

※3 鎌倉市に通学している小学生から大学生及び市内在住者は観覧料無料。

図表 鎌倉芸術館のスペースと利用料金

開館時間	9時～22時(午前 9時～12時、午後 13時～17時、夜間 18時～22時)
休館日	年末年始、臨時休館日

■大ホール

施設名	時間区分と利用料(円)				備考
	午前	午後	夜間	全日	
大ホール (1,500席)	39,180	69,140	88,730	197,050	平日
	53,010	93,340	121,000	267,350	土・日・休日
楽屋1、2	460	920	1,150	2,530	13.9 m <sup>2</sup>
楽屋3	690	1,270	1,730	3,690	35.2 m <sup>2</sup>
楽屋4	1,030	1,840	2,300	5,170	48.9 m <sup>2</sup>
楽屋5	1,380	2,420	3,100	6,900	64 m <sup>2</sup>
楽屋事務室	330	580	810	1,720	11.3 m <sup>2</sup>
主催者控室	460	690	920	2,070	19.3 m <sup>2</sup>

■小ホール

施設名	時間区分と利用料(円)				備考
	午前	午後	夜間	全日	
小ホール (600席)	16,130	27,650	34,560	78,340	平日
	21,890	36,880	48,400	107,170	土・日・休日
楽屋1	460	920	1,150	2,530	14.2 m <sup>2</sup>
楽屋2	580	1,030	1,380	2,990	28.7 m <sup>2</sup>
楽屋3	1,030	1,730	2,180	4,940	46.4 m <sup>2</sup>
楽屋4	1,270	2,180	2,880	6,330	59.2 m <sup>2</sup>
楽屋事務室	330	580	810	1,720	11.6 m <sup>2</sup>
主催者控室	220	460	690	1,370	12.7 m <sup>2</sup>

■ギャラリー

施設名	利用料(円)	備考
	全日	
ギャラリー1	19,580	面積 202.8 m <sup>2</sup>
ギャラリー2	12,680	面積 125.6 m <sup>2</sup>
ギャラリー3	9,210	面積 72 m <sup>2</sup>
ギャラリー主催者控室	2,530	

■その他練習室や会議室

施設名	時間区分と利用料(円)				備考
	午前	午後	夜間	全日	
練習室1	1,150	1,730	2,880	5,760	51 m <sup>2</sup>
練習室2	920	1,150	1,380	3,450	26 m <sup>2</sup>
スタジオ	1,150	1,730	1,730	4,610	25 m <sup>2</sup>
リハーサル室	4,610	6,330	7,480	18,420	156 m <sup>2</sup>
会議室1	3,450	4,610	5,760	13,820	91 m <sup>2</sup>
会議室2	2,300	2,880	2,880	8,060	53 m <sup>2</sup>
集会室	8,060	9,210	11,510	28,780	203 m <sup>2</sup>
和室	2,880	3,450	4,030	10,360	20畳

※ 料金を設定する催し物や、物品販売・商業宣伝等のために使用する場合は、基本使用料に別途加算がされる。

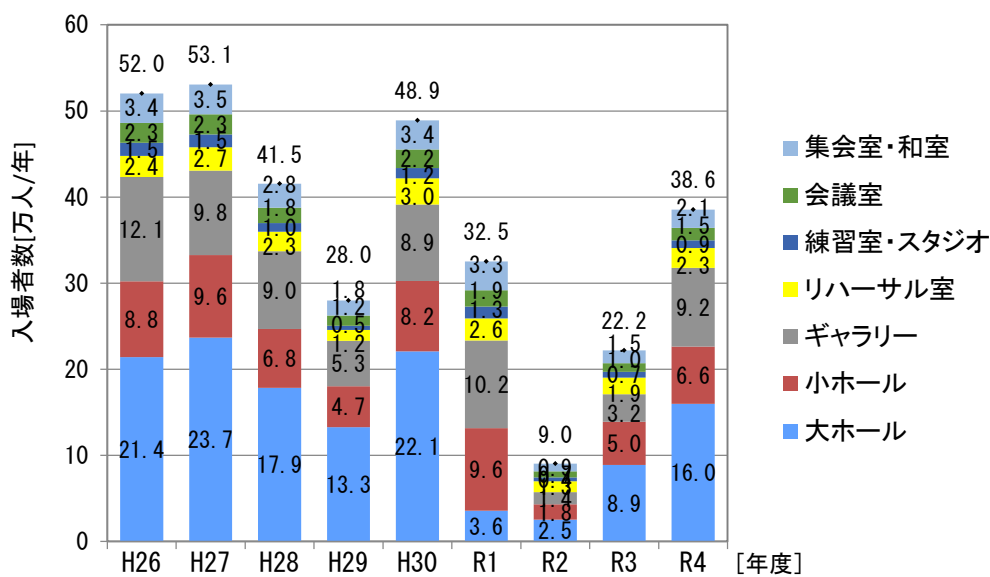
## イ 利用状況

### 【鎌倉芸術館】

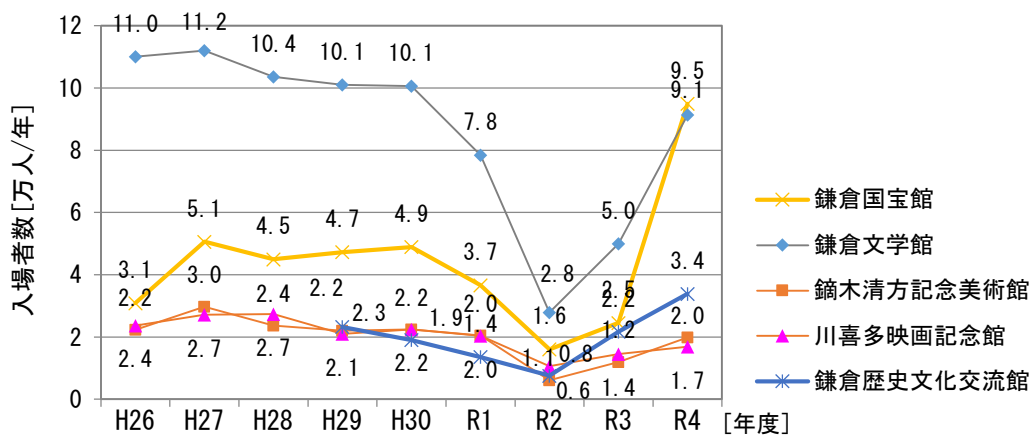
- ・鎌倉芸術館の年間入場者数は、平成26年度（2014年度）以降は減少傾向にあります。新型コロナウイルス感染症の影響による利用制限があった令和2年度（2020年度）を除き、おおむね20万人～50万人程度で推移しています。令和4年度（2022年度）の入場者数の内訳をみると、大ホールが約16.0万人、小ホールが約6.6万人となっています。

### 【鎌倉文学館等】

- ・令和4年度（2022年度）の鎌倉文学館等の年間入場者数は、鎌倉文学館が約9.1万人、国宝館が約9.5万人、鏑木清方記念美術館が約2.0万人、川喜多映画記念館が約1.7万人、鎌倉歴史文化交流館が約3.4万人となっています。



図表 鎌倉芸術館の入場者数の推移



図表 鎌倉文学館等の入場者数の推移

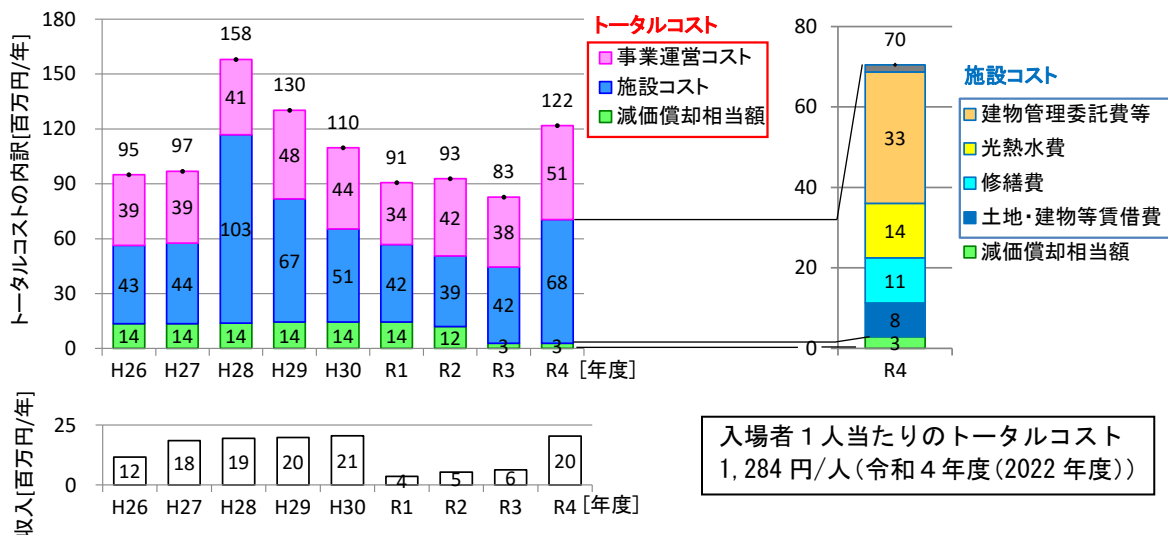


## ウ コスト

### 【鎌倉国宝館】

- ・鎌倉国宝館の令和4年度（2022年度）のトータルコストは122百万円で、入場者1人当たりのトータルコストは1,284円となっています。

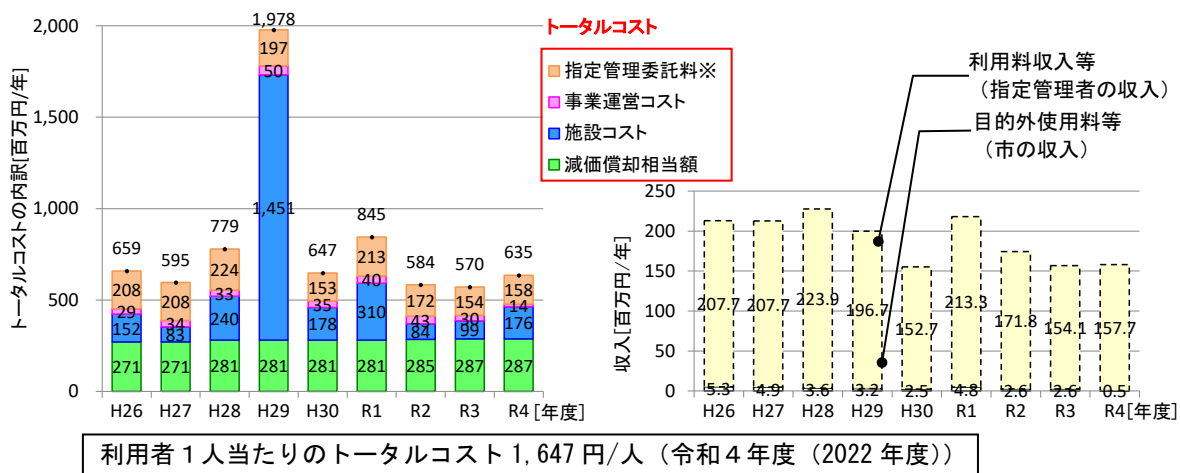
図表 鎌倉国宝館のコストの経年変化と施設コストの内訳（令和4年度（2022年度））



### 【鎌倉芸術館】

- ・鎌倉芸術館は指定管理者制度を導入し、運営を行っています。
- ・鎌倉芸術館のトータルコストは年間約600百万円で推移していますが、平成29年度（2017年度）は改修工事のため施設コストが多くなっています。
- ・令和4年度（2022年度）の利用者1人当たりのトータルコストは1,647円です。

図表 鎌倉芸術館のコストの経年変化と施設コストの内訳



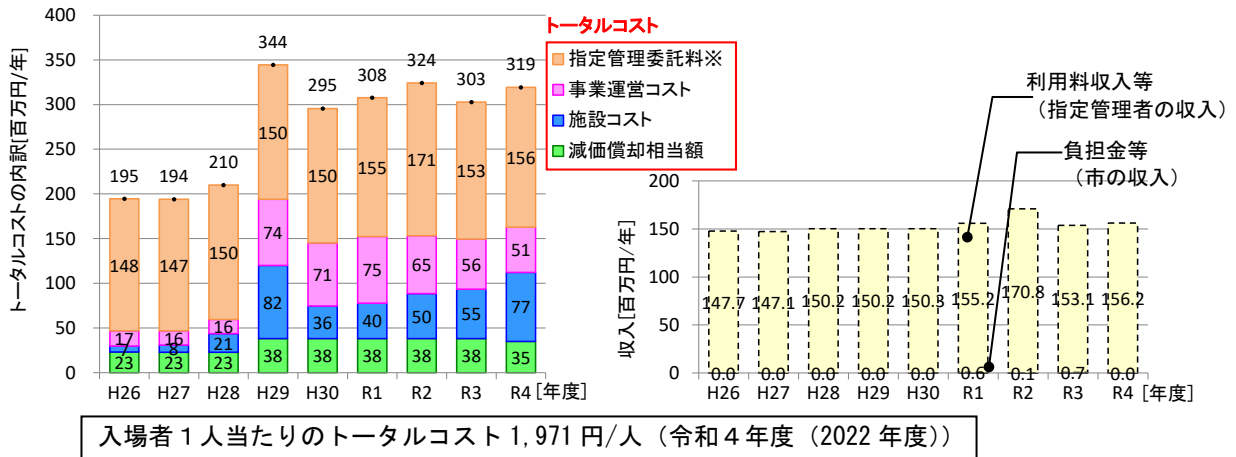
※1 指定管理委託料に建物管理、光熱水費等が含まれます。

※2 指定管理委託料は事業運営に係る経費から利用料収入相当額等を差し引いて設定されるため、トータルコストに一部経費（利用料収入相当額等）が含まれていません。

## 【その他の文化施設】

- ・鎌倉文学館、鍋木清方記念美術館及び川喜多映画記念館は、指定管理者制度を導入し運営を行っています。
- ・4施設の令和4年度（2022年度）のトータルコストは319百万円で、入場者1人当たりのトータルコストは1,971円です。

図表 鎌倉文学館、鍋木清方記念美術館、川喜多映画記念館のコストの経年変化



- ※1 指定管理委託料に建物管理、光熱水費等が含まれます。
- ※2 指定管理委託料は事業運営に係る経費から利用料収入相当額等を差し引いて設定されるため、トータルコストに一部経費（利用料収入相当額等）が含まれていません。

## エ 再編に当たっての課題と関係する計画等

### 【鎌倉国宝館、鎌倉文学館】

- ・いずれも国の登録有形文化財に登録されている重要な施設であるため、管理運営形態の見直しなどによるコスト削減を行う必要があります。

### 【鎌倉芸術館】

- ・敷地が借地であることなどから、コスト面の課題があります。
- ・建設時に最高クラスの設備等が採用されていますが、機能をそれほど低下させずに、経費を抑えた汎用性のある仕様とするためには、専門的知識が必要な点も課題となっています。
- ・芸術文化の鑑賞等の場である性質から、広域的に利用される施設となっているため、利用料の見直しなどの検討が必要です。

図表 県内の1,500席以上のホール及び隣接市の1,300席以上のホール一覧

施設名	所在	収容人数	建築年
神奈川県民ホール	横浜市中区	2,493人	昭和50年(1975年)
横浜みなとみらいホール	横浜市西区	2,020人	平成9年(1997年)
川崎市スポーツ・文化総合センター	川崎市川崎区	2,013人	平成29年(2017年)
横須賀芸術劇場	横須賀市	2,000人	平成6年(1994年)
ミュージア川崎シンフォニーホール	川崎市幸区	1,997人	平成16年(2004年)
相模女子大グリーンホール	相模原市南区	1,790人	平成2年(1990年)
鎌倉芸術館	鎌倉市	1,500人	平成5年(1993年)
藤沢市民会館	藤沢市	1,380人	昭和43年(1968年)

## ⑪ 市営住宅

### ア 施設概要

- ・市営住宅は、市有の6施設（535戸）と民間借上げ型の4施設（95戸）があります。
- ・市営住宅（市有）の6施設のうち諏訪ヶ谷ハイツを除く5施設は、築50年以上が経過し、老朽化が進んでいます。
- ・諏訪ヶ谷ハイツや市営住宅（借上げ型）の4施設は、築30年以内で高齢者や身体障害者世帯向けなどバリアフリーに配慮した住宅となっています。
- ・市営住宅（市有）の6施設については、2箇所程度に集約化して整備する予定です。

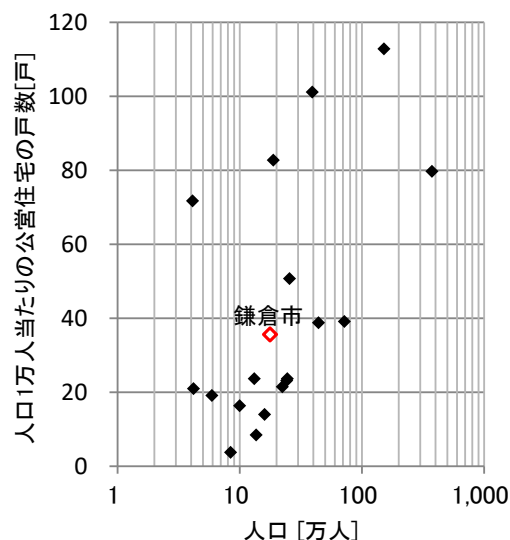
図表 市営住宅の施設概要（1）

	名称	延床面積	建築年度	耐震化状況	津波想定	備考
市有	深沢住宅	7,169㎡	昭和35～54	診断未実施	-	19棟、2・4・5階建
	笛田住宅	2,929㎡	昭和39～40	診断未実施	-	13棟、2階建
	梶原住宅	2,359㎡	昭和42～43	診断未実施（一部）※	-	3棟、2・4階建
	梶原東住宅	5,538㎡	昭和44～52	診断未実施（一部）※	-	6棟、4・5階建
	岡本住宅	5,023㎡	昭和45～48	診断未実施	-	5棟、4・5階建
	諏訪ヶ谷ハイツ	3,258㎡	平成8	-	-	4棟、3階建
	小計（6施設）	26,276㎡	-	-	-	-
借上げ型	ベネッセレ湘南深沢	1,315㎡	平成9	-	-	1棟、5階建
	笛田ロイヤルハイツ	835㎡	平成10	-	-	1棟、2階建
	深沢セントラルハイツ	1,361㎡	平成11	-	-	1棟、4階建
	レーベンスガルテン山崎	2,325㎡	平成13	-	-	一部（1棟、7階建）を借上げ
	小計（4施設）	5,836㎡	-	-	-	-
合計	32,112㎡	-	-	-	-	-

※ 耐震診断を実施済の一部の棟は、基準を満たしているため改修不要

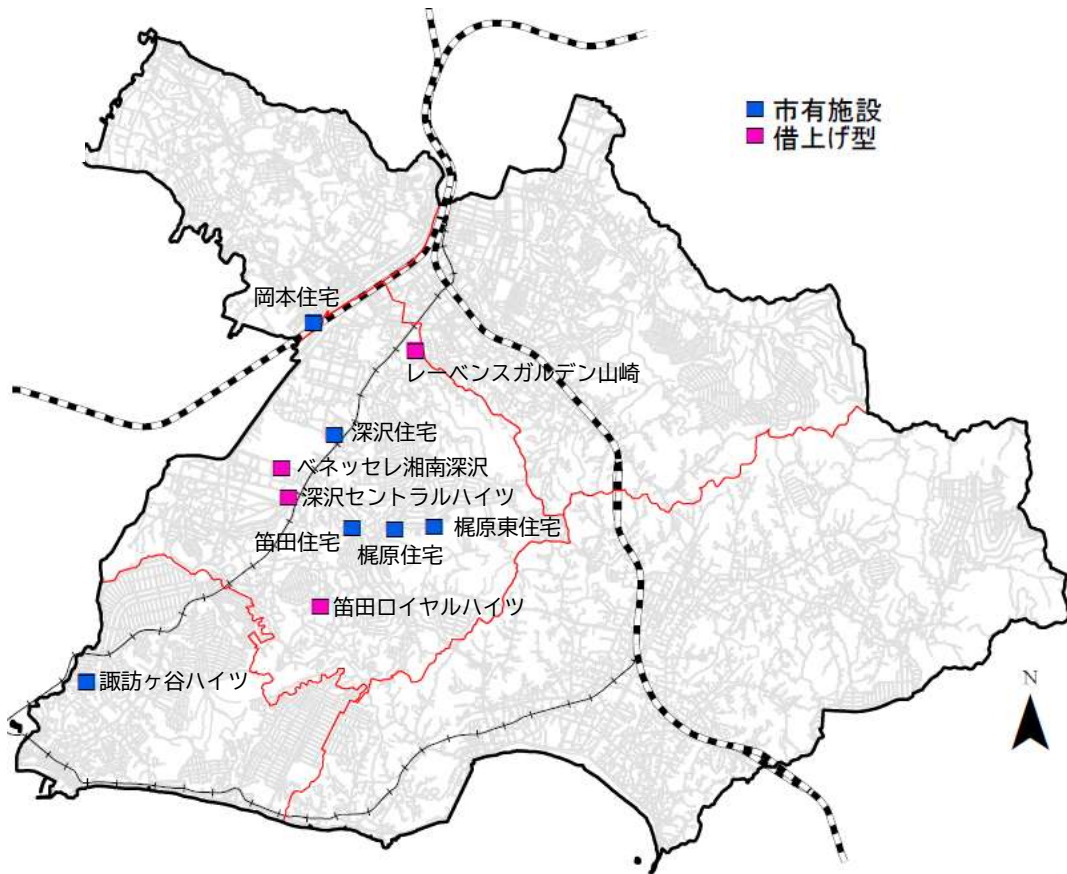
図表 市営住宅の施設概要（2）

	名称	住戸数	間取り
市有	深沢住宅	142戸	3K・2DK・3DK
	笛田住宅	70戸	2DK
	梶原住宅	56戸	2K・3DK
	梶原東住宅	116戸	2K・3DK
	岡本住宅	100戸	3DK
	諏訪ヶ谷ハイツ	51戸	1DK・2DK・3DK
	小計（6施設）	535戸	
借上げ型	ベネッセレ湘南深沢	22戸	1DK・2DK
	笛田ロイヤルハイツ	17戸	1DK・2DK
	深沢セントラルハイツ	24戸	1DK・2DK
	レーベンスガルテン山崎	32戸	1DK・2DK
	小計（4施設）	95戸	
合計	630戸		



図表 県内市の人口と公営住宅戸数の関係

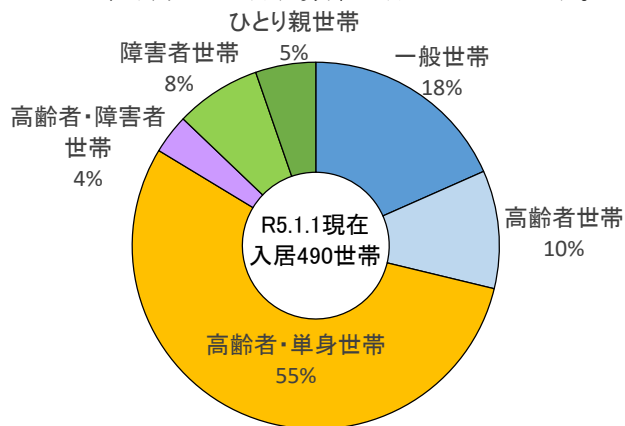
出典：市町村公共施設状況調査（令和3年度（2021年度））をもとに作成



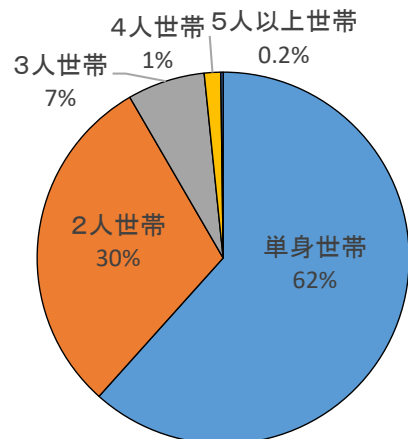
図表 市営住宅の配置

## イ 利用状況

- 市営住宅 630 戸の入居率は約 78%（令和 5 年（2023 年）1 月 1 日時点）となっており、毎年約 15 戸の空室募集に対し、100 人以上からの申込みがあります。
- 市営住宅（市有）の 6 施設のうち諏訪ヶ谷ハイツを除く 5 施設では、2K から 3DK が多くなっていますが、入居世帯の約 55%（令和 5 年（2022 年）1 月 1 日時点）を高齢者単身世帯が占めています。
- 深沢住宅、菅田住宅、梶原住宅にある簡易耐火構造 2 階住宅については、特に老朽化が著しいため、新規の入居者募集を停止しています。



図表 市営住宅の世帯種別件数

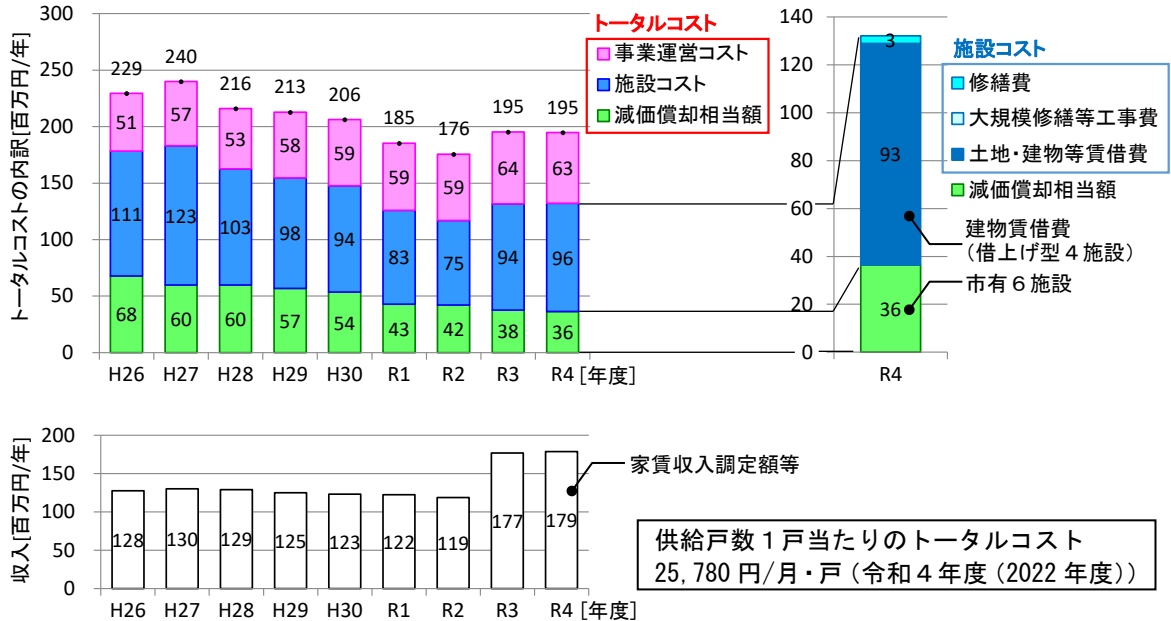


図表 市営住宅の入居世帯人員

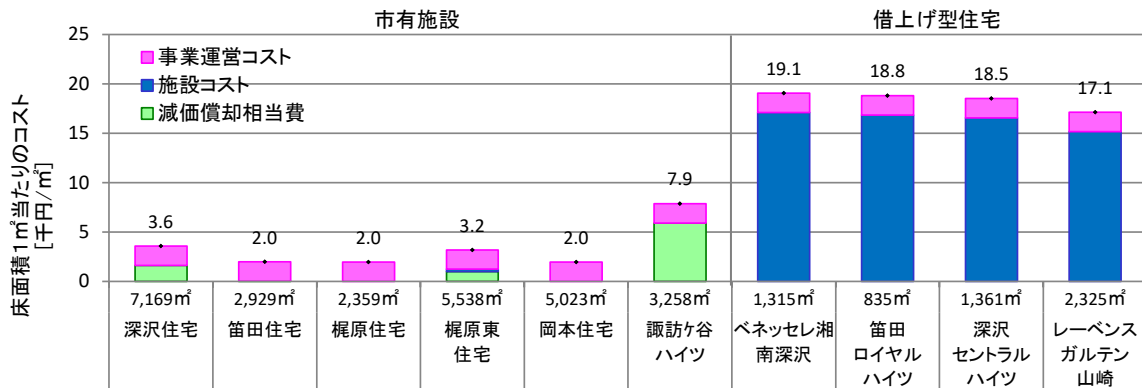
## ウ コスト

- ・市営住宅の運営管理については、平成 23 年度（2011 年度）から指定管理者制度を導入しています。
- ・市営住宅（市有 6 施設と借上げ型 4 施設）の令和 4 年度（2022 年度）のトータルコストは 195 百万円で、供給戸数 1 戸当たりのトータルコストは月当たり 25,780 円です。
- ・床面積 1 ㎡当たりのトータルコストは、借上げ型住宅の方が大きくなっています。

図表 市営住宅のコストの経年変化と施設コストの内訳（令和 4 年度（2022 年度））



図表 市営住宅の床面積 1 ㎡当たりのコスト (令和 4 年度 (2022 年度))



## エ 再編に当たっての課題

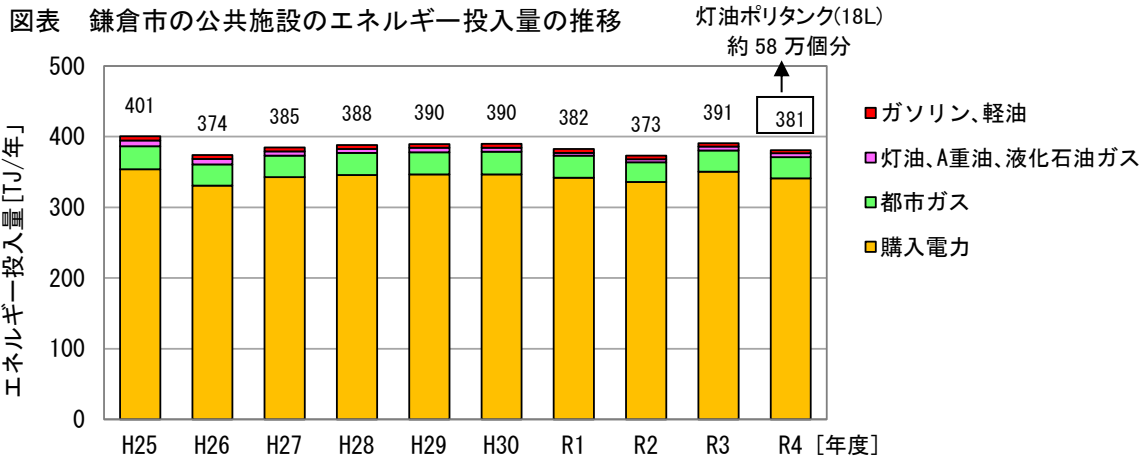
- ・各施設の敷地内には複数の建物がありますが、2階建てから5階建ての小規模な建物が多く、建替え等に当たっては、敷地の有効活用が求められます。
- ・提供している間取り（2K から 3DK）と入居者の世帯構成（単身世帯が約 60%）にミスマッチが生じており、建替え等に当たっては、入居者の世帯構成を考慮した面積・間取りの検討が必要となります。
- ・本市の総人口は昭和 62 年（1987 年）をピークに減少しましたが、平成 14 年（2002 年）から人口増加が続き、緩やかな減少にとどまっています。今後は、団塊ジュニア世代が 65 歳以上になる令和 22 年（2040 年）を過ぎた令和 27 年（2045 年）頃まで、高齢者の人口増加が見込まれ、高齢者世帯向け住宅のニーズが更に高まってくるものと考えられます。
- ・借上げの 4 施設は、所有者の変更等により借り続けることができなくなる可能性があり、その場合、入居者の移転先となる住宅を確保する必要があります。

### (5) 公共施設等におけるエネルギー消費

本市の公共施設等（供給処理施設を含む）に投入された令和4年度（2022年度）のエネルギーは、年間381 TJ<sup>\*11</sup>（百万MJ）で、購入電力が全体の約90%を占めています。

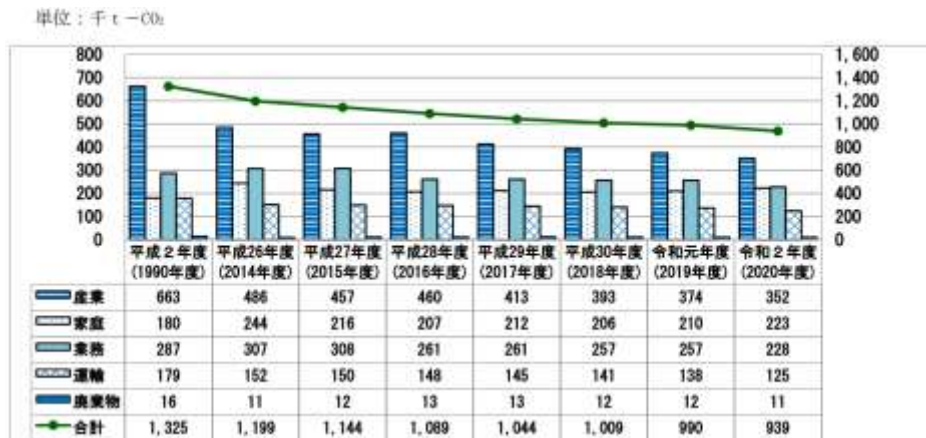
また、鎌倉市の部門別二酸化炭素排出量は、平成2年度（1990年度）以降減少傾向にあり、令和2年度（2020年度）では939千t-CO<sub>2</sub>となっています。

再生可能エネルギー等については、名越クリーンセンターにおける廃棄物エネルギーの導入の他、新設の施設を中心に太陽光発電、太陽熱利用のための設備を導入しています。



出典：「鎌倉市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）資料編」を基に作成

図表 鎌倉市の部門別二酸化炭素排出量の推移



出典：「令和4年度版 かまくら環境白書 P. 3」

図表 公共施設における再生可能エネルギー等の導入状況（令和3年度（2021年度）時点）

	主な導入施設
廃棄物エネルギー	名越クリーンセンター（施設内給湯）
太陽光発電	鎌倉中央公園（18W）、諏訪ヶ谷ハイツ（90W）、笛田リサイクルセンター（18kw）、たまなわ交流センター（9kw）、深沢中学校（10kw）、腰越なごやかセンター（90W）、防災備蓄倉庫（約60W）、第二中学校（3.34kw）、第一子ども会館・だいいち子どもの家（2.16kw）、植木小学校（42.90kw）、小坂小学校（42.12kw）、岩瀬中学校（51.184kw）、手広中学校（81.12kw）、大船中学校（37.8kw）、由比ガ浜こどもセンター（5.4kw）
太陽熱利用（給湯）	今泉さわやかセンター
太陽熱利用（給湯・暖房）	笛田リサイクルセンター
太陽熱利用（暖房）	御成小学校
太陽光発電設備・蓄電池	玉縄行政センター（10kW・10kW）

出典：「令和4年度版 かまくら環境白書 P. 79～81」をもとに作成

\*11 J(ジュール)：エネルギー、熱量、仕事をあらわす単位。MJ(メガジュール)は10<sup>6</sup>J、TJ(テラジュール)は10<sup>12</sup>J

(6) 今後の施設の建替え・改修にかかるコスト

① 将来の更新コスト<sup>\*12</sup>

本市の公共施設は、都市化が急速に進んだ昭和40年代から60年代にかけて建設された施設が多く、建物の安全性の確保、大規模改修、建替え等に、今後、莫大なコストを要することが予測されます。

また、当初計画策定時に保有していた公共施設すべてを保有し続けた場合、令和15年度(2033年度)には、築30年を経過する建物が全体の約95%に増加し、施設環境が更に悪化することになります。

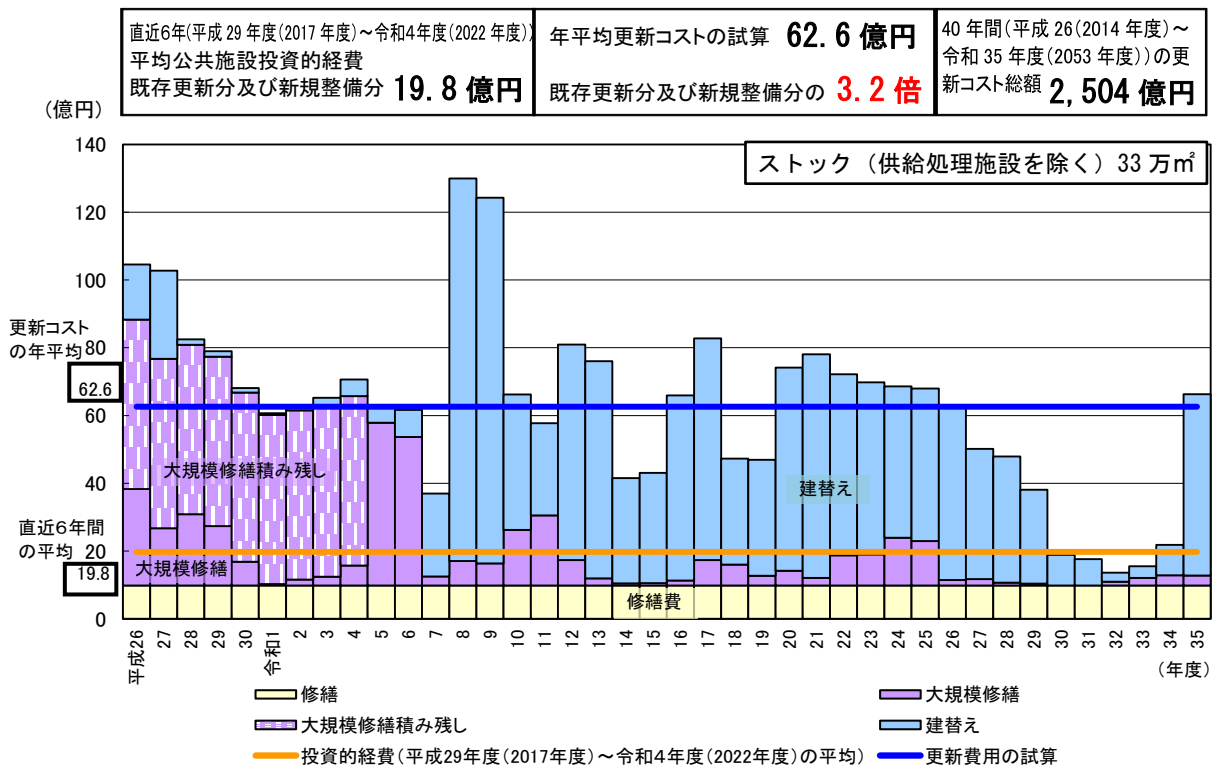
本改訂では、当初計画策定時において試算した公共施設の将来負担予測コストを、現時点のデータに基づき改めて試算しました。

期間は今後40年間(平成26年度(2014年度)～令和35年度(2053年度))とし、本計画の対象外である供給処理施設(廃棄物施設と下水道処理施設)の建物を除いたコストを試算しました。

その結果、将来負担予測コストは、建設コストの上昇等の影響を受けたこともあり、当初計画策定時から上昇し約2,504億円となり、直近6年間(平成29年度(2017年度)～令和4年度(2022年度))の投資的経費の平均(19.8億円/年)を大きく上回る62.6億円/年(約3.2倍)となり、現状の財政状況では、すべての施設の改修や建替えの実施が困難であることが明確となりました。

【将来の更新コスト試算】

今後40年間に必要な更新コストは、約2,504億円(年平均約62.6億円)となります。



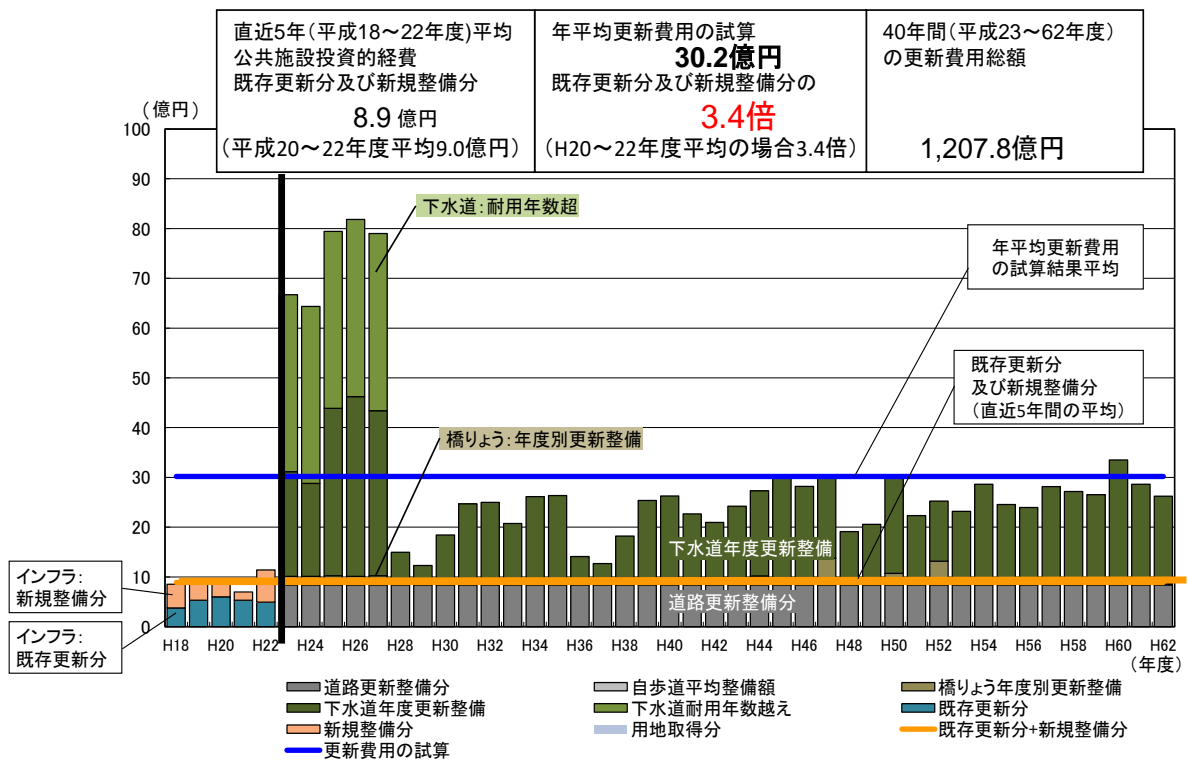
図表 公共施設(建築物)の将来の更新コスト試算(平成26年度(2014年度)を基準として試算)

<sup>\*12</sup> 更新コスト：建物を維持していくために必要な費用のことで、軽微な補修等の修繕費や用途転換等も可能な大規模改修、建替えなど施設の更新に要する費用のこと。

## ② インフラを含めた将来の更新コストの試算

公共施設の更新問題を考えるに当たっては、建物のみならず、インフラ等（道路、橋りょう、下水道等）の維持管理についても考慮する必要があり、公共施設再編計画基本方針（平成25年（2013年）4月）では、インフラ等の将来の更新コストを試算しています。

将来のインフラ等のあり方については、平成26年度（2014年度）から社会基盤施設白書、維持管理基本方針策定に向けた検討が進められており、公共施設等総合管理計画の策定の際には、インフラも含めた将来の更新コストとして整合を図る必要があります。



図表 インフラ等（道路・橋りょう・下水道等）の将来の更新コスト試算《参考》

（平成23年度（2011年度）を基準として試算）

出典：鎌倉市公共施設白書（平成24年（2012年）3月）



## 2-3 公共施設についての課題

市の概況	人口動向	財政状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>市の中心部から都心までは約 50km、横浜からは約 20km という交通環境にある。</li> <li>市域 39.66km<sup>2</sup>のうち、第一種低層住居専用地域が市域の約 33%を占めている。</li> <li>歴史的風土保存区域が市域の約 25%を占めている。</li> <li>五つの行政地域に分かれている。</li> <li>津波浸水想定範囲の中に複数の公共施設が含まれている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和 4 年（2022 年）4 月時点の総人口は 17.2 万人で、人口のピークである昭和 62 年（1987 年）の 2.2%減となっている。</li> <li>少子高齢化が進み、令和 2 年（2020 年）と令和 42 年（2060 年）の推計結果を比較すると、高齢者人口の割合は 31.1%から 39.4%へ増加、年少人口の割合は 11.4%から 10.2%に減少することが予測されている。</li> <li>行政地域別の人口動向では、地域別に減少傾向は異なる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和 4 年度（2022 年度）の歳入は約 749 億円、歳出は約 706 億円であり、令和 2 年度（2020 年度）を除き、ほぼ同程度を維持している。</li> <li>歳出の内訳では、扶助費が平成 13 年度（2001 年度）と比べ約 4.3 倍となっている。</li> <li>公共施設の整備や修繕を行うための投資的経費は、平成 21 年度（2009 年度）を除き、過去 22 年間でおおむね 26 億円～77 億円で推移している。</li> <li>扶助費の増加傾向等を勘案すると、投資的経費の拡充は困難であると考えられる。</li> </ul>

### 市が保有する公共施設の状況

#### ■市が保有する建物

・本市では、総延床面積約 34.2 万 m<sup>2</sup>の公共施設（供給処理施設を除く）を保有しており、市民 1 人当たりの床面積で約 2.0 m<sup>2</sup>となっている。

#### ■施設の耐震化及び劣化の状況

・昭和 56 年（1981 年）以前の旧耐震基準施設が全体の約 62%となっており、老朽化が進行した施設が多く、耐震化が必要な建物も残されている。  
 ・劣化の進行が懸念される施設もあり、適切な修繕が求められる。

#### ■今後の施設の建替え・改修にかかるコスト

・今後 40 年間に公共施設の建替えや大規模改修に必要なコストは、総額で約 2,504 億円（年平均約 62.6 億円：供給処理施設を除く）となることが見込まれており、直近 6 年間（平成 29 年度（2017 年度）～令和 4 年度（2022 年度））の公共施設の投資的経費の平均の約 3.2 倍の更新コストが必要になる。  
 ・インフラ等の更新コストも含めると、財源確保がいっそう困難になることが見込まれる。

### 公共施設の課題

#### ■公共施設の配置と規模の見直し

・今後の人口減少や少子高齢化の進行、公共サービスへのニーズ、社会情勢の変化（技術開発、民間サービスの普及状況）を踏まえ、公共サービスのあり方も含めた公共施設の配置と規模の見直しが必要となっている。

#### ■公共施設の更新コスト等の大幅な削減

・公共施設の更新コスト等の大幅な増加が予測されるが、投資的経費の拡充は困難な状況であり、配置と規模の見直しの他、施設の長寿命化や民間事業者等との連携を勘案したコスト縮減方策の採用などが必要となっている。  
 ・施設整備（建替え等）においてはイニシャルコスト<sup>\*13</sup>のみ重視されていたが、ライフサイクルコスト<sup>\*14</sup>も勘案した保有の考え方が必要と考えられる。

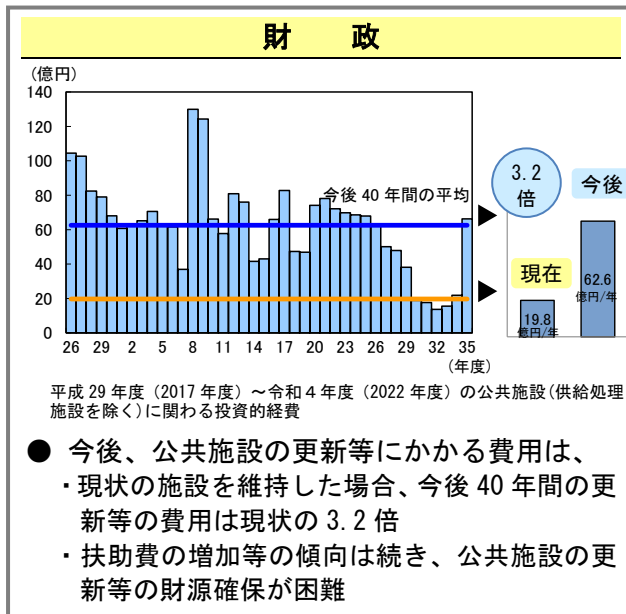
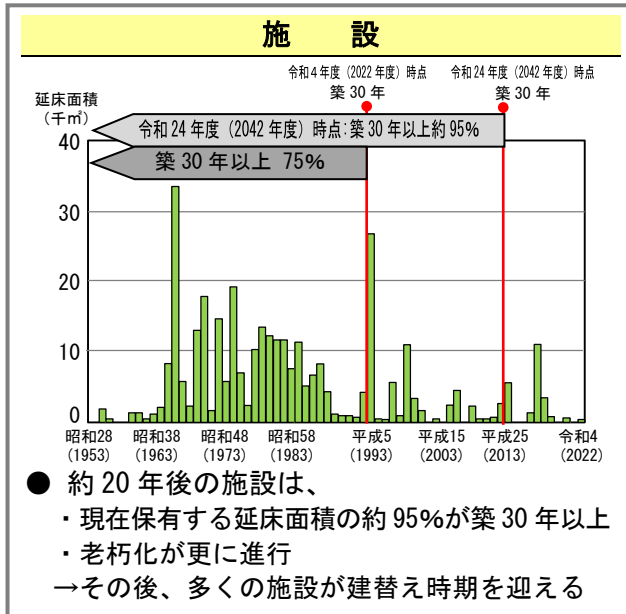
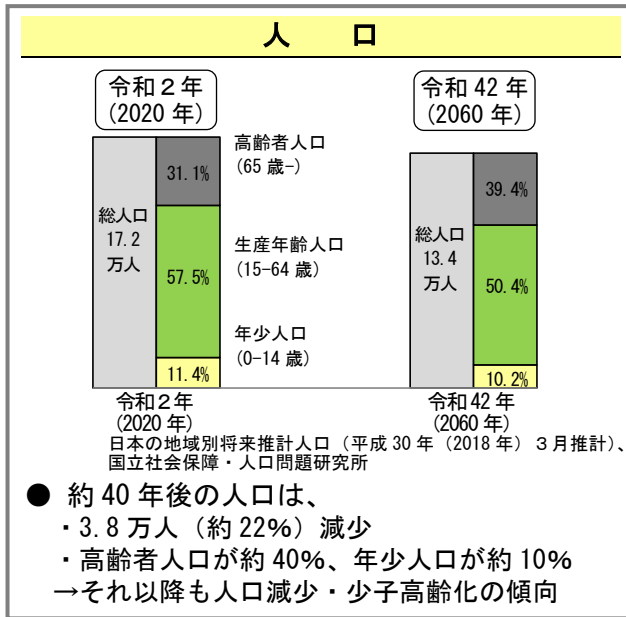
#### ■公共施設の適切な維持管理と体制

・財政の制約等から対症的に修繕等を行ってきたことから、劣化の進行が著しい施設があり、予防保全への移行と、公共施設全体でみた修繕計画と予算配分の優先順位の設定が必要である。  
 ・各施設担当者が個別に施設整備、管理を行っており、公共施設全体の総合的な整備、維持管理に向けた体制整備が必要となっている。

\*13 イニシャルコスト：新規に整備する際に必要となる費用。

\*14 ライフサイクルコスト：管理運営に係る費用。

図表 現状と課題のまとめ



このままでは・・・

財源不足のため、

すべての施設を更新することができず、施設の数減らさなくてはならない。

あるいは、

必要な修繕を行うことができず、安心して使用できなくなる。

もしくは、

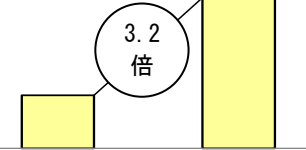
公共施設についての一人当たりの負担を増やさなければならない。

例えば

現在の施設の保有量を維持した場合



一人当たりの負担額

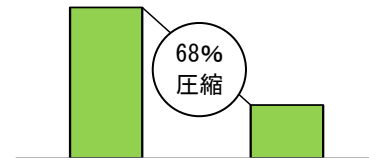


あるいは

現状の投資的経費を維持した場合

平成29年度 (2017年度) ~ 令和4年度 (2022年度) の投資的経費の平均 19.8 億円/年

公共施設の延床面積



どちらも現実的ではありません。

そのための課題解決に向けた方針と方法を3章以降に示します。